敦賀発電所2号炉
敷地の地形，地質・地質構造について
参考資料3
ボーリング柱状図・コア写真

平成30年11月30日
日本原子力発電株式会社

余白

目　次（参考資料3　ボーリング柱状図・コア写真）

破砕帯名	ボーリング孔名	頁
Ｄ－１	H24-D1-2	参考3-　5
	H24-D1-3	参考3- 11
	H24-D1-4	参考3- 19
	H24-D1-5	参考3- 29
	H27-B-3	参考3- 37
	H27-B-4	参考3- 55
	H19-No.2	参考3- 71
	H19-No.14	参考3- 95
	H20-②-1	参考3-113
	H24-B14-2	参考3-123
	H24-D1-1	参考3-139
	H27-B-1	参考3-151
	H27-B-2	参考3-167
Ｄ－６	H19-No.4	参考3-185
	H19-No.12	参考3-213
	H24-B11-2	参考3-241
	H24-B8-22	参考3-257
Ｄ－５	H20-①-9	参考3-281
	H24-B11-1	参考3-291
	H24-B8-21	参考3-309
	H27-D5-1	参考3-333
	H20-①-10	参考3-341
Ｄ－１４	H19-No.16	参考3-349
	H19-No.17	参考3-373
浦底断層	H19-No.19	参考3-397
	H19-No.8	参考3-417
Ｄ－６	H20-①-2	参考3-439
	H20-①-1	参考3-451
	H20-①-3	参考3-461
	H20-①-4	参考3-471
Ｄ－２	H19-No.11	参考3-481
	H19-No.13	参考3-495
	H20-③-1	参考3-507
Ｄ－３	H19-No.3	参考3-513
	H27-Br-1	参考3-537

目　次（参考資料3　ボーリング柱状図・コア写真）

破砕帯名	ボーリング孔名	頁
Ｄ－４	H20-①-8	参考3-551
Ｄ－７	H27-Br-2	参考3-557
	H27-Br-8	参考3-567
Ｄ－１５	H24-B14-1	参考3-579
Ｄ－２０	H20-④-2	参考3-595
	H20-④-1	参考3-605
	H20-④-5	参考3-615
Ｄ－２４	H19-No.7	参考3-623
Ｄ－３６	H24-B8-23	参考3-641
	H24-B8-29	参考3-647
	H24-B8-30	参考3-651
Ｄ－３８	H19-No.6	参考3-657
Ｄ－３９	H19-No.18	参考3-677
Ｄ－４３	H20-①-5	参考3-697
	H20-①-6	参考3-703
	H27-Br-3	参考3-713
ｆ－１５－１	H19-No.15	参考3-723
ｆ－１５－３	H20-④-3	参考3-741
ｆ－④－６－１	H20-④-6	参考3-753
ｆ－ｂ８－３４－２	H20-④-7	参考3-759
ｆ－ｂ８－３４－２	H24-B8-34	参考3-765
ｆ－ｂｒ－５－１	H27-Br-5	参考3-775
ｆ－ｂｒ－６－１	H27-Br-6	参考3-785
ｆ－ｂｒ－１２－１	H27-Br-12	参考3-797
非モデル化破砕帯	H19-No.10	参考3-809
	H19-No.5	参考3-823
	H20-④-4	参考3-841
	H24-B8-15	参考3-847
	H24-B8-27	参考3-857
	H24-B8-35	参考3-867
	H24-B8-36	参考3-875
	H27-Br-4	参考3-881
	H27-Br-9	参考3-891

H24－D1－2

余白

H24－D1－2

柱状図(0.00m～33.00m)

H24-D1-2

孔口標高	T.P. 6.95m	掘削長	33.00m

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) / 最大コア長(cm) / RQD[%] (0 20 40 60 80 100)	記事
				盛土	黒		100				0.00～6.81m ・盛土である。
					黄褐		100				
							100				
					明黄褐		100				
							100				
							100				
	1.05	6.81					100				
				花崗斑岩	にぶい橙	CL'	100	5	0		6.81～33.00m ・花崗斑岩である。
							100	7	0		
							100	7	0		
10							100	8	0		11.95～12.13m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
							100	4	0		●12.38～12.97m(D-1破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主ににぶい褐色の固結礫状部からなる。 ・灰黄色の未固結粘土状部：累計幅0.9cm ・走向・傾斜はN14°W70°Wである。
					にぶい褐	D'	100	3	0		
					にぶい橙	CL'	100	9	0		
							100	10	10		
							100	7	0		
						D'	100	5	0		12.97～16.24m ・割れ目は少なく，短柱状を呈する。
						CL'	100	12	12		
							100	19	19		
							100	20	20		
20							100	25	36		●19.78～19.87m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 ・淡黄橙色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN16°E65°Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。
						CM'	100	11	11		
						CL'	100	9	0		
						CM'	100	14	34		
						CL'	100	8	0		21.50～23.18m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
						CM'	100	19	45		25.21～26.82m ・割れ目が少なく，短柱状～柱状を呈する。
							100	13	25		
						CL'	100	8	0		
							100	15	15		
						CM'	100	24	60		
30						CL'	100	18	32		●31.44～31.46m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・にぶい黄橙色の未固結粘土状部からなる。 この累計幅は1.2cmである。 ・走向・傾斜はN3°W63°Wである。
							100	16	16		
	-21.63	33.00					100	8	0		31.46～33.00m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。

H24－D1－2

コア写真(0.00m～18.00m)

H24－D1－2

コア写真(18.00m～33.00m)

余白

H24－D1－3

余白

H24－D1－3

柱状図(0.00m～30.00m)

H24-D1-3

孔口標高	T.P. 6.90m	掘削長	60.00m

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) / 最大コア長(cm) / RQD [%] (0 20 40 60 80 100)	記事
				埋土	黒褐		100				0.00～3.57m ・埋土である。
					にぶい褐		100				
							100				
							100				
	4.38	3.57					100				3.57～9.84m ・改良土である。
				改良土	灰褐		100				
					にぶい黄橙		100				
					にぶい黄褐		100				
					にぶい黄橙		100				
					にぶい黄褐		100				
					灰黄褐		100				
	-0.06	9.84			にぶい黄橙		100				
10				花崗斑岩	オリーブ灰	D'	100	1	0		9.84～60.00m ・花崗斑岩である。
					明褐灰		100	1	0		
							100	2	0		
					にぶい橙	CL'	100	6	0		●13.94～14.06m(H-3d破砕帯) ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 ・主に灰色の固結礫状部からなる。 ・浅黄色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm ・走向・傾斜はN26° E77° Wである。
						D'	100	12	12		
						CL'	100	10	10		
							100	15	15		
					灰褐		100	13	34		●14.41～14.52m(H-4' 破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・主に明黄褐色の固結礫状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅1.9cm ・走向・傾斜はN31° E66° NWである。
					明褐灰		100	11	21		
							100	10	20		
20							100	10	10		14.52～22.47m ・割れ目が少なく，短柱状を呈する。
							100	7	0		
						CM'	100	13	38		
						CH'	100	23	44		22.47～23.77m ・硬質で柱状を呈する。
						CL'	100	16	26		
							100	22	32		
							100	10	10		
							100	15	15		
					にぶい黄橙		100	8	0		
							100	12	22		

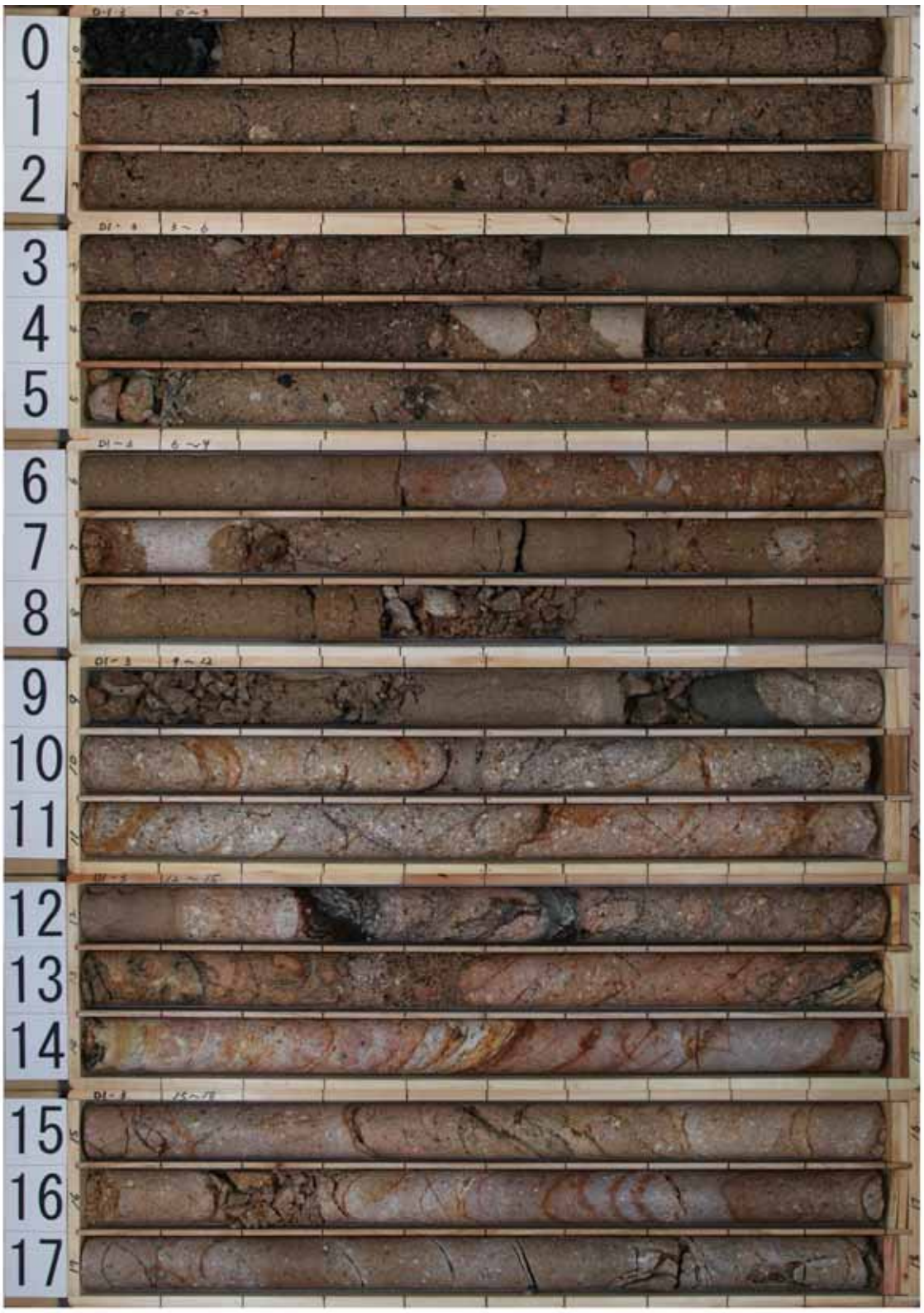
H24－D1－3

柱状図(30.00m～60.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD [%] 0 20 40 60 80 100	記事
				花崗斑岩	にぶい黄橙	CL'	100	5	0		
					明褐灰		100	5	0		32.63～33.30m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
							100	7	0		
						D'	100	2	0		●34.23～34.52m(D-1破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に黒褐色の固結礫状部からなる。 ・灰黄色の未固結粘土状部：累計幅0.8cm ・走向・傾斜はN12° W89° Wである。
					にぶい黄橙		100	1	0		
					明褐灰	CL'	100	6	0		
							100	6	0		
							100	13	13		36.53～36.82m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
							100	9	0		
							100	5	0		
40							100	7	0		
							100	13	13		
							100	8	0		
							100	12	12		
							100	11	11		
							100	10	10		
							100	8	0		
							100	8	0		
							100	5	0		
						CM'	100	7	0		
50						CL'	100	6	0		●52.13～52.28m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・主に明褐灰色の固結礫状部からなる。 ・にぶい橙色の未固結粘土状部：累計幅0.5cm ・走向・傾斜はN7° E70° Wである。
							100	5	0		
					にぶい褐		100	4	0		
							100	6	0		
					灰褐	CM'	100	5	0		
						CL'	100	6	0		●56.88～57.24m(D-35破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主にオリーブ灰色の固結礫状部からなる。 ・にぶい黄橙色の未固結粘土状部：累計幅0.5cm ・走向・傾斜はN2° E89° Wである。
							100	4	0		
					明褐灰		100	3	0		
							100	5	0		
	-35.53	60.00					100	6	0		58.29～58.53m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。

H24－D1－3

コア写真(0.00m～18.00m)



H24－D1－3

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真(18.00m～36.00m)

H24－D1－3

コア写真(36.00m～54.00m)

H24－D1－3

コア写真(54.00m～60.00m)

H24－D1－4

余白

H24－D1－4

柱状図(0.00m～30.00m)

H24-D1-4	孔口標高	T.P. 6.95m	掘削長	70.00m

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD [%] 0 20 40 60 80 100	記事
				埋土	黒褐 にぶい褐		100				0.00～2.94m ・埋土である。
	4.87	2.94					100				
				改良土	明黄褐		100				2.94～7.62m ・改良土である。
					にぶい黄橙		100				
	1.56	7.62					100				
				花崗斑岩	にぶい橙	CL'	100	7	0		7.62～17.89m ・花崗斑岩である。
					明黄褐		100	3	0		
10					明褐灰		100	3	0		10.76～10.88m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
							100	4	0		
							100	7	0		●10.91～10.93m(D-1破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・灰白色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は1.8cmである。 ・走向・傾斜はN13° W78° Wである。
							100	6	0		
							100	7	0		
							100	8	0		
							100	6	0		11.22～17.89m ・割れ目が少なく，短柱状を呈する。
	-5.70	17.89					100	7	0		
	-6.09	18.44		黒雲母花崗岩	にぶい橙	D'	100	6	0		17.89～18.44m ・黒雲母花崗岩である。
				花崗斑岩		CL'	100	7	0		18.44～70.00m ・花崗斑岩である。
20							100	7	0		
					明褐灰		100	18	36		
							100	10	10		
							100	8	0		23.40～23.77m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
							100	9	0		
							100	9	0		
							100	5	0		
						D'	100	3	0		●27.75～28.43m(D-35破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に明褐灰色の固結礫状部からなる。 ・灰黄褐色の未固結粘土状部：累計幅0.4cm ・走向・傾斜はN6° E83° Wである。
							100	5	0		
					灰褐	CL'	100	9	0		

H24－D1－4

柱状図(30.00m～60.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	コア採取率(%) / 最大コア長(cm) / RQD(%)	記事
				花崗斑岩	灰褐	CL'	100	12	12		
							100	7	0		
						CM'	100	9	0		
						CH'	100	13	34		
						CL'	100	9	0		34.57～34.63m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
						CM'	100	9	0		
							100	6	0		
						CL'	100	6	0		
					にぶい橙	CM'	100	4	0		
						CL'	100	7	0		
40							100	10	10		42.37～42.61m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
						CM'	100	7	0		
							100	7	0		49.83～52.07m ・緑灰色に変色する。
						CL'	100	12	12		52.07～52.97m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
							100	6	0		
							100	5	0		
						CH'	100	12	33		
							100	18	34		
					灰褐	CL'	100	9	0		
					にぶい橙		100	8	0		
50					灰褐	CM'	100	9	0		●52.97～53.46m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に灰白色の固結礫状部からなる。 ・褐灰色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN41°E50°NWである。
							100	14	35		
						D'	100	8	0		
							100	2	0		
						CL'	100	4	0		
							100	4	0		56.57～59.47m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
							100	12	12		
						CM'	100	6	0		●60.06～60.38m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・主に灰白色の固結礫状部からなる。 ・暗緑灰色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN18°E86°Wである。
							100	9	0		
						CL'	100	7	0		

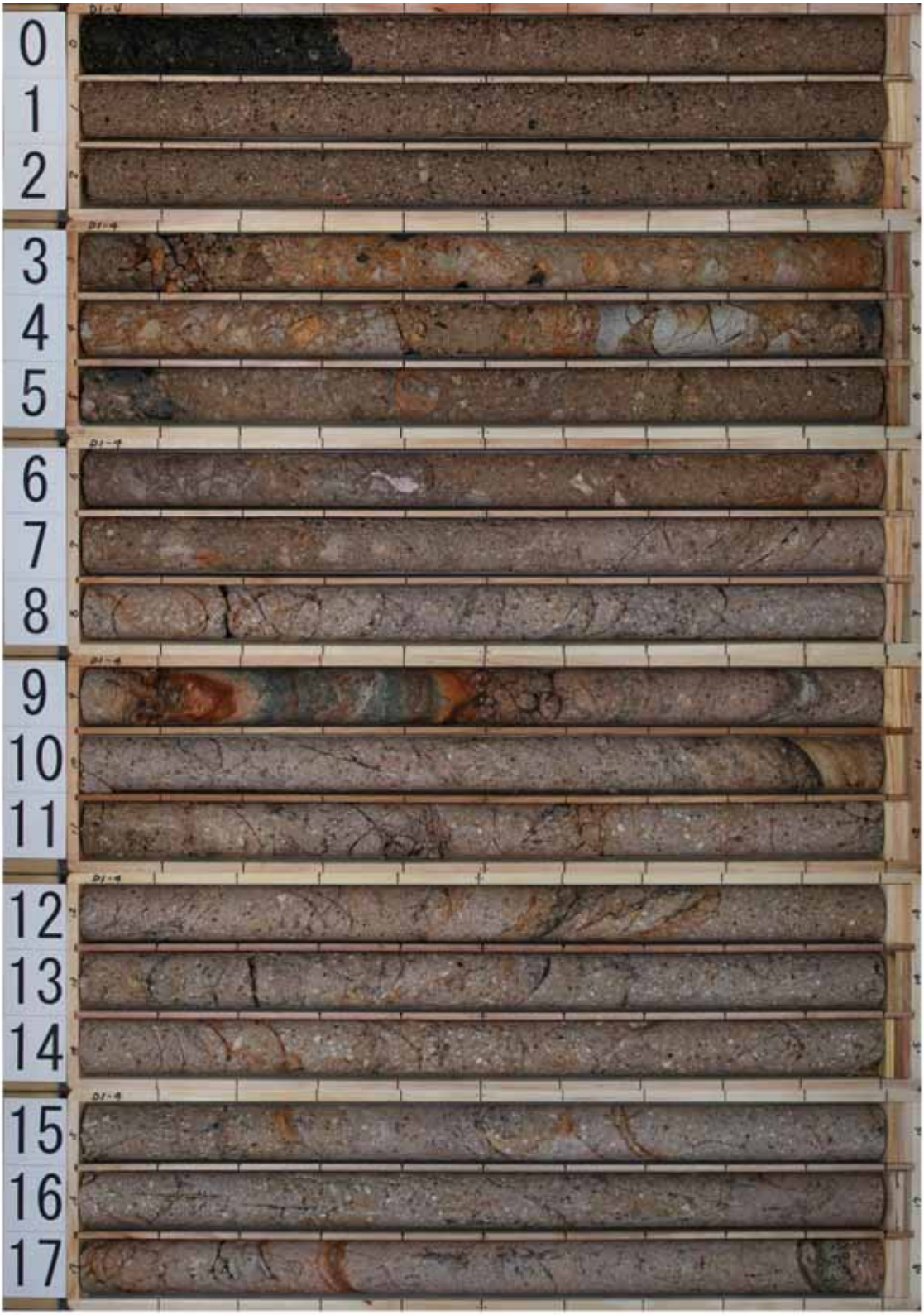
第536回審査会合
机上配付資料3 再掲

柱状図(60.00m～70.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD [%] 0 20 40 60 80 100	記事
	-42.55	70.00		花崗斑岩	灰褐	CL'	100	4	0		60.38～61.39m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。 ●61.47～61.52m(f-d1-4-5破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に灰白色の固結礫状部からなる。 ・暗緑灰色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・走向・傾斜はN27° W83° Wである。 ●63.67～63.90m ・破砕部である。 ・逆断層センスである。 ・灰白色の固結礫状部及び赤灰色の固結粘土状部からなる。 ・走向・傾斜はN19° W89° Wである。 66.65～67.05m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
							100	4	0		
							100	3	0		
						D'	100	3	0		
						CL'	100	9	0		
							100	5	0		
							100	4	0		
					明褐灰		100	2	0		
							100	3	0		
					灰褐 明褐灰		100	5	0		

H24－D1－4

コア写真(0.00m～18.00m)

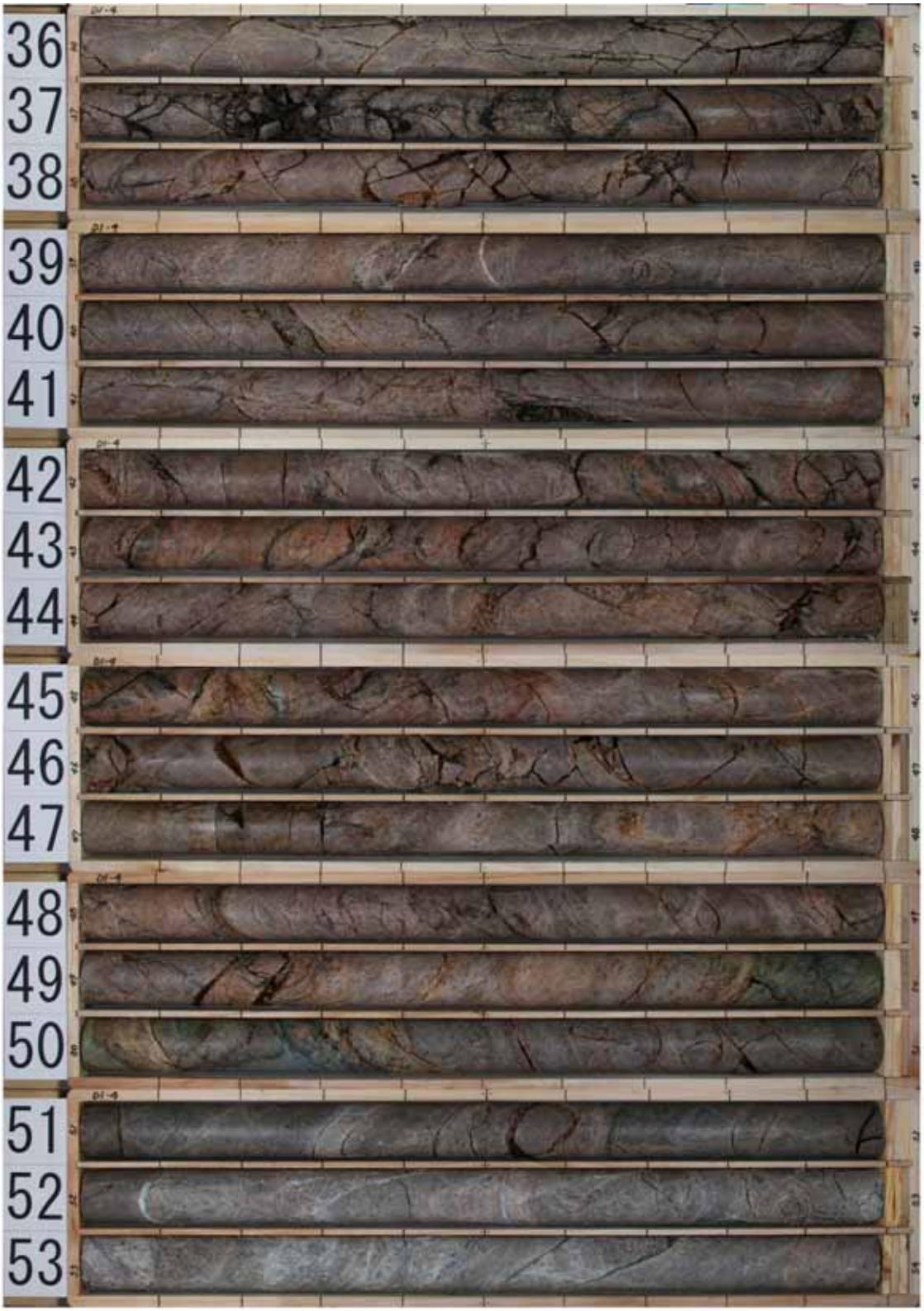


H24－D1－4

コア写真(18.00m～36.00m)

H24－D1－4

コア写真(36.00m～54.00m)



H24－D1－4

コア写真(54.00m～70.00m)

余白

H24－D1－5

余白

H24－D1－5

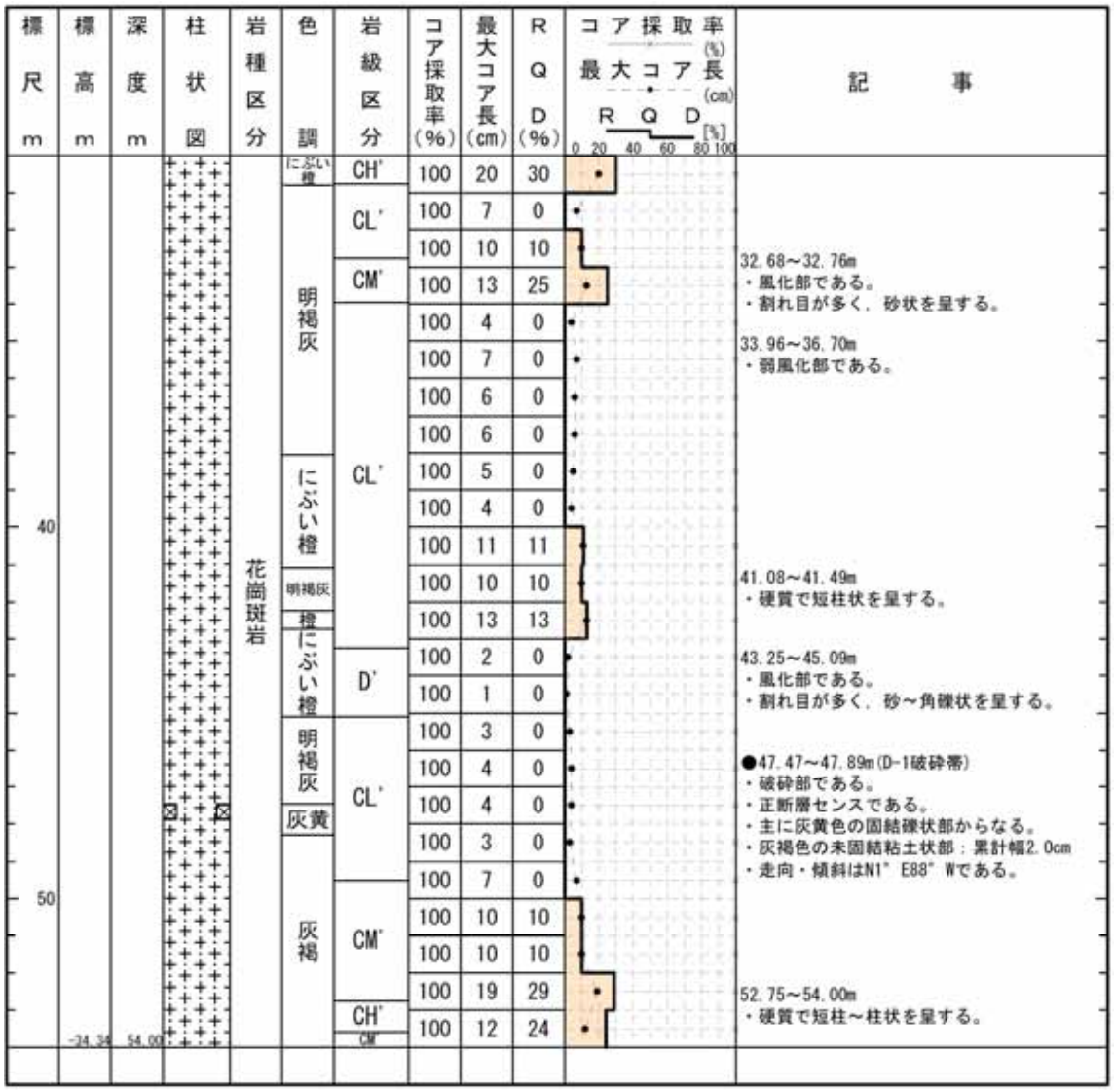
柱状図(0.00m～30.00m)

H24-D1-5	孔口標高	T.P. 7.03m	掘削長	54.00m

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%)・最大コア長(cm)・RQD[%] 0 20 40 60 80 100	記事
				埋土	にぶい黄褐		100				0.00～3.00m ・埋土である。
	4.73	3.00					100				
				改良土			100				3.00～7.41m ・改良土である。
					黄褐 灰黄褐 にぶい黄橙 にぶい黄褐 にぶい黄橙		100				
	1.35	7.41					100				
				花崗斑岩	にぶい黄褐		100				7.41～54.00m ・花崗斑岩である。
					にぶい橙	D'	100	2	0		7.41～8.51m ・強風化部である。
							100	2	0		
10					にぶい黄橙		100	5	0		●8.51～8.71m(f-d1-5-1破砕帯) ・破砕部である。
					明褐灰	CL'	100	5	0		・右ずれ正断層センスである。 ・主ににぶい橙色の固結礫状部からなる。
							100	11	11		・明赤灰色の未固結粘土状部：累計幅0.6cm ・走向・傾斜はN7° W80° Wである。
							100	4	0		8.71～10.19m ・強風化部である。
						CH'	100	14	48		●10.19～10.21m(H-3d破砕帯)
					褐灰		100	22	73		・破砕部である。 ・左ずれセンスである。
					明褐灰	CL'	100	18	28		・主ににぶい橙色の固結礫状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.5cm
							100	7	0		・走向・傾斜はN12° E78° Wである。 ●10.45～10.50m(H-4'破砕帯)
							100	8	0		・破砕部である。
							100	12	12		・右ずれ正断層センスである。 ・主に灰白色の固結礫状部からなる。
20							100	7	0		・白色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・走向・傾斜はN31° E65° NWである。
					灰褐	CM'	100	21	21		18.17～19.11m ・風化部である。
							100	14	35		19.11～20.10m
						CH'	100	16	52		・硬質で短柱状を呈する。 19.56～19.67m
							100	16	54		・ペグマタイト質である。
						CM'	100	13	13		
						CH'	100	11	22		
							100	42	62		
							100	29	58		27.20～28.48m ・硬質で長柱状を呈する。
					にぶい橙		100	12	22		

H24－D1－5

柱状図(30.00m～54.00m)



H24－D1－5

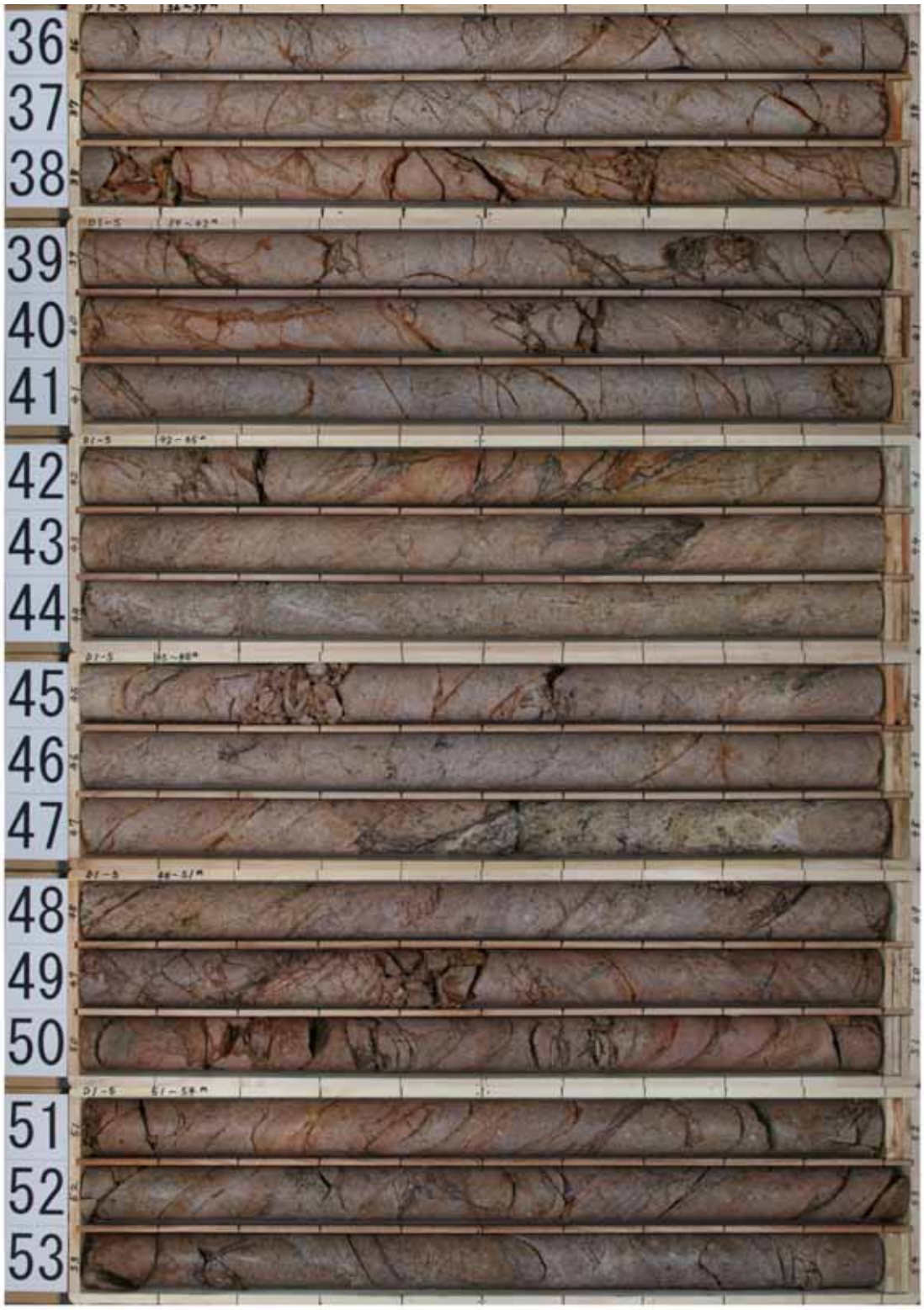
コア写真 (00.00m～18.00m)

H24－D1－5

コア写真（18.00m～36.00m）

H24－D1－5

コア写真 (36.00m～54.00m)



余白

H27－B－3

余白

H27－B－3

柱状図(0.00m～30.00m)

H27-B-3	孔口標高	T.P. 7.06m	掘削長	180.00m

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) / 最大コア長(cm) / RQD [%] (0 20 40 60 80 100)	記事
				埋土	黒褐		100				0.00～10.05m ・盛土である。 ・よく締まる粗砂～砂礫からなる。 ・0.00～1.70mはボーリング掘削前に実施した試掘の埋土である。
					にぶい黄橙		100				
	5.36	1.70			灰黄褐		100				
				盛土	にぶい黄褐		100				
							100				
							100				
							100				
							100				
							100				
							100				
					オリーブ灰		100				
10	-2.99	10.05			灰黄褐		100	4	0		10.05～180.00m ・花崗斑岩である。
				花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	7	0		
							100	9	0		
						D'	100	3	0		12.96～14.62m ・所々に灰白色の粘土を斑点～脈状に含む。
						CL'	100	6	0		
						CL'	100	10	10		15.33～15.43m ・軟質化が著しい。
							100	7	0		
							100	8	0		
					にぶい橙		100	5	0		18.05～18.47m ・珪質化している。
					明褐灰		100	9	0		
20					にぶい橙	CM'	100	14	24		20.04～20.93m ・硬質であるが，密着度の低い割れ目を含む。
					明褐灰	CL'	100	3	0		
							100	5	0		22.50～22.64m ・軟質化が著しい。 ・上端に褐色の粘土脈，下端に褐色の砂を伴う。 ・一部に灰白色の粘土を脈状に挟む。
							100	6	0		
							100	10	10		●26.70～26.90m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 ・主に灰白色の固結礫状部からなる。 ・淡黄色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・走向・傾斜はN18°E61°Wである。 ・上端境界の傾斜は43°，下端境界の傾斜は54°である。
							100	18	18		
					灰白	D'	100	8	0		
					明褐灰	CL'	100	5	0		
							100	6	0		
						CL'	100	4	0		
						CL'					●28.12～28.14m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 ・主ににぶい黄橙色の固結砂状部からなる。 ・淡黄色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN15°E64°Wである。 ・上端境界の傾斜は43°，下端境界の傾斜は45°～55°である。 ●29.10～29.12m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 ・主に灰白色の固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm ・走向・傾斜はN31°E51°Wである。 ・上端境界の傾斜は49°，下端境界の傾斜は45°～50°である。

H27－B－3

柱状図(30.00m～60.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%)・最大コア長(cm)・RQD(%)	記事
				花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	26	36		30.56～32.21m ・硬質で割れ目が少なく，柱状を呈する。
					灰褐	CH'	100	17	40		
						CM'	100	10	10		
						CL'	100	5	0		
						CM'	100	9	0		34.20～35.94m ・硬質だが，密着度の低い割れ目が多い。
							100	8	0		
					にぶい褐	CH'	100	19	43		35.94～37.30m ・硬質で割れ目が少なく，柱状を呈する。
					灰褐	CM'	100	16	16		
						CL'	100	10	10		37.69～37.81m ・割れ目沿いに砂状を呈する。 ・白色の粘土脈を挟む。
						CM'	100	10	10		
40						CL'	100	11	11		
					明褐灰	CM'	100	9	0		40.79～41.83m ・硬質であるが，割れ目が多い。
						CL'	100	8	0		
						CM'	100	13	33		●42.85～42.91m(H-2破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・明褐灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はNS71°Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は45°，下端境界の傾斜は66°である。
							100	11	11		
							100	12	12		
						CM'	100	11	21		
							100	11	11		
						CM'	100	6	0		46.14～48.61m ・硬質であるが，割れ目が多い。 ・上部は長石の多くが白濁化する。 ・一部で割れ目沿いに，砂状～細片状を呈する。
50						CL'	100	7	0		
							100	4	0		
							100	4	0		
							100	6	0		
					にぶい橙		100	6	0		53.10～55.82m ・割れ目が多く，一部割れ目沿いに砂状を呈し，白色粘土を挟む。
							100	5	0		
							100	3	0		
							100	2	0		
					淡黄	D'	100	3	0		●56.69～56.72m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・主に淡黄色の固結礫状部からなる。 ・黄灰色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・走向・傾斜はN2°W36°Wである。 ・上端境界の傾斜は30°，下端境界の傾斜は31°である。
					灰黄褐	CL'	100	2	0		
					灰褐		100	5	0		
					橙						
					灰褐						

●58.89～58.98m
・破砕部である。
・左ずれセンスである。
・主ににぶい黄橙色の固結礫状部からなる。
・灰白色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm
・走向・傾斜はN11°W54°Wである。
・上端境界の傾斜は20°，下端境界の傾斜は25°である。

●59.69～59.75m
・破砕部である。
・右ずれ正断層センスである。
・主ににぶい橙色の固結礫状部からなる。
・黄褐色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm
・走向・傾斜はN37°E48°Wである。
・上端境界の傾斜は52°，下端境界の傾斜は37°である。

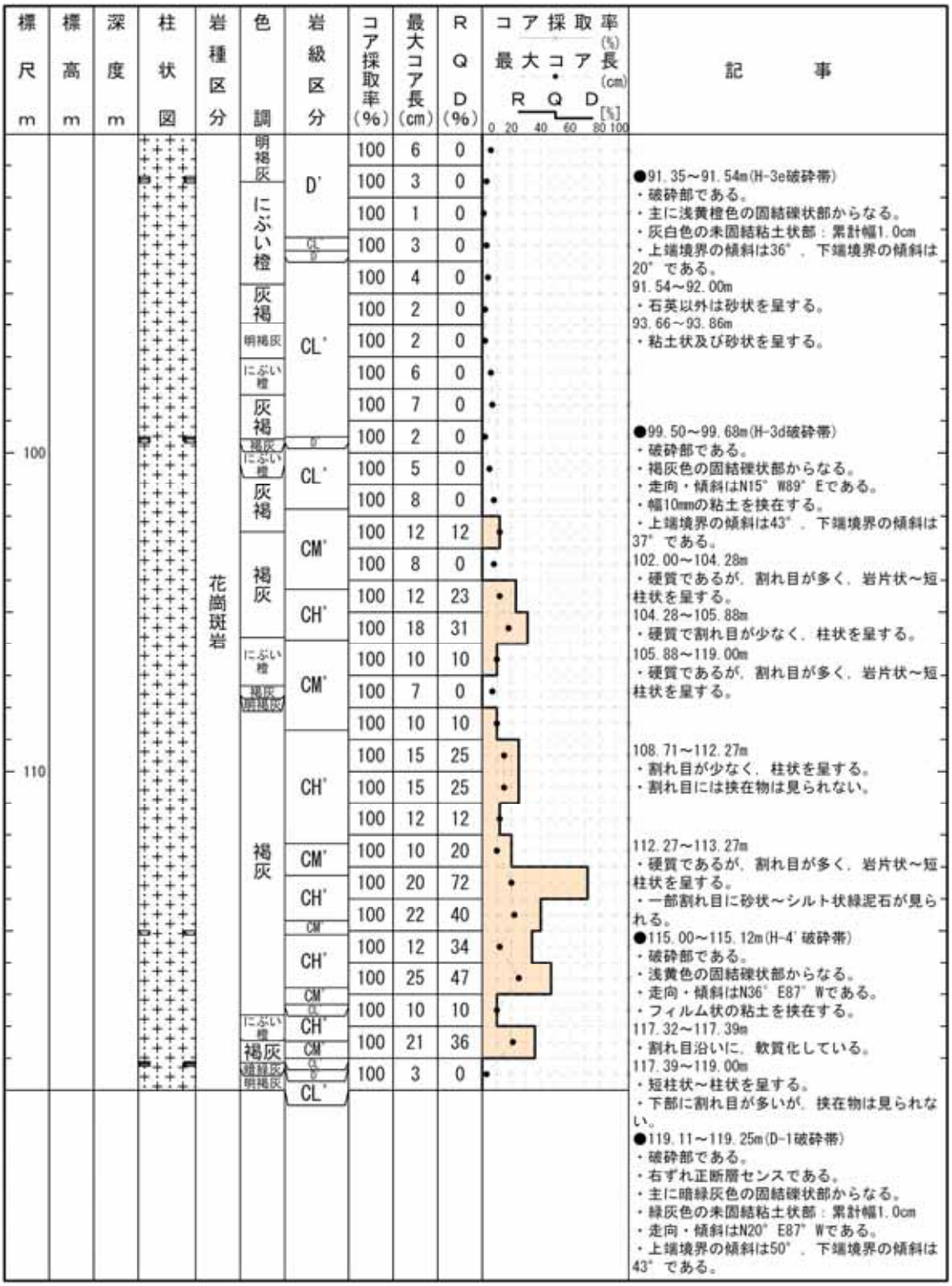
H27－B－3

柱状図(60.00m～90.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD [%] 0 20 40 60 80 100	記事
				花崗斑岩	灰褐	CM'	100	5	0		60.00～62.23m ・硬質であるが，密着度の低い割れ目が多い。 ・一部割れ目沿いに砂状を呈する。
						CL	100	3	0		
						CM'	100	5	0		
						CL'	100	7	0		62.82～62.93m ・砂礫状を呈し，白色粘土脈を伴う。
							100	4	0		
					にぶい橙	CM'	100	7	0		64.52～66.39m ・硬質であるが，割れ目が多い。 ・一部割れ目沿いに薄く砂状を呈する。
					灰褐						
					にぶい褐		100	9	0		
					明褐灰	CL'	100	6	0		
					褐灰	D'	100	2	0		68.06～68.93m ・砂礫状を呈する。
					にぶい橙	CL'	100	4	0		
70					明褐灰	D'	100	2	0		70.10～71.72m ・著しく軟質化している。 ・粘土状～砂状を呈し，白色粘土脈を伴う。
							100	2	0		
						CL'	100	3	0		
						D'					72.65～73.38m ・著しく軟質化している。 ・一部，細砂礫状を呈する。
							100	5	0		
					灰褐	CL'	100	5	0		
							100	7	0		
						D'	100	2	0		●76.59～76.89m(H-3c破砕帯) ・破砕部である。 ・左ずれ正断層センスである。 ・主ににぶい橙色の固結礫状部からなる。 ・明黄褐色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・上端境界の傾斜は47°，下端境界の傾斜は37°である。
					にぶい橙	CL'	100	8	0		
					明褐灰		100	4	0		
						D'	100	4	0		
80							100	5	0		
							100	4	0		79.15～85.03m ・粘土状を呈し，著しく軟質化している。 ・原岩組織と割れ目の一部は残っている。
					明黄褐		100	3	0		
					明褐灰						
					明黄褐		100	3	0		
					灰褐		100	3	0		84.54～84.71m ・砂状を呈し，軟質粘土を伴う。
					にぶい褐	CL'	100	3	0		
					褐灰	D'	100	2	0		85.61～93.25m ・著しく軟質化している。
					にぶい黄橙		100	2	0		87.18～91.35m ・砂礫状を呈する。
							100	3	0		
							100	3	0		
					明褐灰						

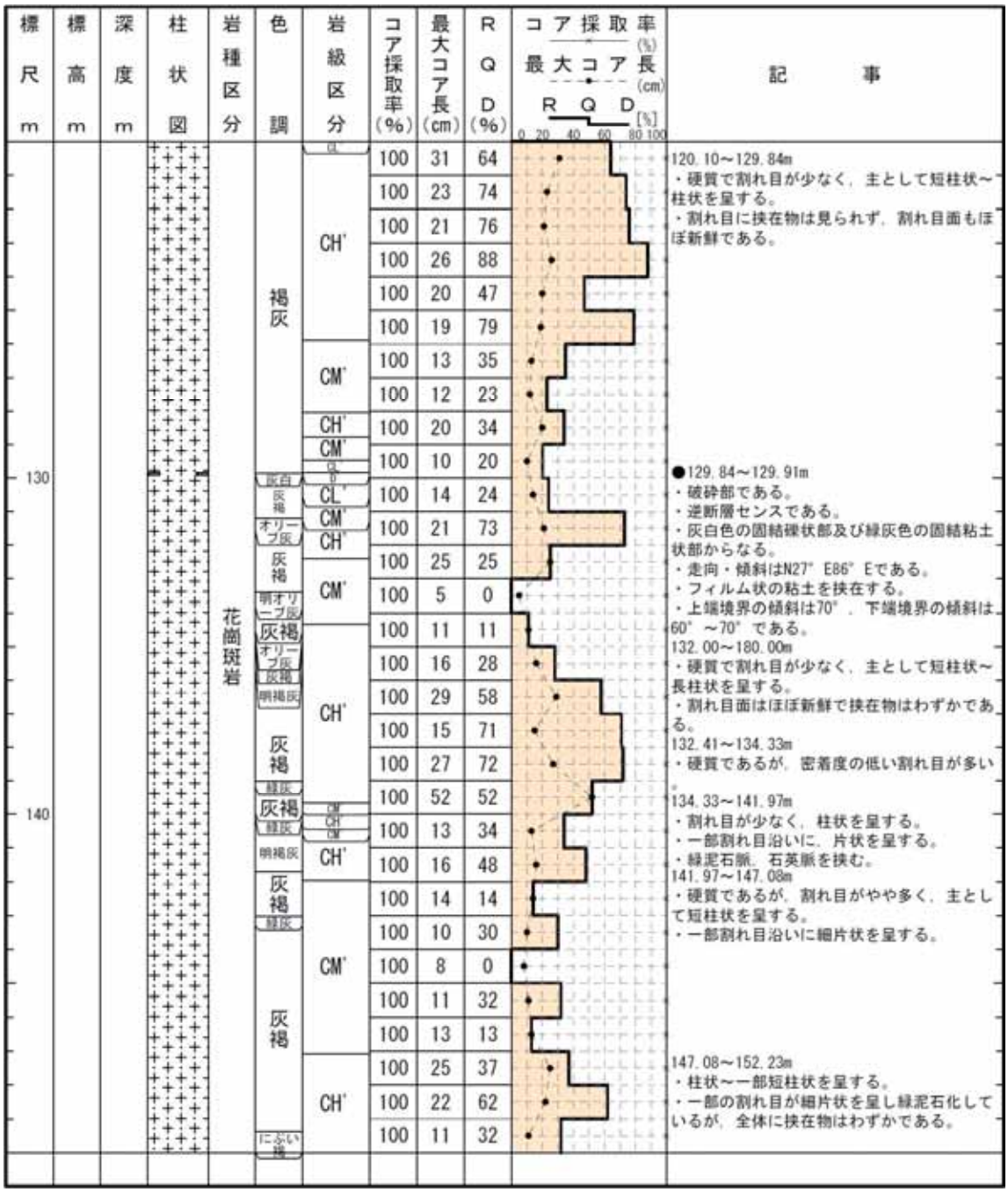
H27－B－3

柱状図(90.00m～120.00m)



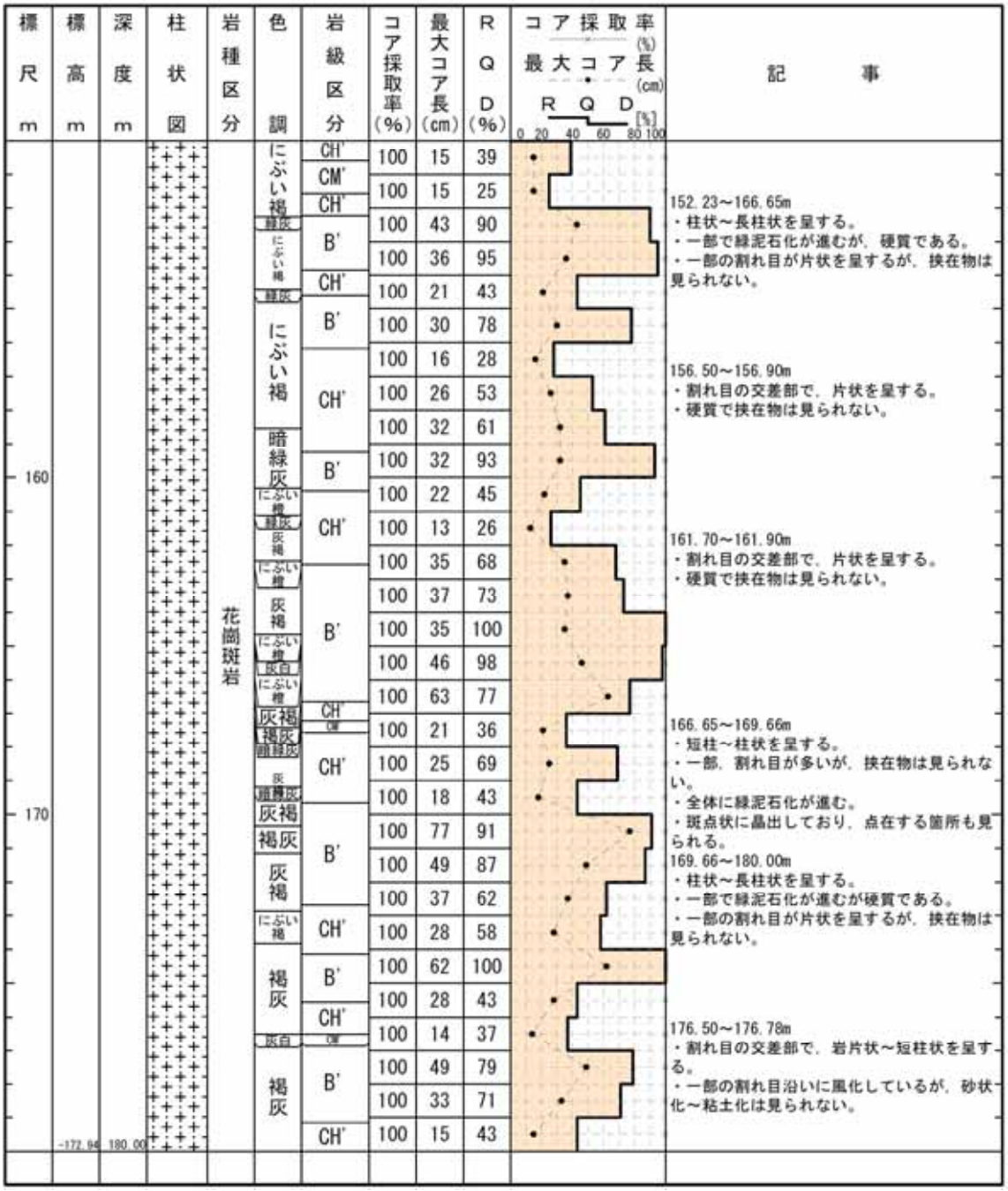
H27－B－3

柱状図(120.00m～150.00m)



H27－B－3

柱状図(150.00m～180.00m)



H27－B－3

コア写真(0.00m～18.00m)

H27－B－3

コア写真(18.00m～36.00m)

H27－B－3

コア写真(36.00m～54.00m)

H27－B－3

コア写真(54.00m～72.00m)

H27－B－3

コア写真(72.00m～90.00m)

H27－B－3

コア写真(90.00m～108.00m)

H27－B－3

コア写真(108.00m～126.00m)

H27－B－3

コア写真(126.00m～144.00m)

H27－B－3

コア写真(144.00m～162.00m)

H27－B－3

コア写真(162.00m～180.00m)

H27－B－4

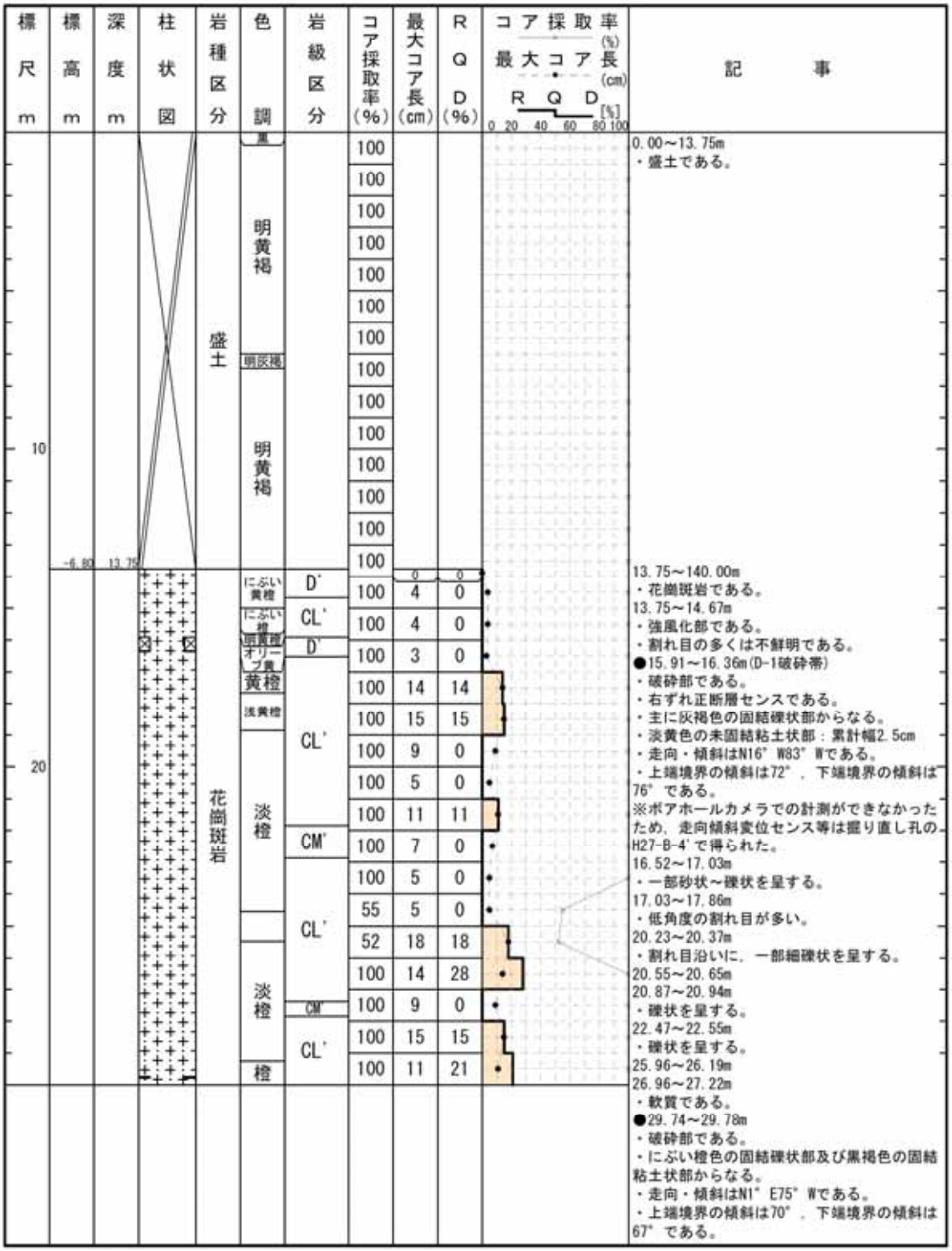
余白

H27－B－4

柱状図(0.00m～30.00m)

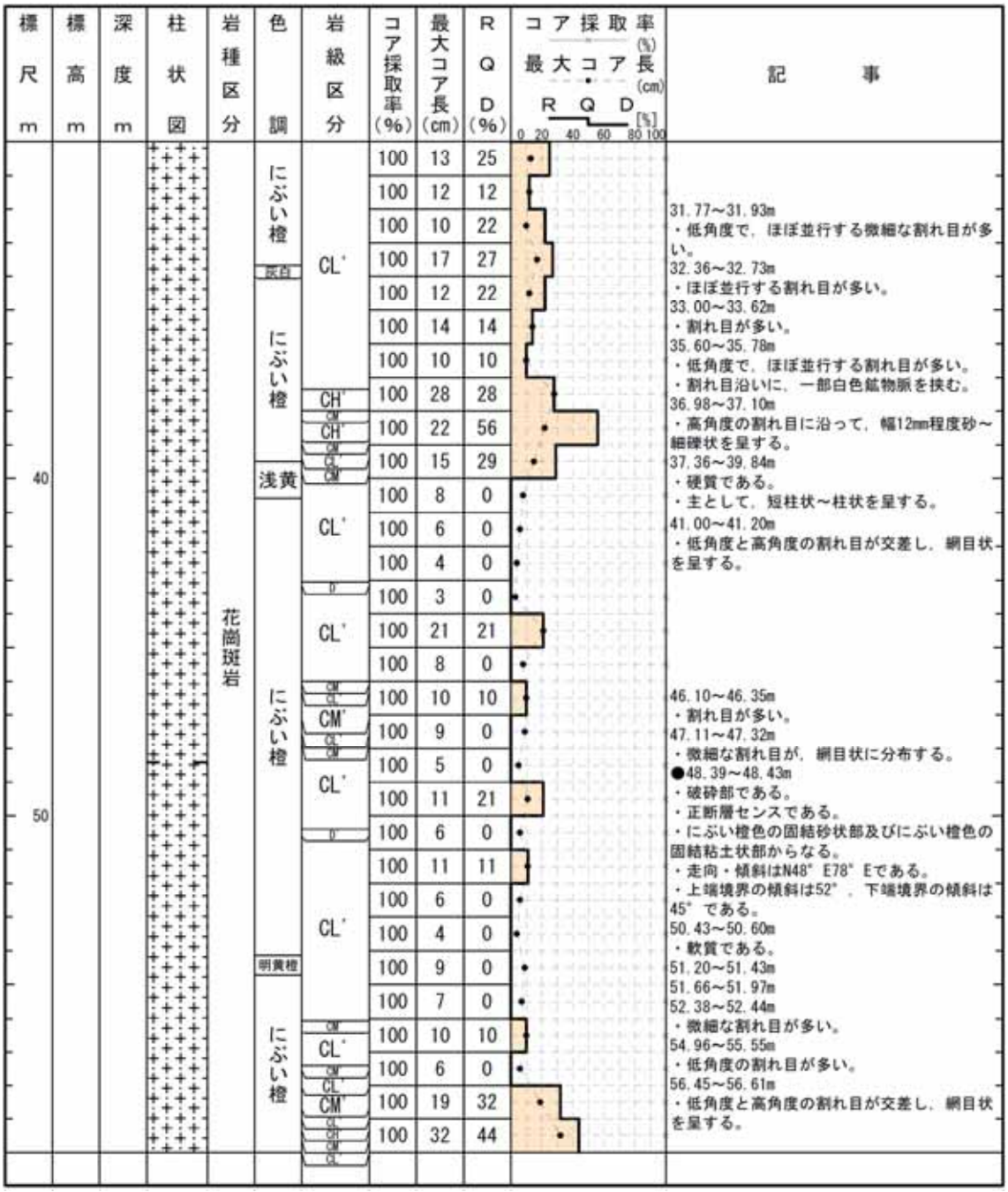
H27-B-4

孔口標高	T.P. 6.95m	掘削長	140.00m



H27－B－4

柱状図(30.00m～60.00m)



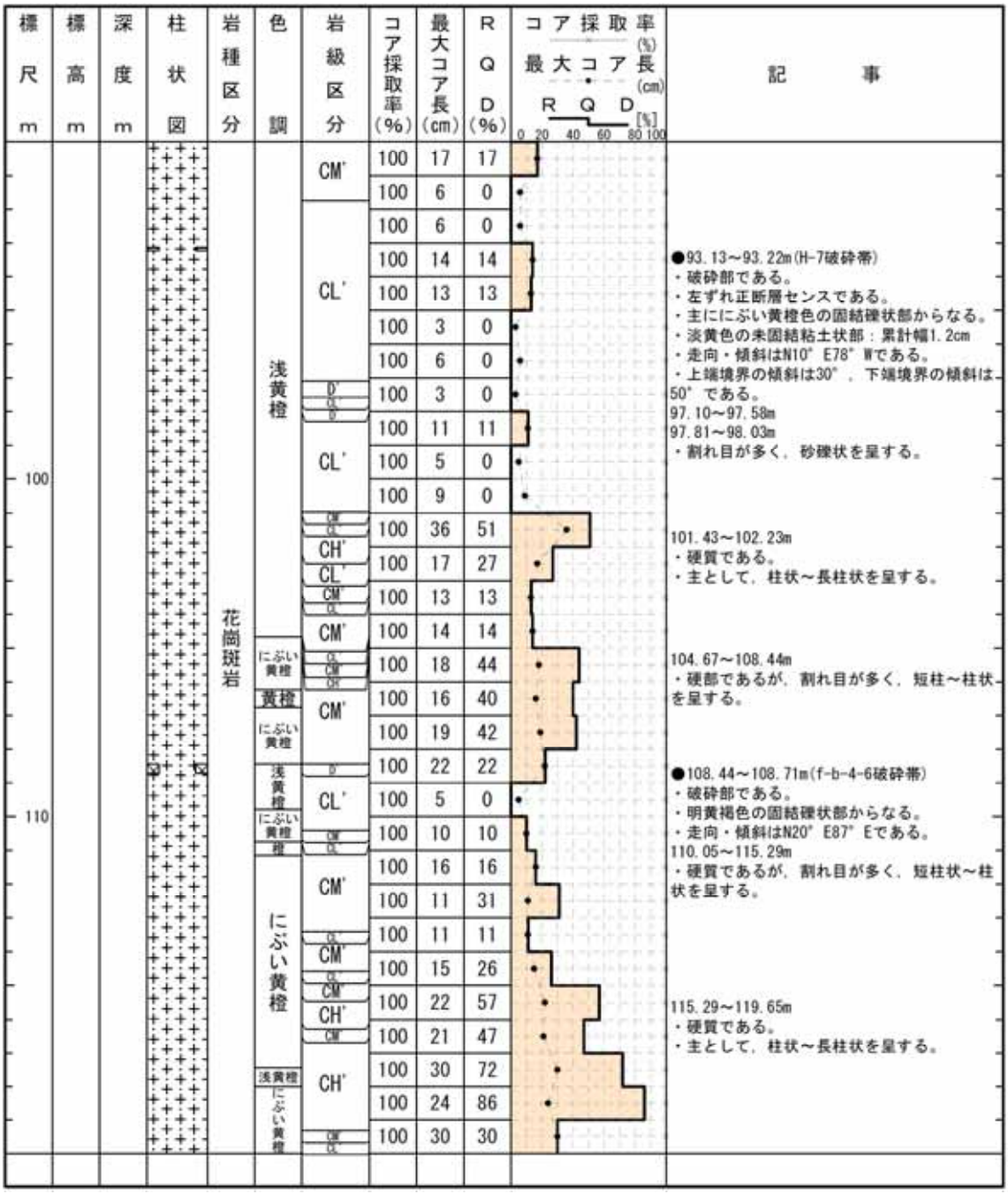
標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	記事
				花崗斑岩	にぶい橙	CL'	100	13	25	
							100	12	12	
							100	10	22	31.77～31.93m ・低角度で，ほぼ並行する微細な割れ目が多い。
							100	17	27	32.36～32.73m ・ほぼ並行する割れ目が多い。
					灰白		100	12	22	33.00～33.62m ・割れ目が多い。
					にぶい橙		100	14	14	35.60～35.78m ・低角度で，ほぼ並行する割れ目が多い。 ・割れ目沿いに，一部白色鉱物脈を挟む。
							100	10	10	36.98～37.10m ・高角度の割れ目に沿って，幅12mm程度砂～細礫状を呈する。
						CH'	100	28	28	37.36～39.84m ・硬質である。 ・主として，短柱状～柱状を呈する。
						CM CH'	100	22	56	41.00～41.20m ・低角度と高角度の割れ目が交差し，網目状を呈する。
						CM CL CM	100	15	29	
40					浅黄		100	8	0	
						CL'	100	6	0	
							100	4	0	
						D	100	3	0	
						CL'	100	21	21	
							100	8	0	
					にぶい橙	CM CL	100	10	10	46.10～46.35m ・割れ目が多い。
						CM' CL	100	9	0	47.11～47.32m ・微細な割れ目が，網目状に分布する。
						CM	100	5	0	●48.39～48.43m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・にぶい橙色の固結砂状部及びにぶい橙色の固結粘土状部からなる。 ・走向・傾斜はN48°E78°Eである。 ・上端境界の傾斜は52°，下端境界の傾斜は45°である。
						CL'	100	11	21	
50						D	100	6	0	
						CL'	100	11	11	
							100	6	0	
							100	4	0	50.43～50.60m ・軟質である。
					明黄橙		100	9	0	51.20～51.43m
							100	7	0	51.66～51.97m
					にぶい橙	CM	100	10	10	52.38～52.44m ・微細な割れ目が多い。
						CL' CM	100	6	0	54.96～55.55m ・低角度の割れ目が多い。
						CL' CM'	100	19	32	56.45～56.61m ・低角度と高角度の割れ目が交差し，網目状を呈する。
						CL CH CM CL'	100	32	44	

H27－B－4

柱状図(60.00m～90.00m)

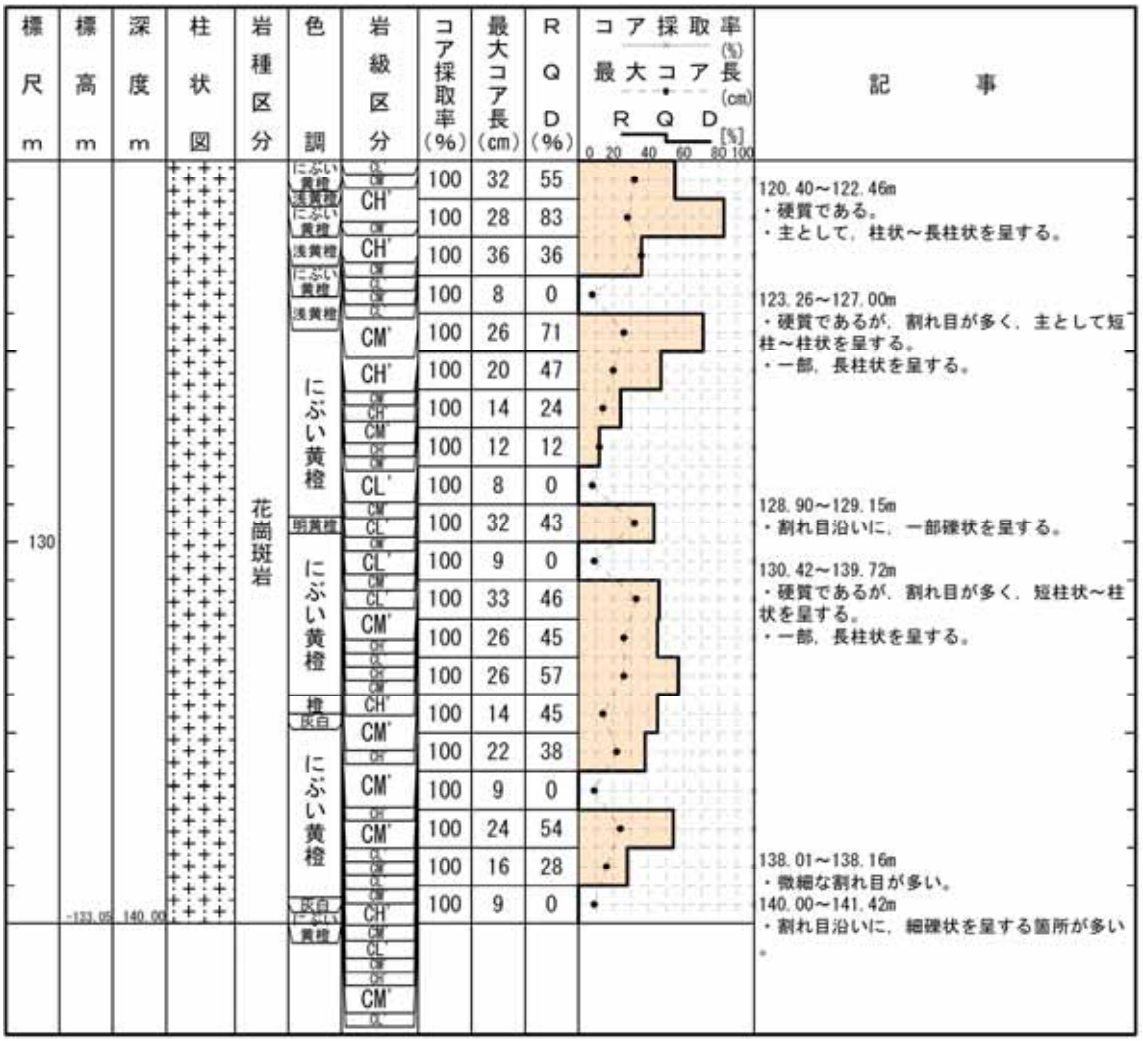
H27－B－4

柱状図(90.00m～120.00m)



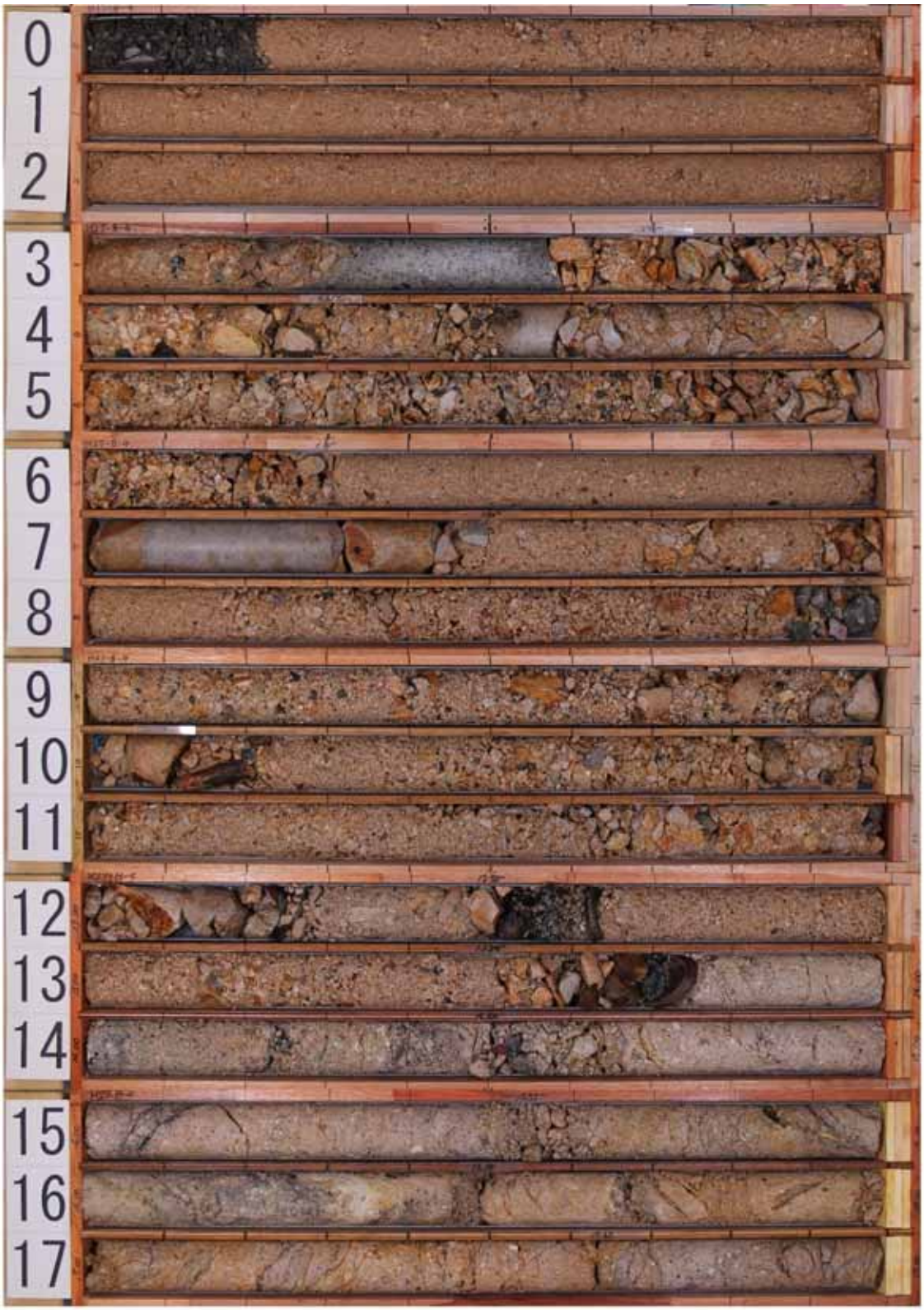
H27－B－4

柱状図(120.00m～140.00m)



H27－B－4

コア写真(0.00m～18.00m)

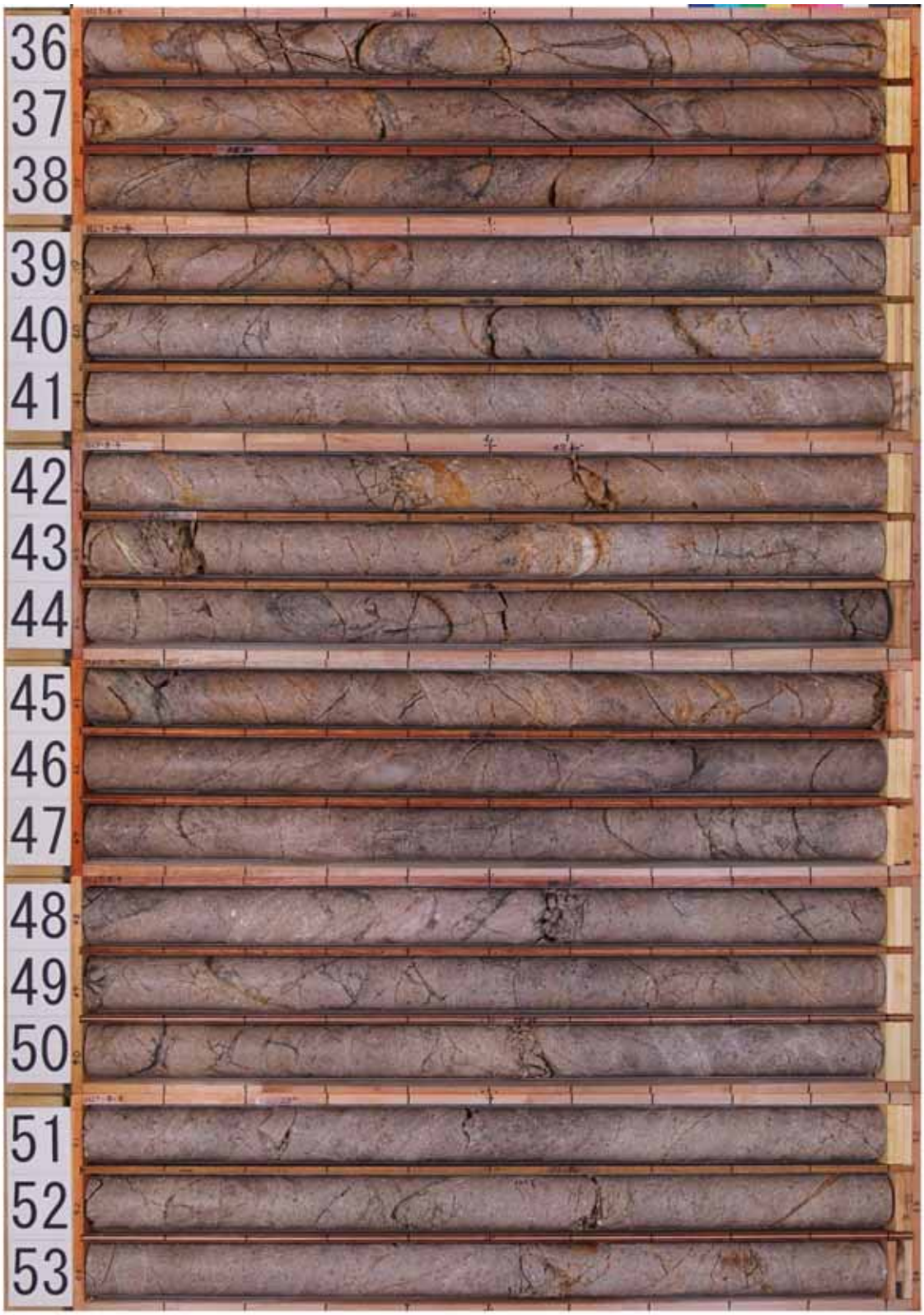


H27－B－4

コア写真(18.00m～36.00m)

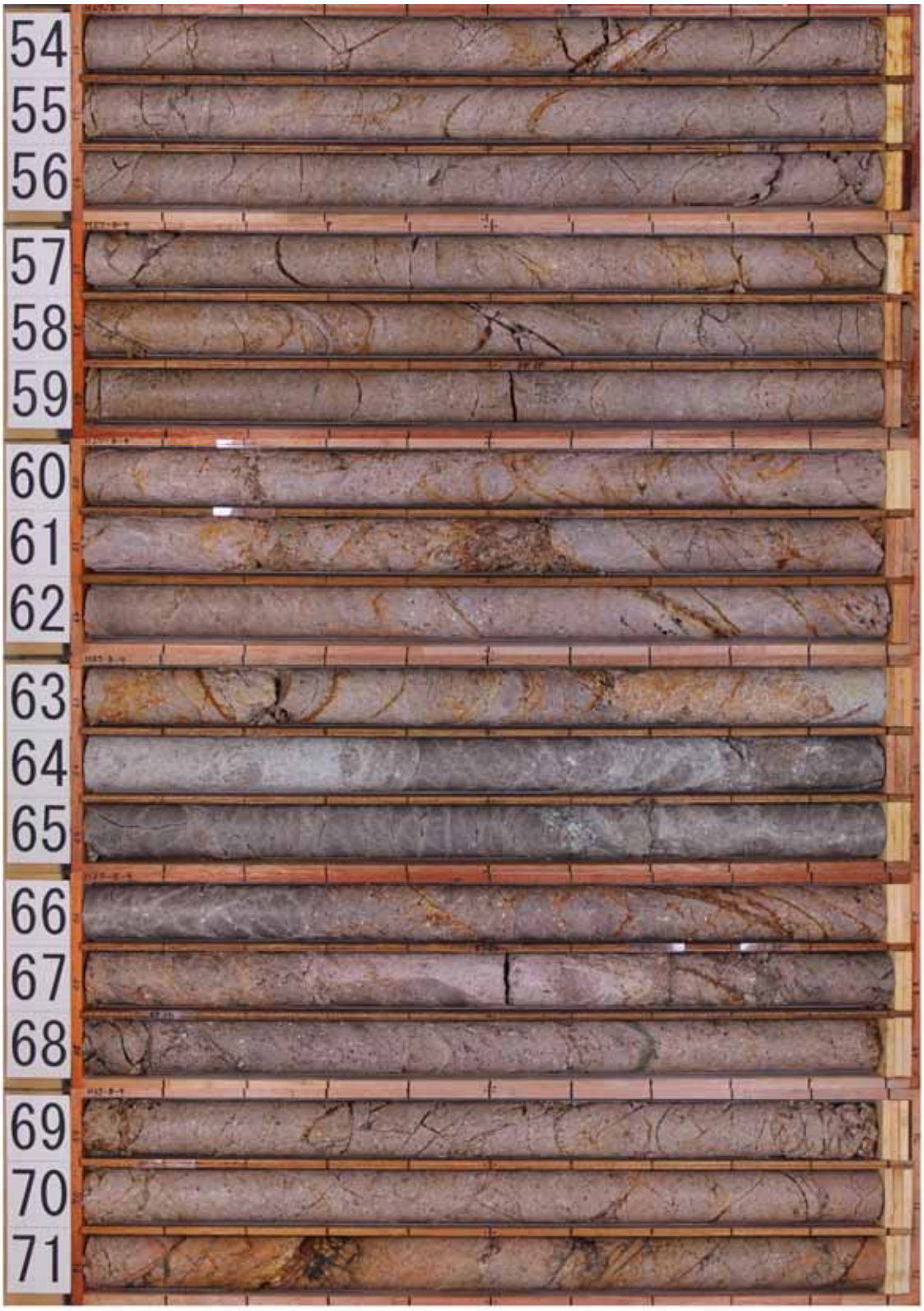
H27－B－4

コア写真(36.00m～54.00m)



H27－B－4

コア写真(54.00m～72.00m)



H27－B－4

コア写真(72.00m～90.00m)

H27－B－4

コア写真(90.00m～108.00m)

H27－B－4

コア写真(108.00m～126.00m)

H27－B－4

コア写真(126.00m～140.00m)

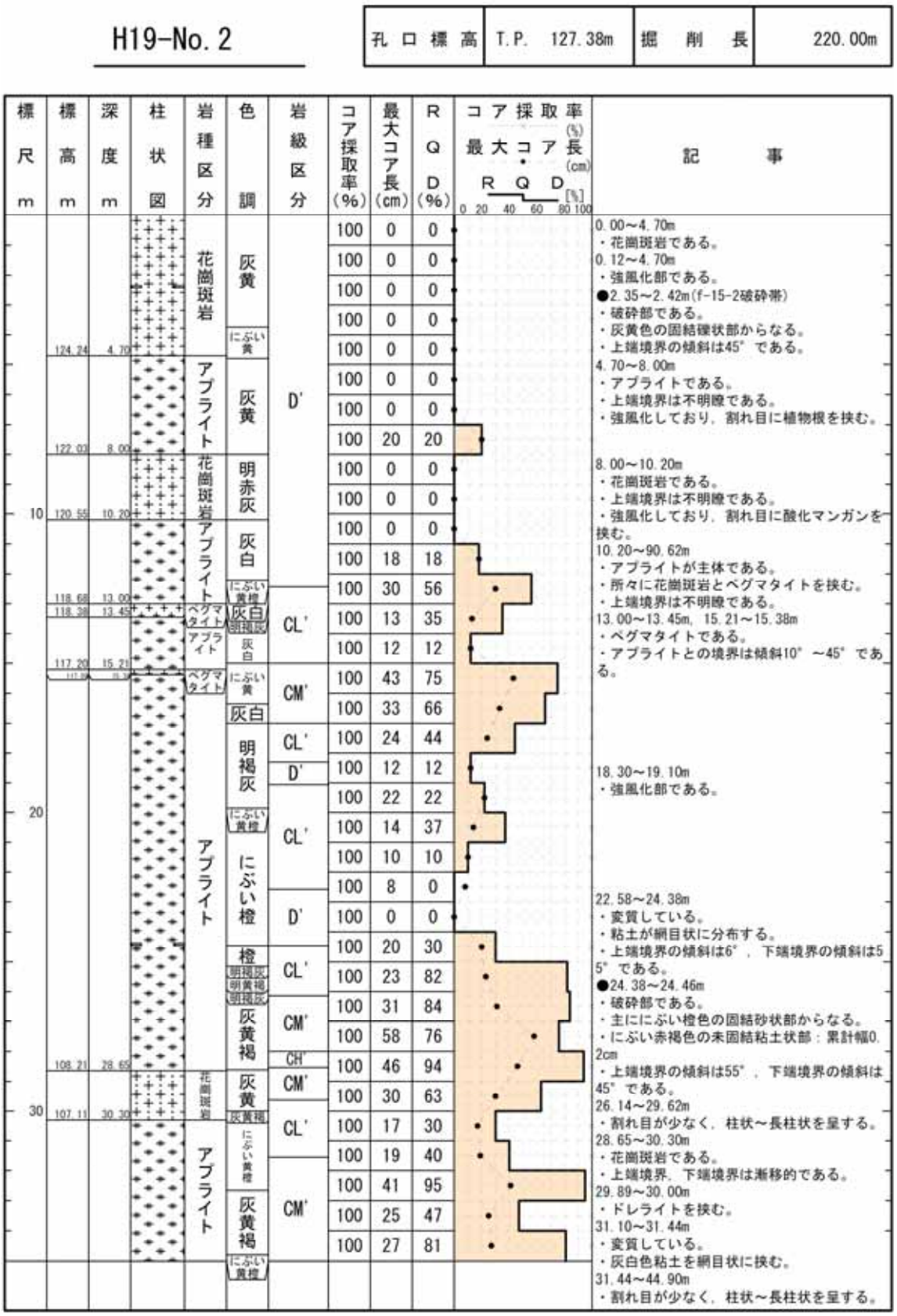
余白

H19－No.2

余白

第536回審査会合
机上配付資料3 再掲

柱状図(0.00m～35.00m)



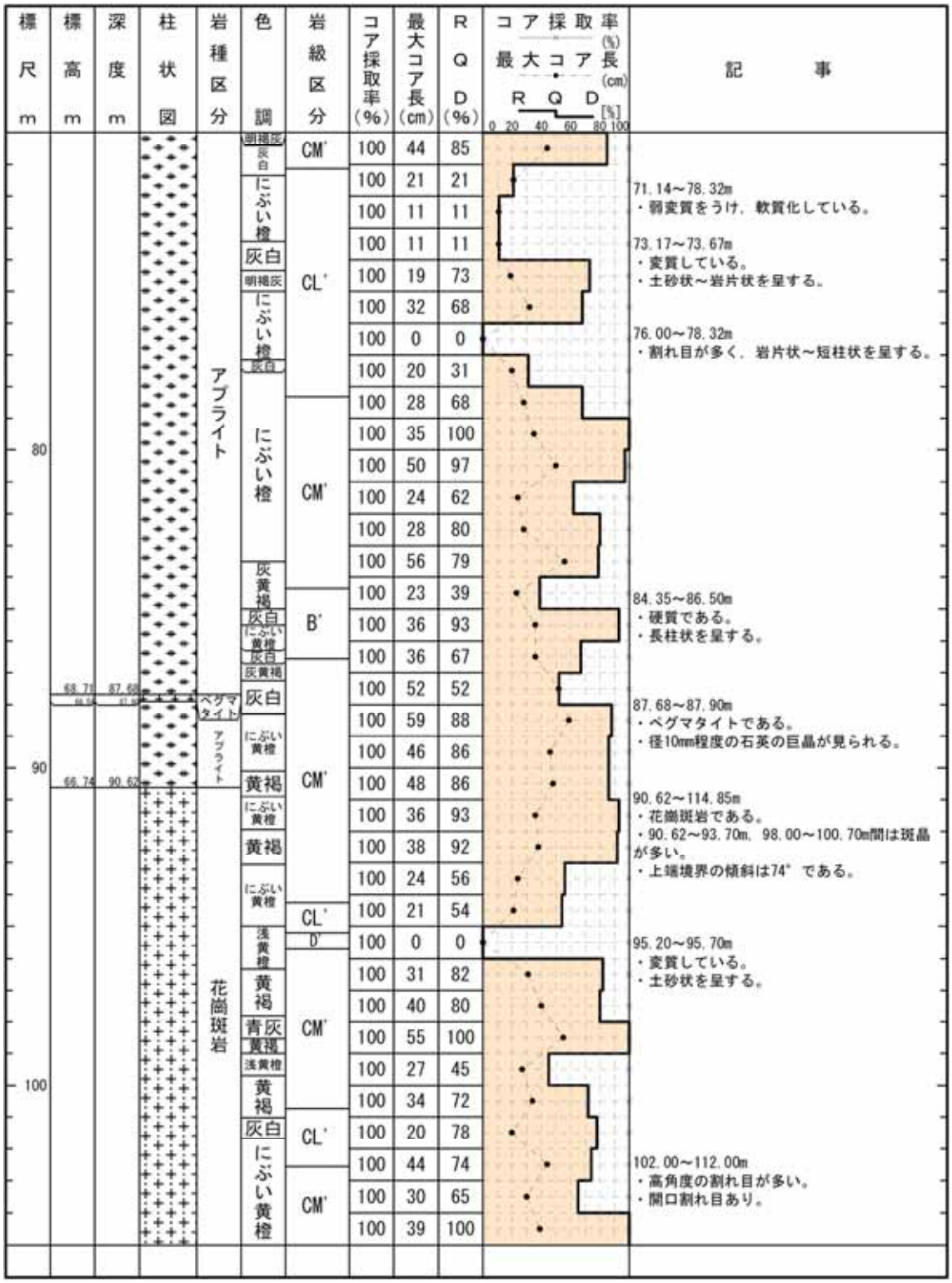
H19－No.2

柱状図(35.00m～70.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	記事
				アブライト	にぶい黄橙	CM'	100	20	60	
					明黄褐		100	25	69	36.21～36.48m ・変質している。 ・粘土化している。
							100	26	80	
					にぶい黄橙		100	29	82	
					明黄褐		100	52	98	
40					明赤灰		100	38	90	●39.83～39.88m(f-15-1破砕帯) ・破砕部である。 ・明黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN25°E82°Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・下端境界の傾斜は76°である。
					灰白		100	30	91	
							100	29	95	
					明赤灰		100	29	64	
							100	100	100	
					淡黄	D'	100	25	25	●44.90～45.75m ・破砕部である。 ・主に灰白色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN40°E26°Wである。 ・上端境界の傾斜は32°，下端境界の傾斜は40°である。
					灰白					
					明赤灰	CM'	100	28	78	
					にぶい黄橙		100	26	88	
							100	19	79	
						CL'	100	38	68	
50					明赤灰	D'	100	23	48	45.75～49.77m ・割れ目が少なく，柱状～長柱状を呈する。
						CM'	100	30	87	49.77～50.42m ・変質している。 ・砂状化しており，網目状にシルトを挟む。
							100	21	82	50.42～54.44m ・割れ目が少なく，柱状～長柱状を呈する。
							100	40	82	
					にぶい黄橙	D'	100	20	33	54.44～55.56m ・風化し，土砂状を呈する。
							100	12	22	
					明赤灰	CL'	100	39	52	
						CM'	100	75	95	57.00～59.80m ・割れ目が少なく，柱状～長柱状を呈する。
							100	45	88	
							100	72	72	
60					灰白	CL'	100	13	23	
					明赤灰		100	18	53	60.49～65.15m ・弱変質をうけ，軟質化している。 ●61.25～61.30m(f-14-1破砕帯) ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN7°E68°Wである。
					灰白					
					明赤灰	D'	100	24	45	
					灰白	CL'	100	17	40	
					明赤灰		100	18	66	62.46～63.04m ・変質している。 ・黄灰色に砂状化している。
					灰白	CM'	100	50	90	
							100	54	89	65.20～71.00m ・割れ目が少なく，柱状～長柱状を呈する。
					明褐灰		100	45	100	
					灰白		100	28	94	
					明褐灰		100	20	64	

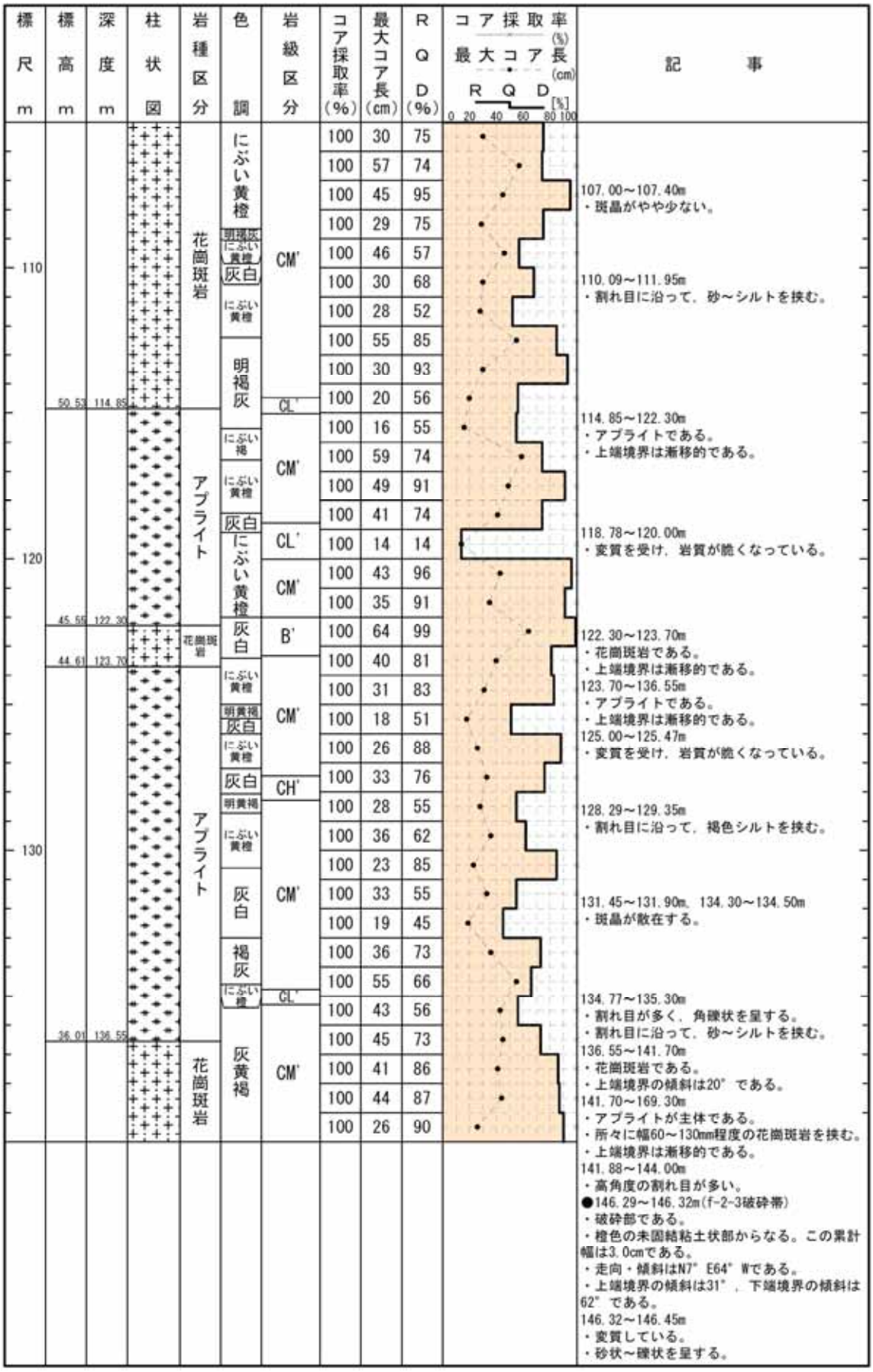
H19－No.2

柱状図(70.00m～105.00m)



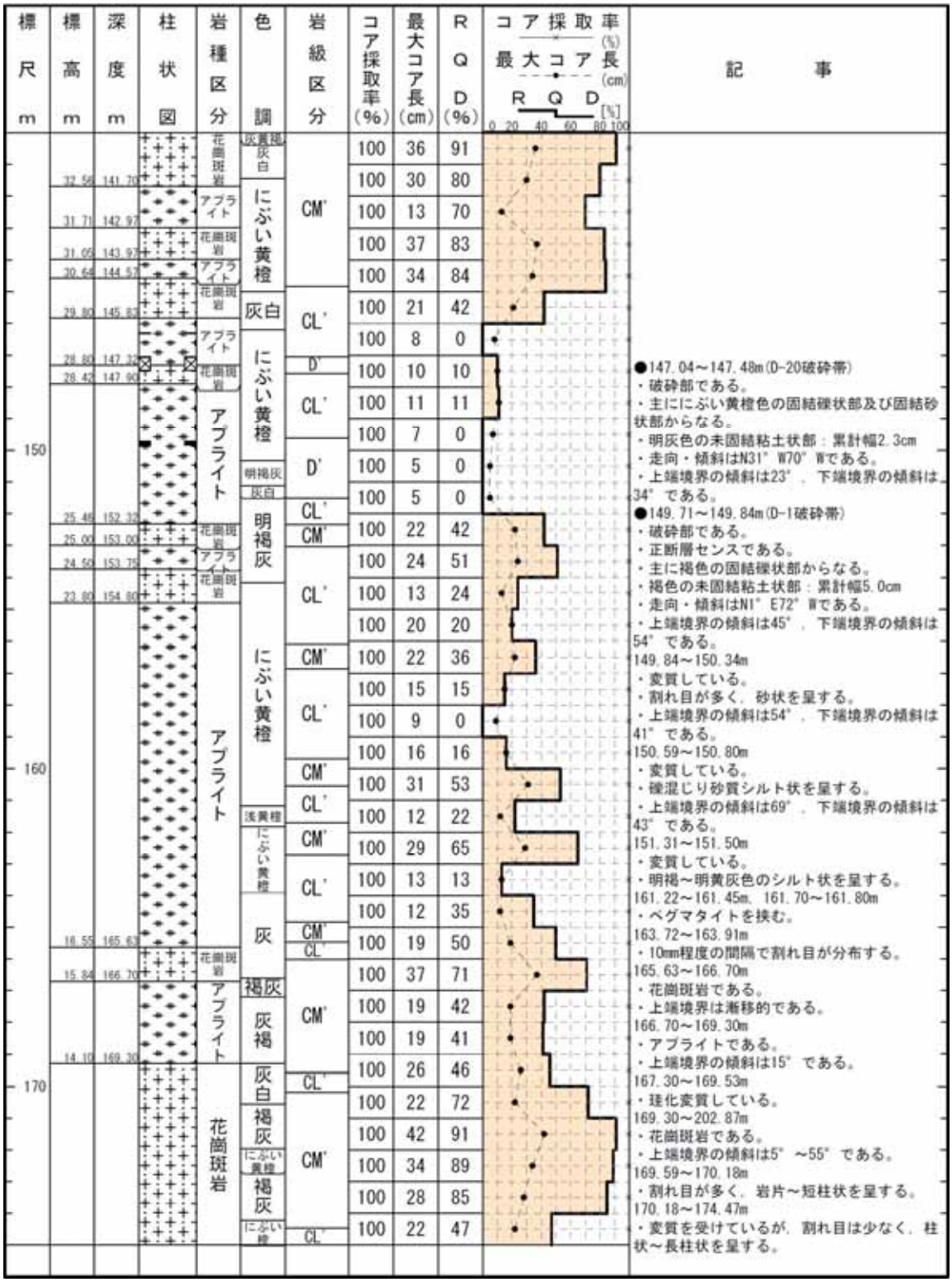
H19－No.2

柱状図(105.00m～140.00m)



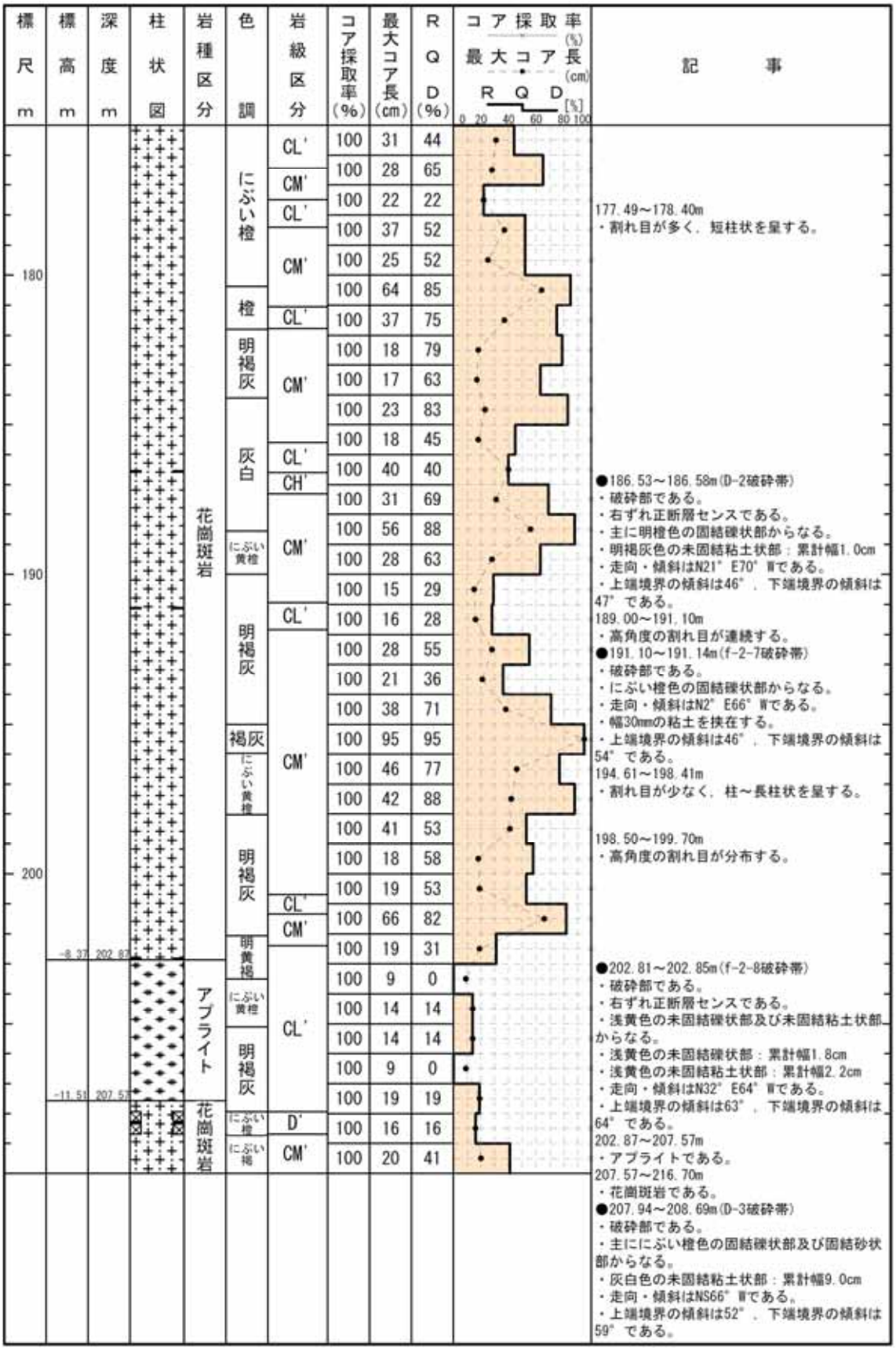
H19－No.2

柱状図(140.00m～175.00m)



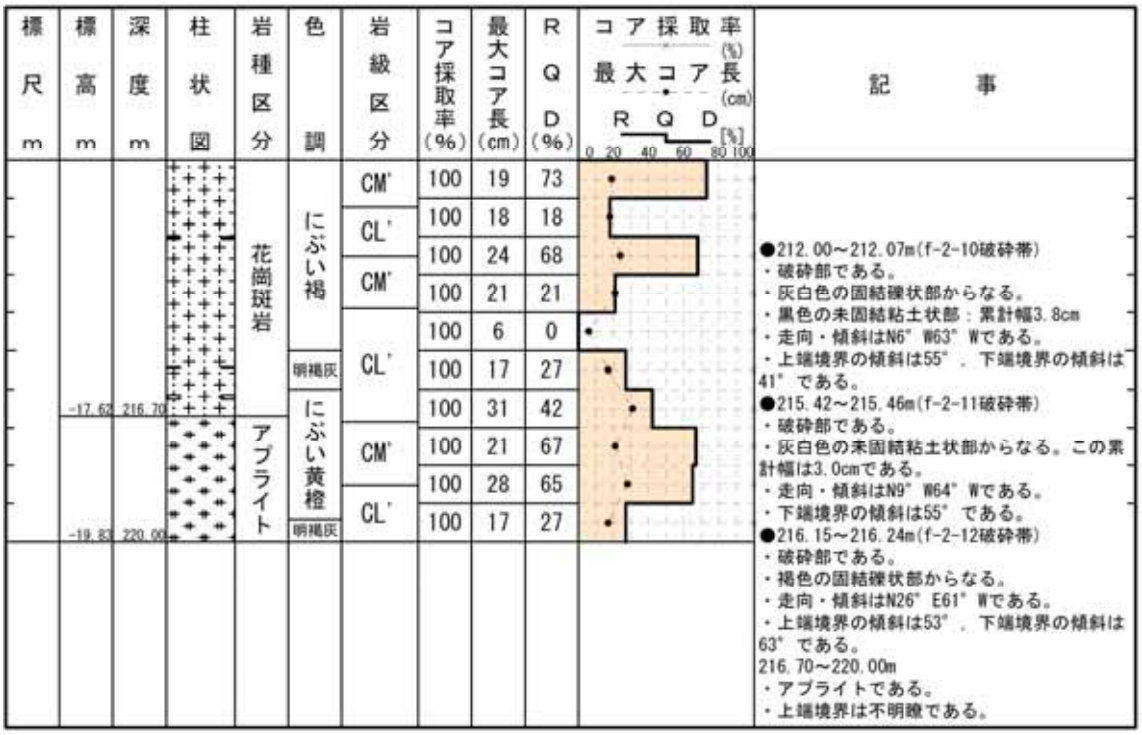
H19－No.2

柱状図(175.00m～210.00m)



H19－No.2

柱状図(210.00m～220.00m)



H19－No.2

コア写真 (00.00m～15.00m)

H19－No.2

コア写真（15.00m～30.00m）

H19－No.2

コア写真 (30.00m～45.00m)

H19－No.2

コア写真 (45.00m～60.00m)

H19－No.2

コア写真 (60.00m～70.00m)

H19－No.2

コア写真 (70.00m～85.00m)

H19－No.2

コア写真 (85.00m～100.00m)

H19－No.2

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真（100.00m～115.00m）

H19－No.2

コア写真（115.00m～130.00m）

H19－No.2

コア写真（130.00m～145.00m）

H19－No.2

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真（145.00m～160.00m）

H19－No.2

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真（160.00m～175.00m）

H19－No.2

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真（175.00m～190.00m）

H19－No.2

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真 (190.00m～205.00m)

H19－No.2

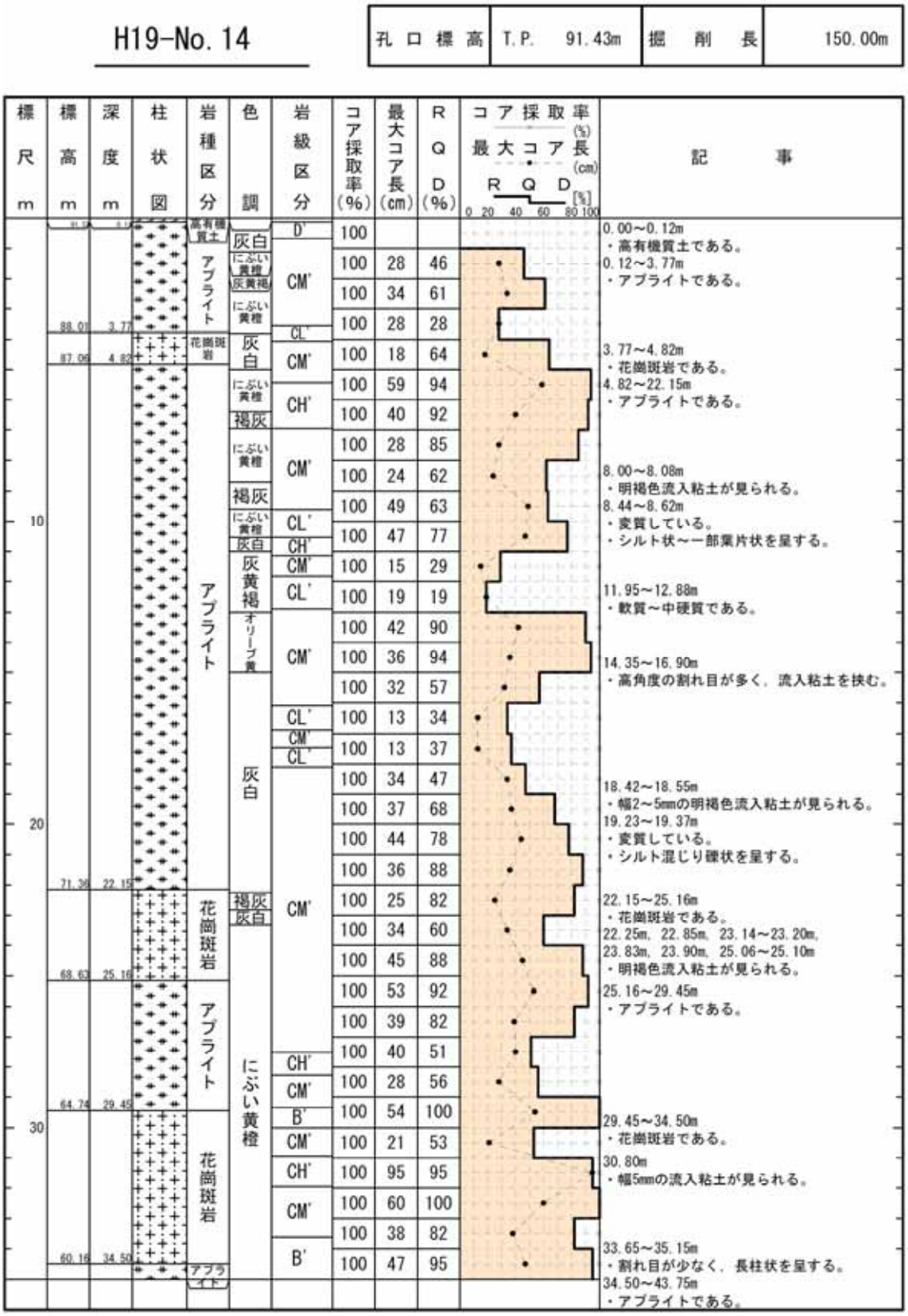
コア写真 (205.00m～220.00m)

H19－No.14

余白

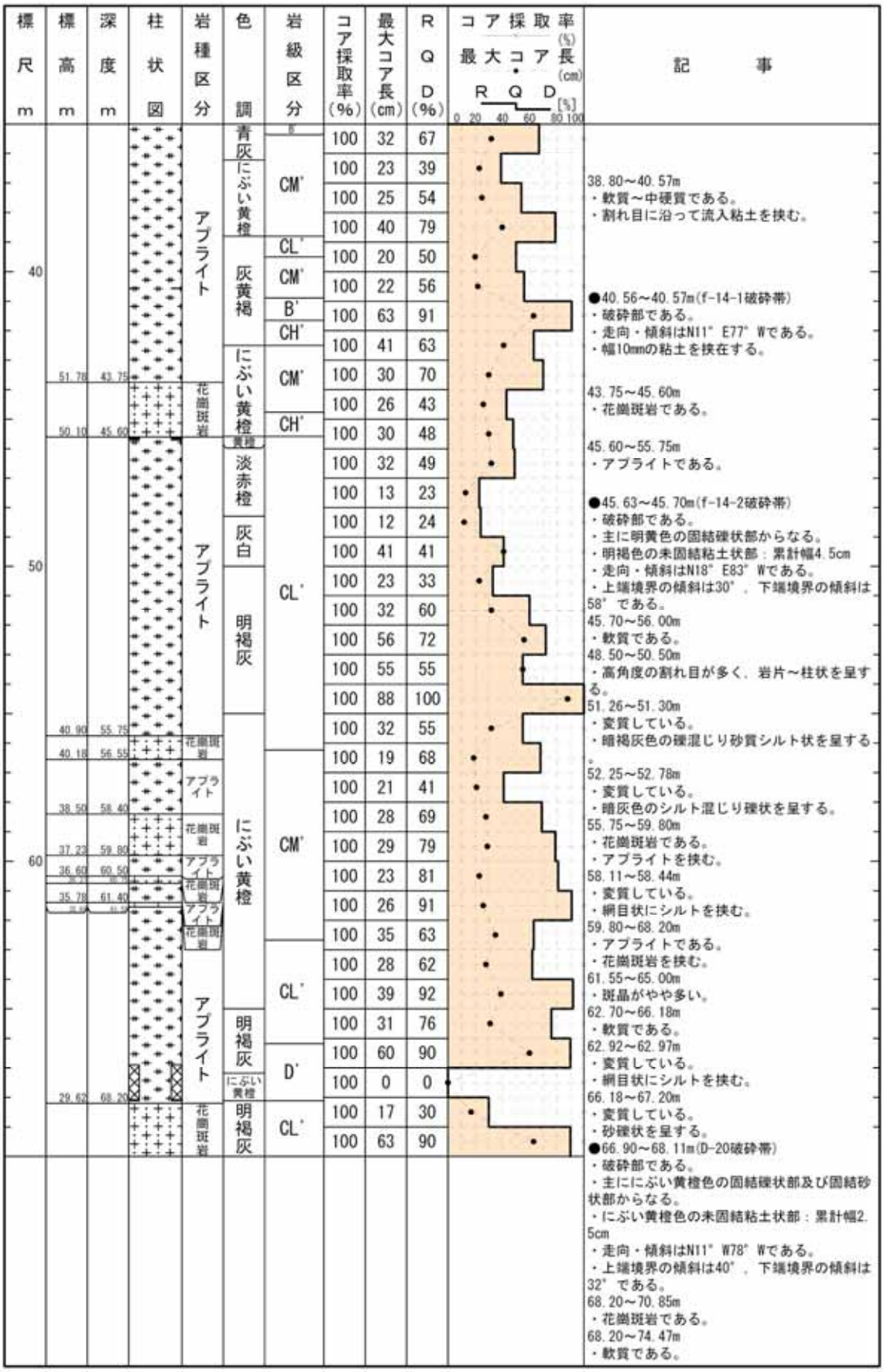
H19－No.14

柱状図(0.00m～35.00m)



H19－No.14

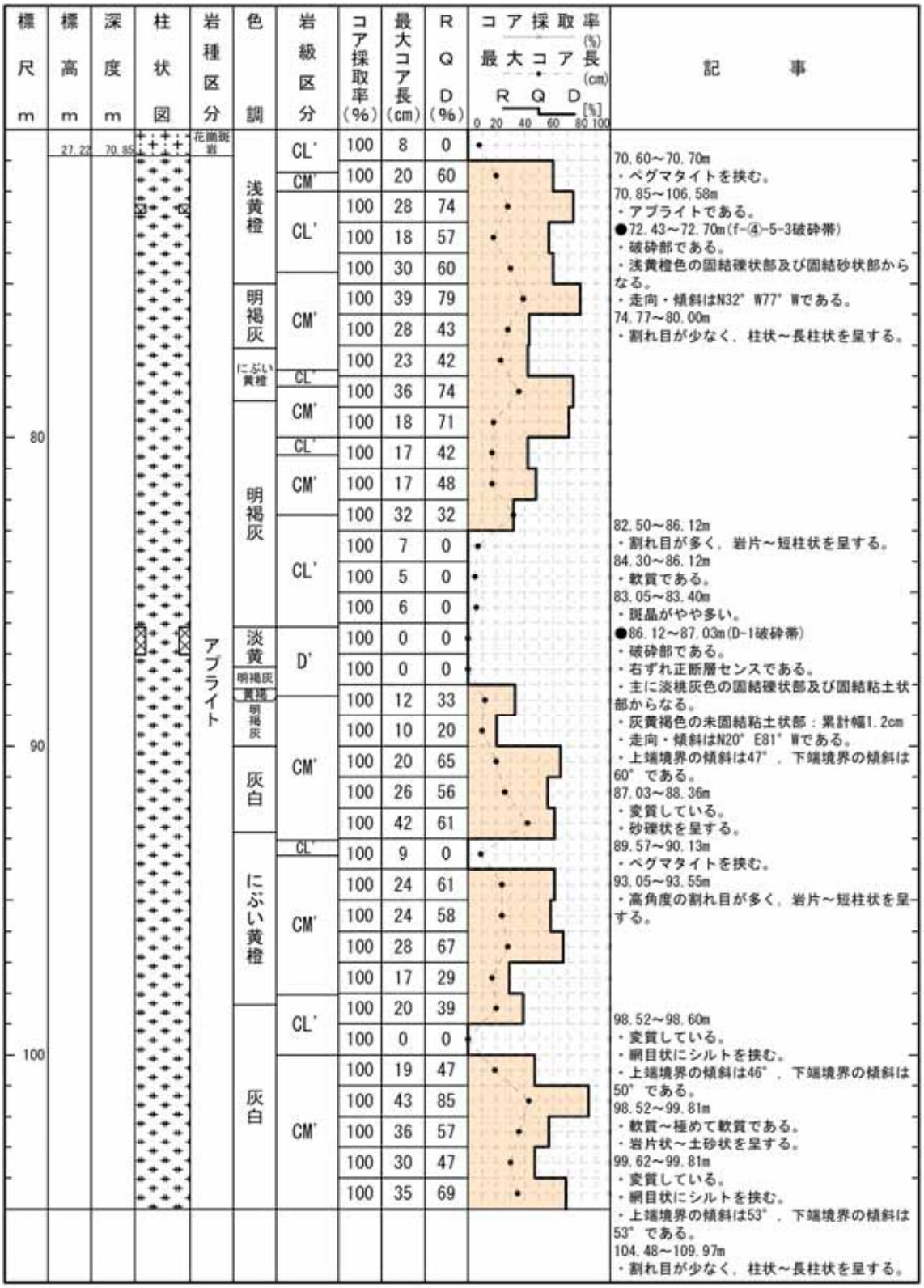
柱状図(35.00m～70.00m)



記事
38.80～40.57m ・軟質～中硬質である。 ・割れ目に沿って流入粘土を挟む。
●40.56～40.57m(f-14-1破砕帯) ・破砕部である。 ・走向・傾斜はN11° E77° Wである。 ・幅10mmの粘土を挟在する。
43.75～45.60m ・花崗斑岩である。
45.60～55.75m ・アプライトである。
●45.63～45.70m(f-14-2破砕帯) ・破砕部である。 ・主に明黄色の固結礫状部からなる。 ・明褐色の未固結粘土状部：累計幅4.5cm ・走向・傾斜はN18° E83° Wである。 ・上端境界の傾斜は30°，下端境界の傾斜は58°である。
45.70～56.00m ・軟質である。
48.50～50.50m ・高角度の割れ目が多く，岩片～柱状を呈する。
51.26～51.30m ・変質している。 ・暗褐灰色の礫混じり砂質シルト状を呈する。
52.25～52.78m ・変質している。 ・暗灰色のシルト混じり礫状を呈する。
55.75～59.80m ・花崗斑岩である。 ・アプライトを挟む。
58.11～58.44m ・変質している。 ・網目状にシルトを挟む。
59.80～68.20m ・アプライトである。 ・花崗斑岩を挟む。
61.55～65.00m ・斑晶がやや多い。
62.70～66.18m ・軟質である。
62.92～62.97m ・変質している。 ・網目状にシルトを挟む。
66.18～67.20m ・変質している。 ・砂礫状を呈する。
●66.90～68.11m(D-20破砕帯) ・破砕部である。 ・主ににぶい黄橙色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。 ・にぶい黄橙色の未固結粘土状部：累計幅2.5cm ・走向・傾斜はN11° W78° Wである。 ・上端境界の傾斜は40°，下端境界の傾斜は32°である。
68.20～70.85m ・花崗斑岩である。
68.20～74.47m ・軟質である。

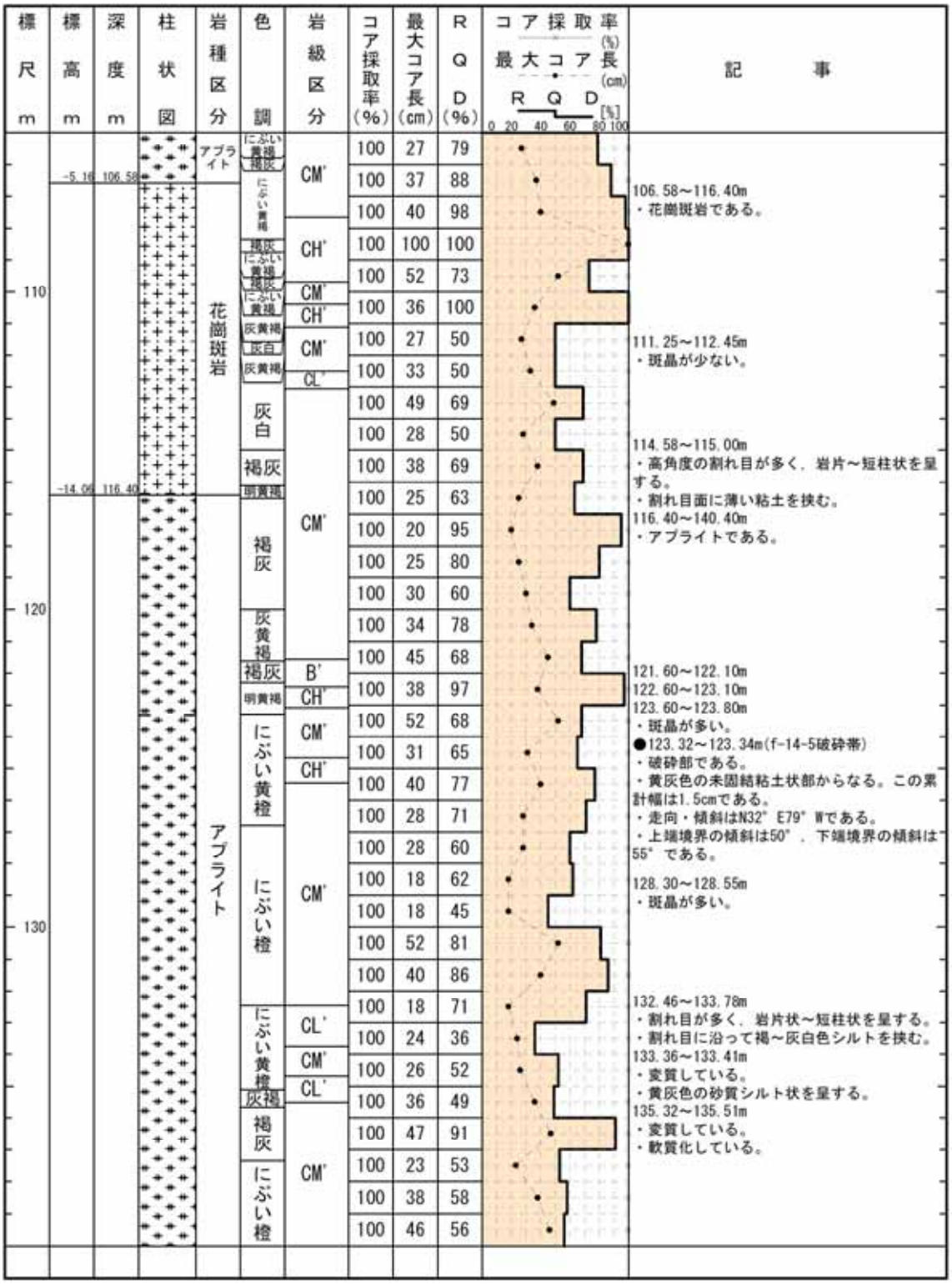
H19－No.14

柱状図(70.00m～105.00m)



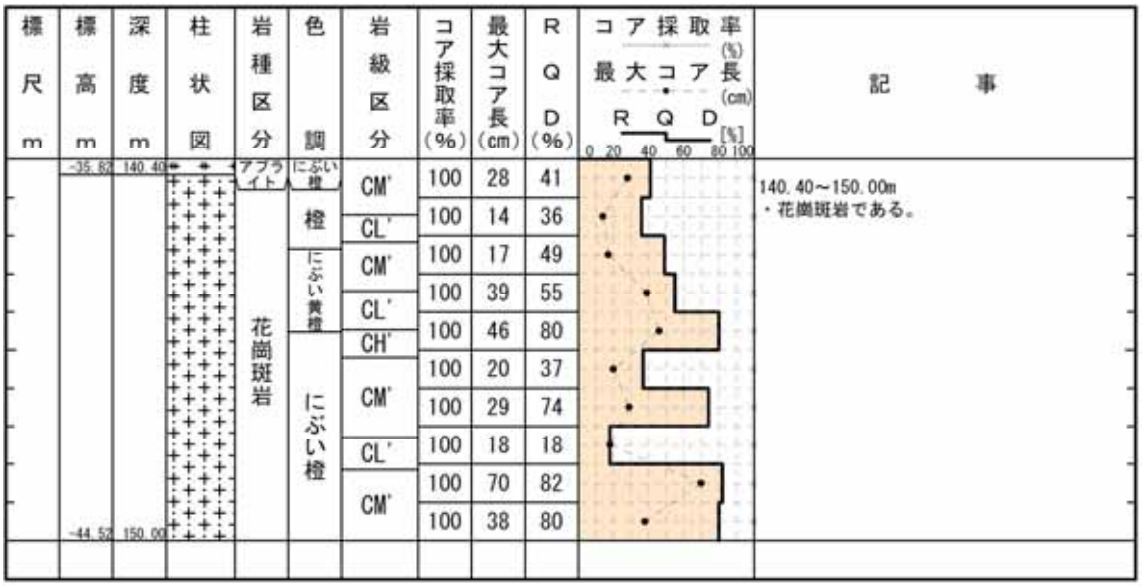
H19－No.14

柱状図(105.00m～140.00m)



H19－No.14

柱状図(140.00m～150.00m)



H19－No.14

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真(0.00m～15.00m)

H19－No.14

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真(15.00m～30.00m)

H19－No.14

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真(30.00m～45.00m)

H19－No.14

コア写真(45.00m～55.00m)

H19－No.14

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真(55.00m～70.00m)

H19－No.14

コア写真(70.00m～85.00m)

H19－No.14

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真(85.00m～100.00m)

H19－No.14

コア写真(100.00m～115.00m)

H19－No.14

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真(115.00m～130.00m)

H19－No.14

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真(130.00m～145.00m)

H19－No.14

コア写真(145.00m～150.00m)

H20－②－1

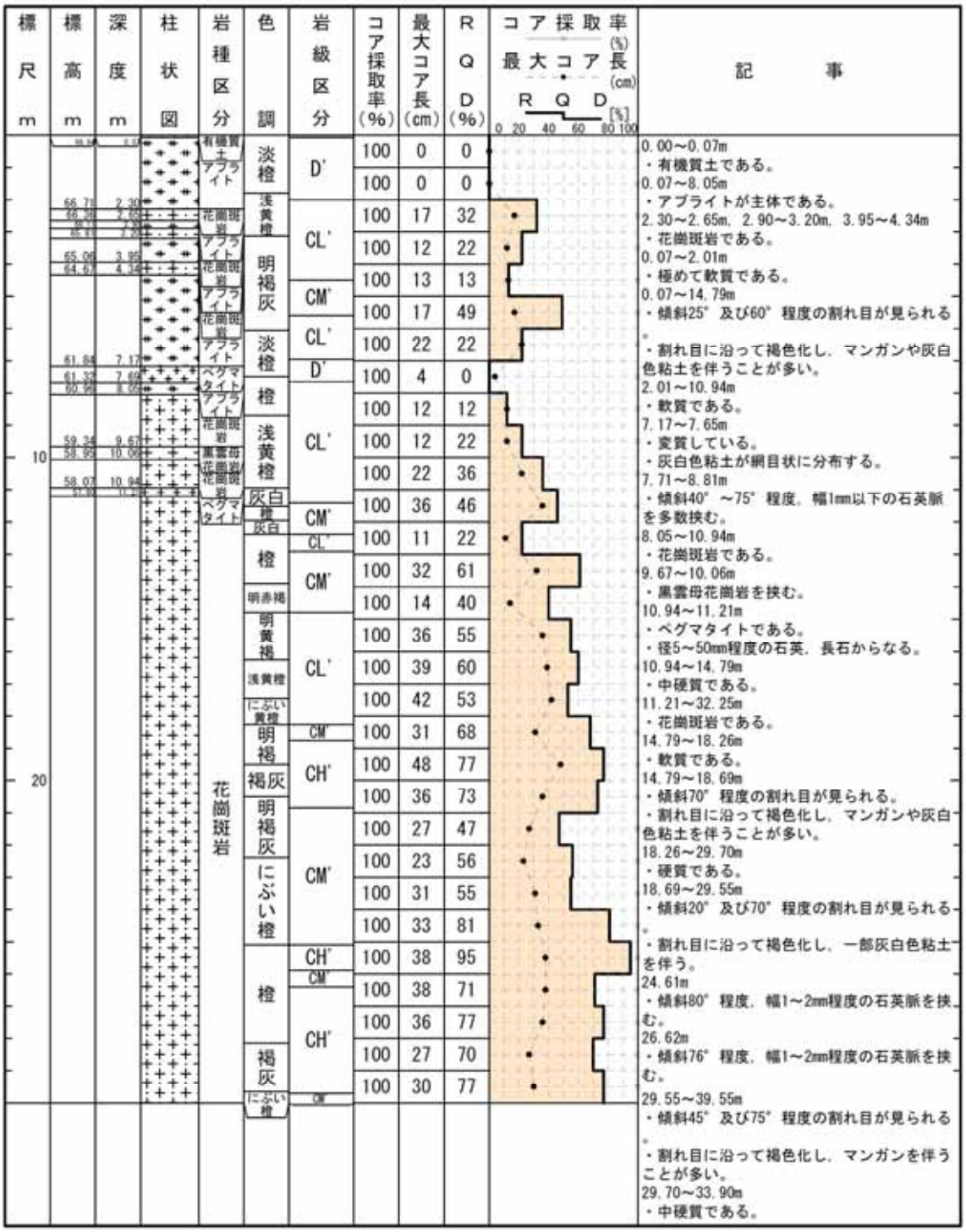
余白

H20－②－1

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

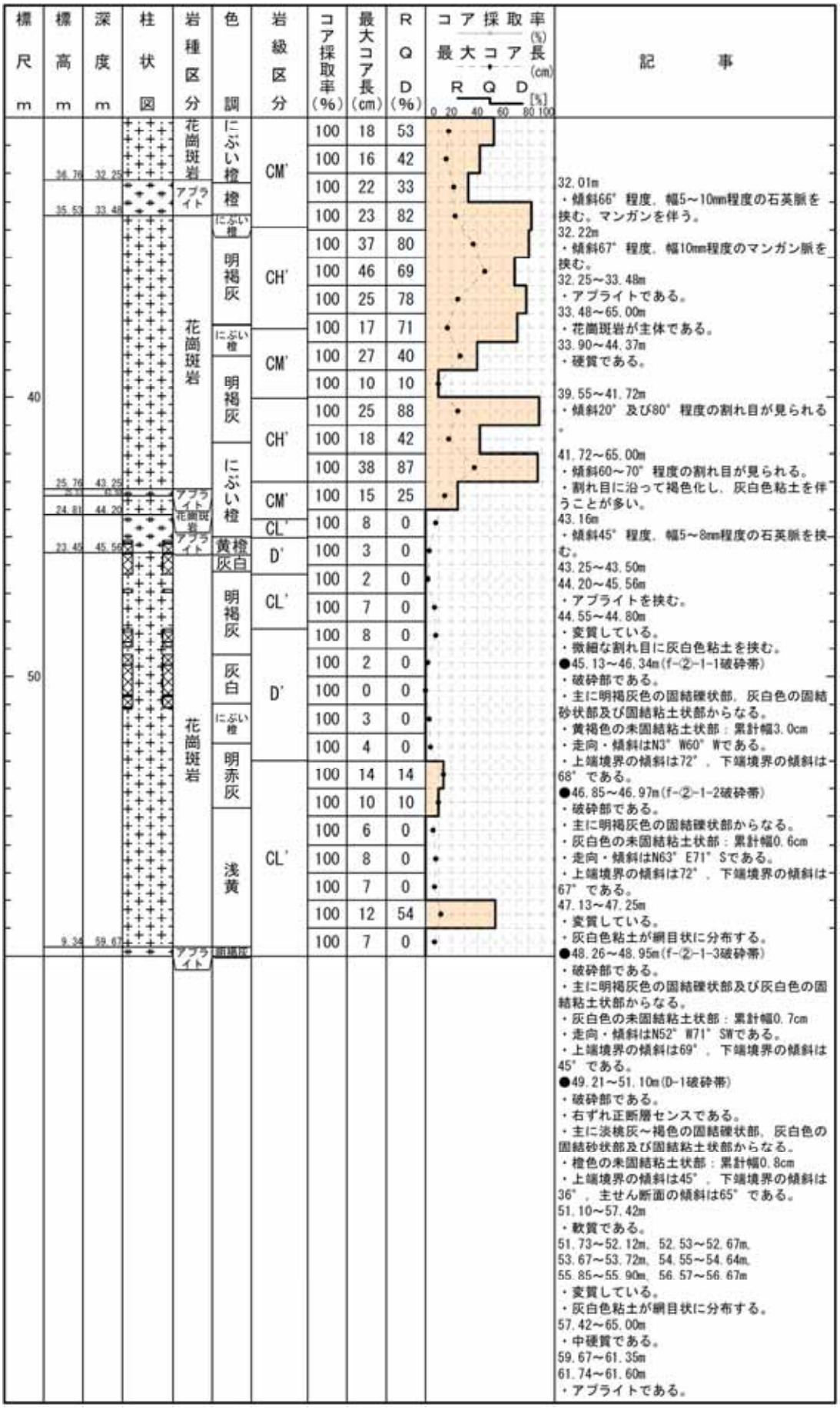
柱状図(0.00m～30.00m)

H20-②-1	孔口標高	T.P.　69.01m	掘削長	65.00m



H20－②－1

柱状図(30.00m～60.00m)



H20－②－1

柱状図(60.00m～65.00m)

H20－②－1

コア写真(0.00m～15.00m)

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真(15.00m～30.00m)

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真(30.00m～45.00m)

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真(45.00m～60.00m)

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真(60.00m～65.00m)

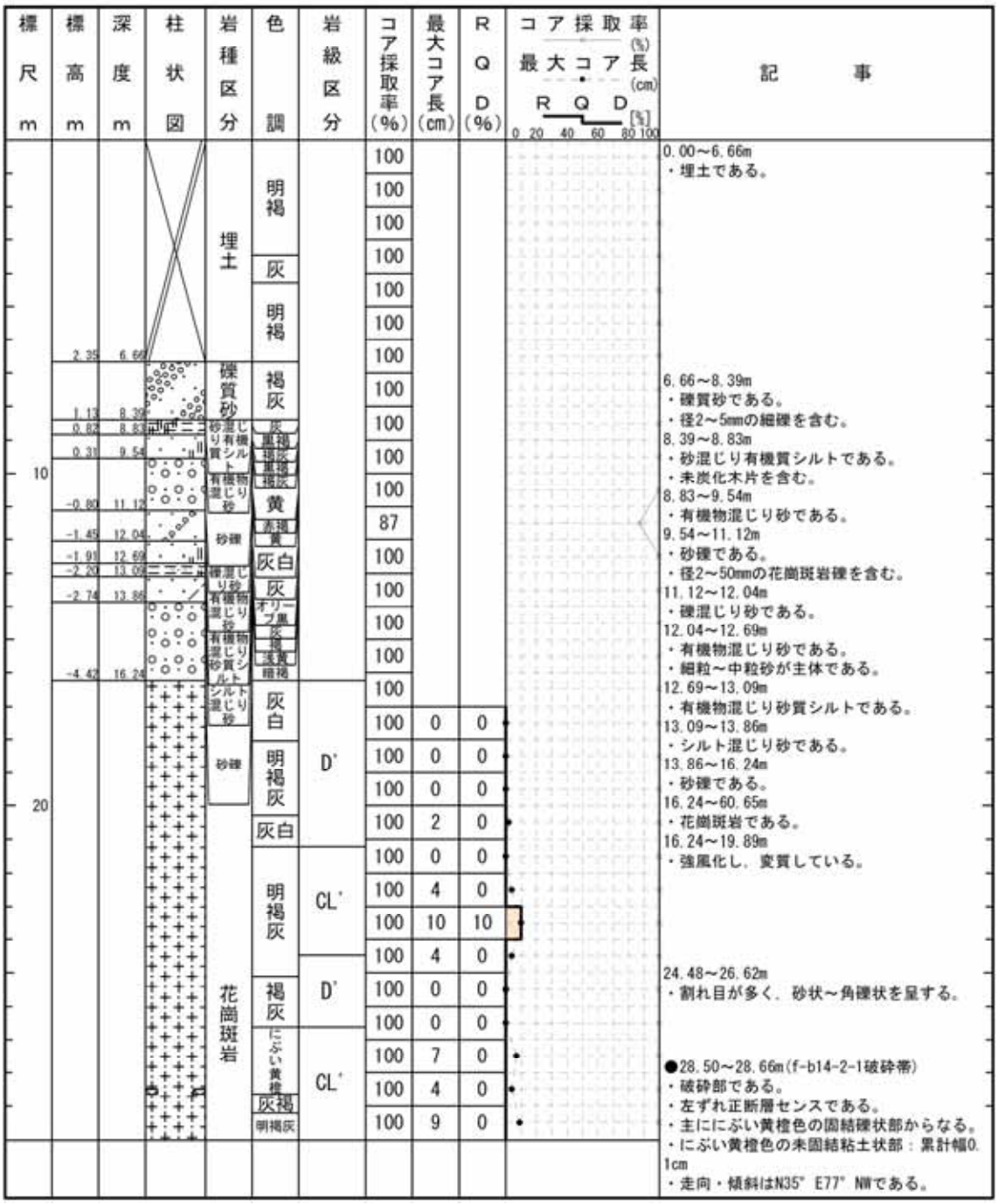
H24－B14－2

余白

H24－B14－2

柱状図(0.00m～30.00m)

H24-B14-2	孔口標高	T.P. 7.06m	掘削長	150.00m



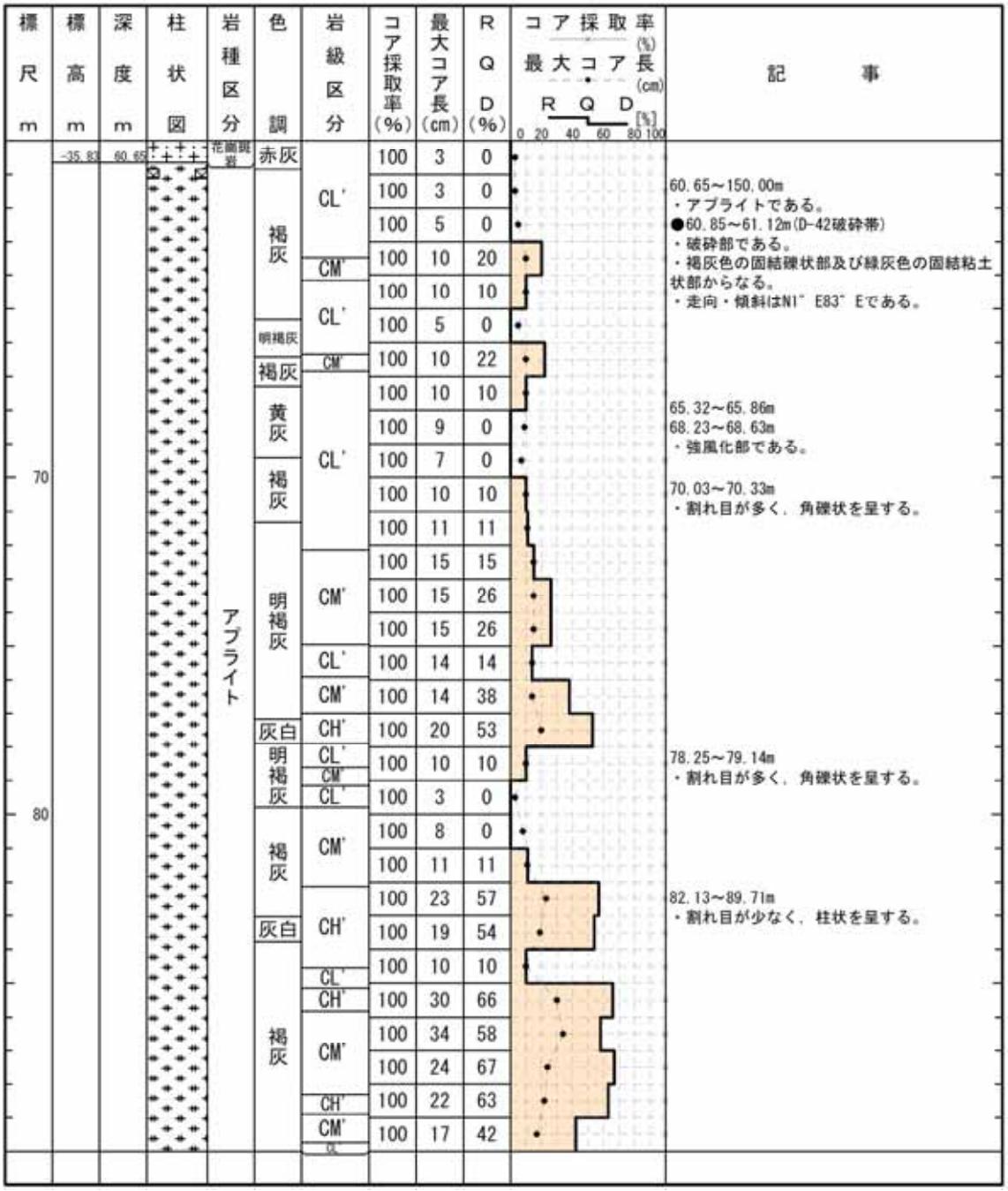
H24－B14－2

柱状図(30.00m～60.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%)・最大コア長(cm)・RQD[%]	記事
				花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	16	16		
						CM'	100	13	13		
						CL'	100	15	26		32.40～32.67m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
							100	9	0		
							100	6	0		
					灰白		100	9	0		35.14～35.74m ・風化部である。
					明褐灰		100	9	0		
							100	6	0		37.52～37.89m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
					にぶい黄橙		100	0	0		●38.10～38.27m(f-b14-2-2破砕帯) ・破砕部である。 ・淡黄白色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN58° E88° Sである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は40°，下端境界の傾斜は50°である。
					淡黄橙	D'					
					明褐灰	CL'	100	5	0		
40							100	5	0		
						CM'	100	10	10		
						CL'	100	5	0		
					灰黄褐		100	13	13		42.13～42.71m 43.51～45.20m ・強風化部である。
							100	16	16		45.90～47.37m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
						CM'	100	5	0		●47.37～47.40m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・主に褐色の固結礫状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm ・走向・傾斜はN38° E85° NWである。
					褐灰	CL'	100	3	0		
							100	5	0		
							100	0	0		
							100	0	0		
50							50	0	0		●49.24～49.55m(D-44破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に緑灰色の固結礫状部からなる。 ・灰色の未固結粘土状部：累計幅2.5cm ・走向・傾斜はN44° E80° Eである。
					ノンコア						
					褐灰	CL'	57	7	0		50.50～51.43m ・コア欠(ボアホールカメラで破砕部がないことを確認)。
							100	8	0		
					明灰褐		100	7	0		
					褐灰	CM'	100	12	12		52.92～53.33m ・強風化部である。
					明赤灰	CL'	100	5	0		53.33～53.36m ・変質している。 ・灰白色の礫混じり粘土状～粘土混じり礫状を呈する。
					灰赤		100	19	19		
					赤灰		100	4	0		
							100	12	12		
							100	3	0		

H24－B14－2

柱状図(60.00m～90.00m)



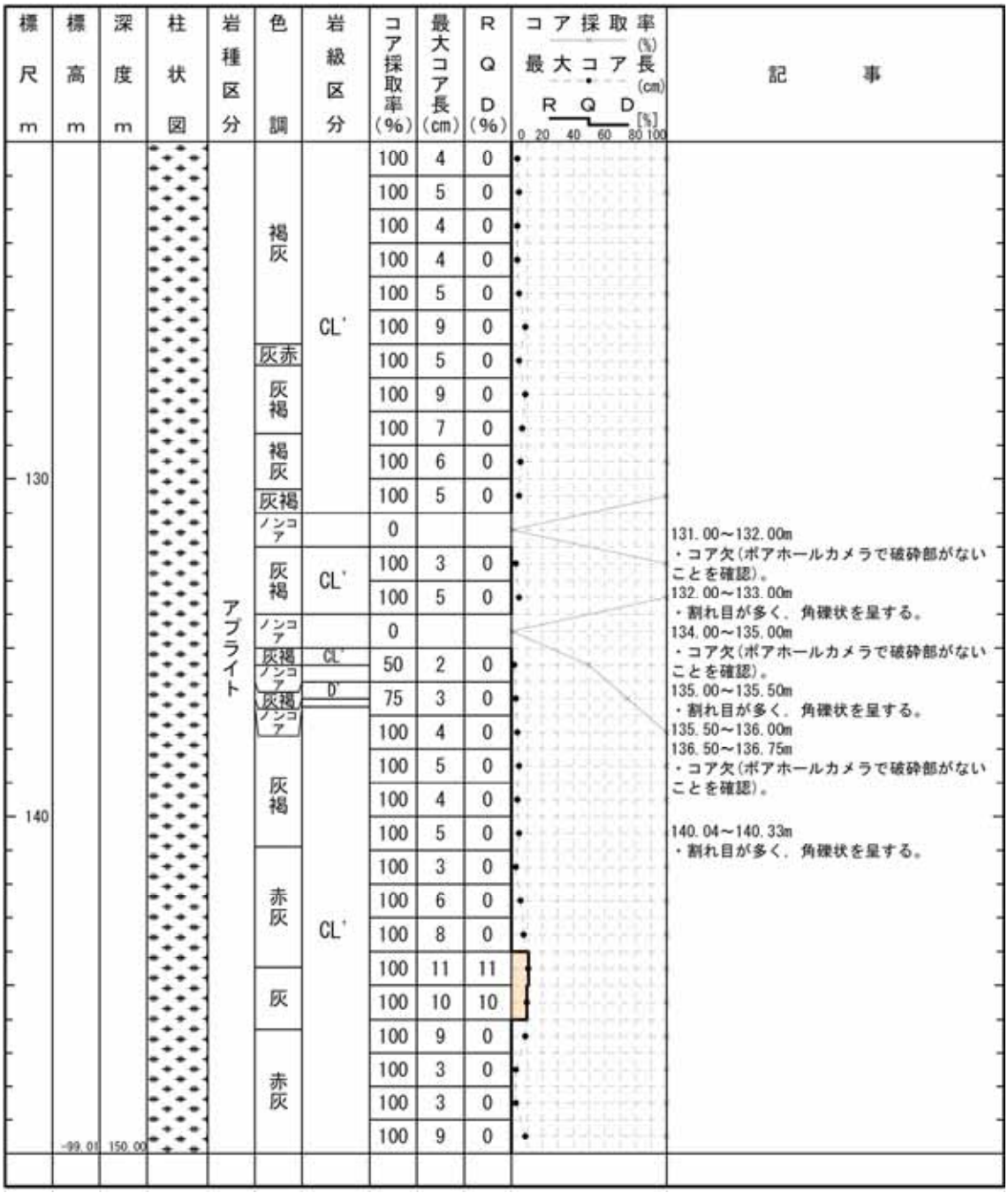
H24－B14－2

柱状図(90.00m～120.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) / 最大コア長(cm) / RQD(%)	記事
				アブライト	褐灰	CL'	100	11	11		90.08～90.56m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
							100	9	0		
							100	16	47		
						CM'	100	6	0		
						CL'	100	7	0		94.00～94.63m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
							100	5	0		
							100	5	0		
					明褐灰						
					褐灰	CM'	100	13	23		96.38～96.97m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
					明褐灰	CL'	100	9	0		
							100	9	0		
100							100	7	0		●101.47～101.52m(f-b14-2-6破砕帯) ・破砕部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN3° E65° Eである。
							100	8	0		
					褐灰		100	8	0		
					明褐灰		100	8	0		
					褐灰	CM'	100	11	11		
						CL'	100	7	0		●105.54～105.61m(D-41破砕帯) ・破砕部である。 ・緑灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN16° E84° Eである。
							100	4	0		
					明褐灰		100	3	0		
					明緑灰		100	8	0		107.29～107.45m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
							100	15	26		●109.16～109.46m(D-1破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に明緑灰色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・明緑灰色の未固結粘土状部：累計幅2.2cm ・走向・傾斜はN1° W76° Wである。
110					明褐灰		100	5	0		
					褐灰		100	3	0		
						CM'	100	11	21		
							100	12	23		109.46～112.49m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
							100	11	11		110.95～111.16m ・変質が著しく，暗緑灰色に変色する。
						CL'	100	7	0		114.66～116.33m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
						CM'	100	9	0		
							100	10	10		
						CL'	100	7	0		
							100	7	0		

H24－B14－2

柱状図(120.00m～150.00m)



H24－B14－2

コア写真(0.00m～18.00m)

H24－B14－2

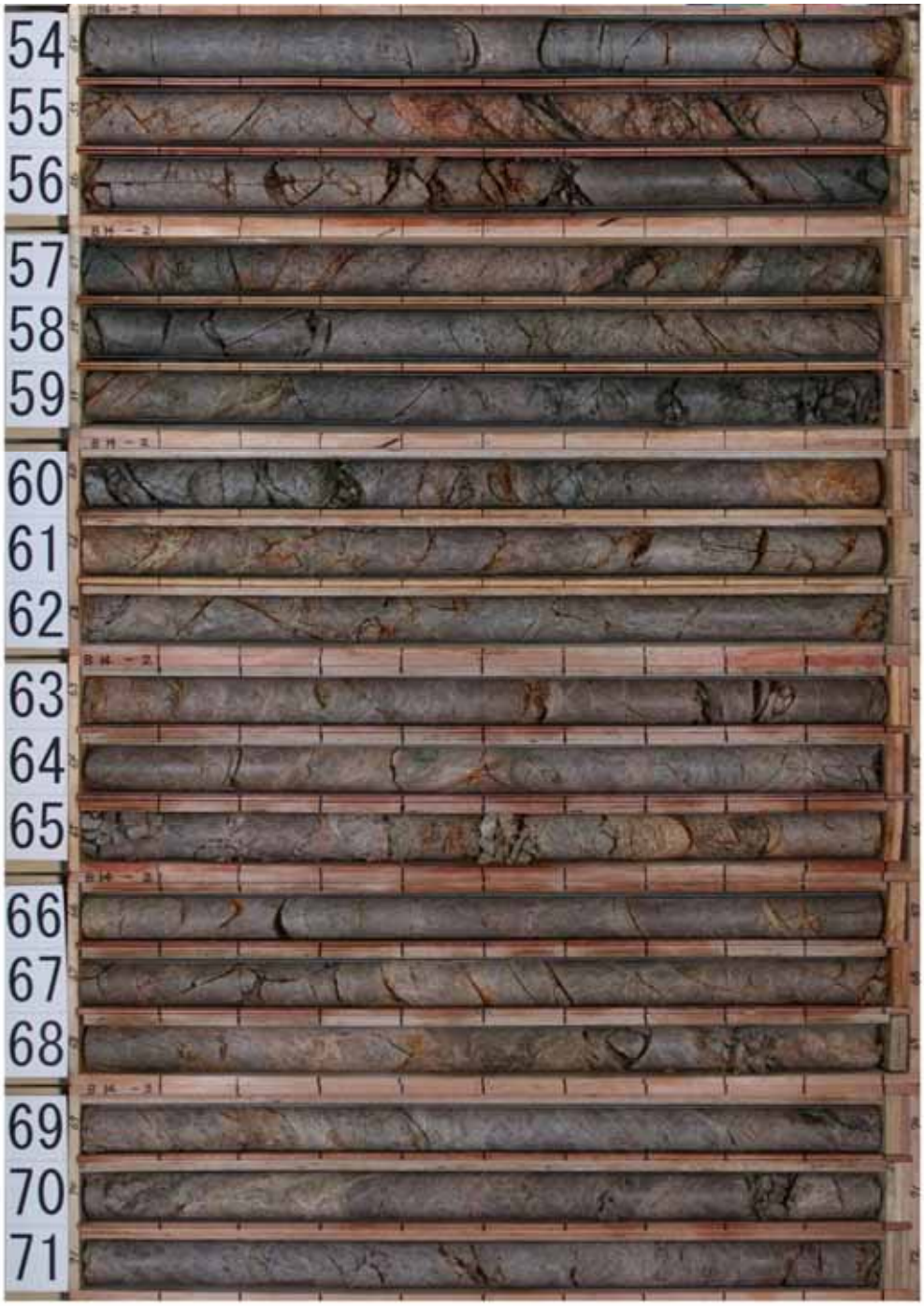
コア写真(18.00m～36.00m)

H24－B14－2

コア写真(36.00m～54.00m)

H24－B14－2

コア写真(54.00m～72.00m)

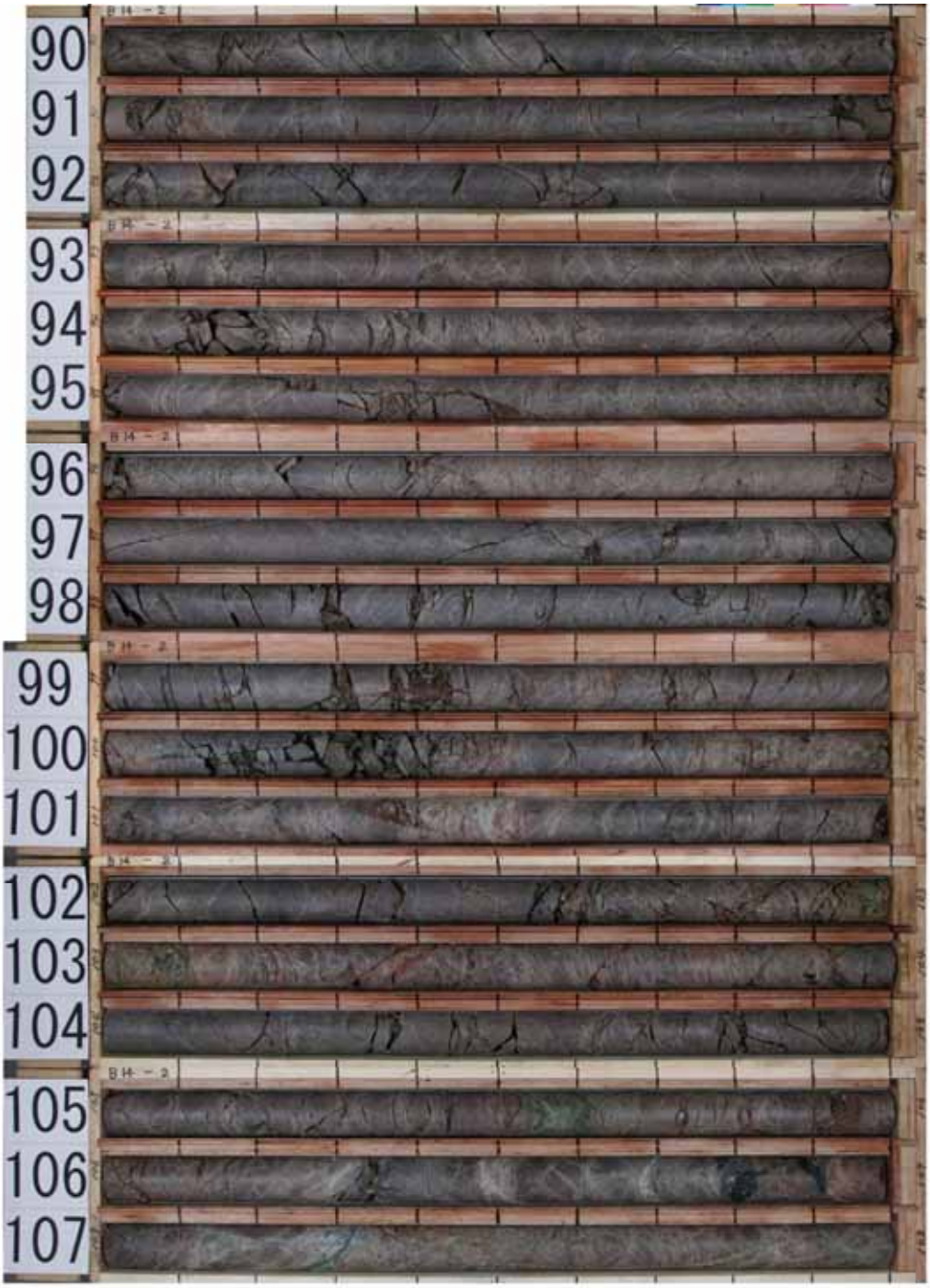


H24－B14－2

コア写真(72.00m～90.00m)

H24－B14－2

コア写真(90.00m～108.00m)



H24－B14－2

コア写真(108.00m～126.00m)

H24－B14－2

コア写真(126.00m～144.00m)

H24－B14－2

コア写真(144.00m～150.00m)

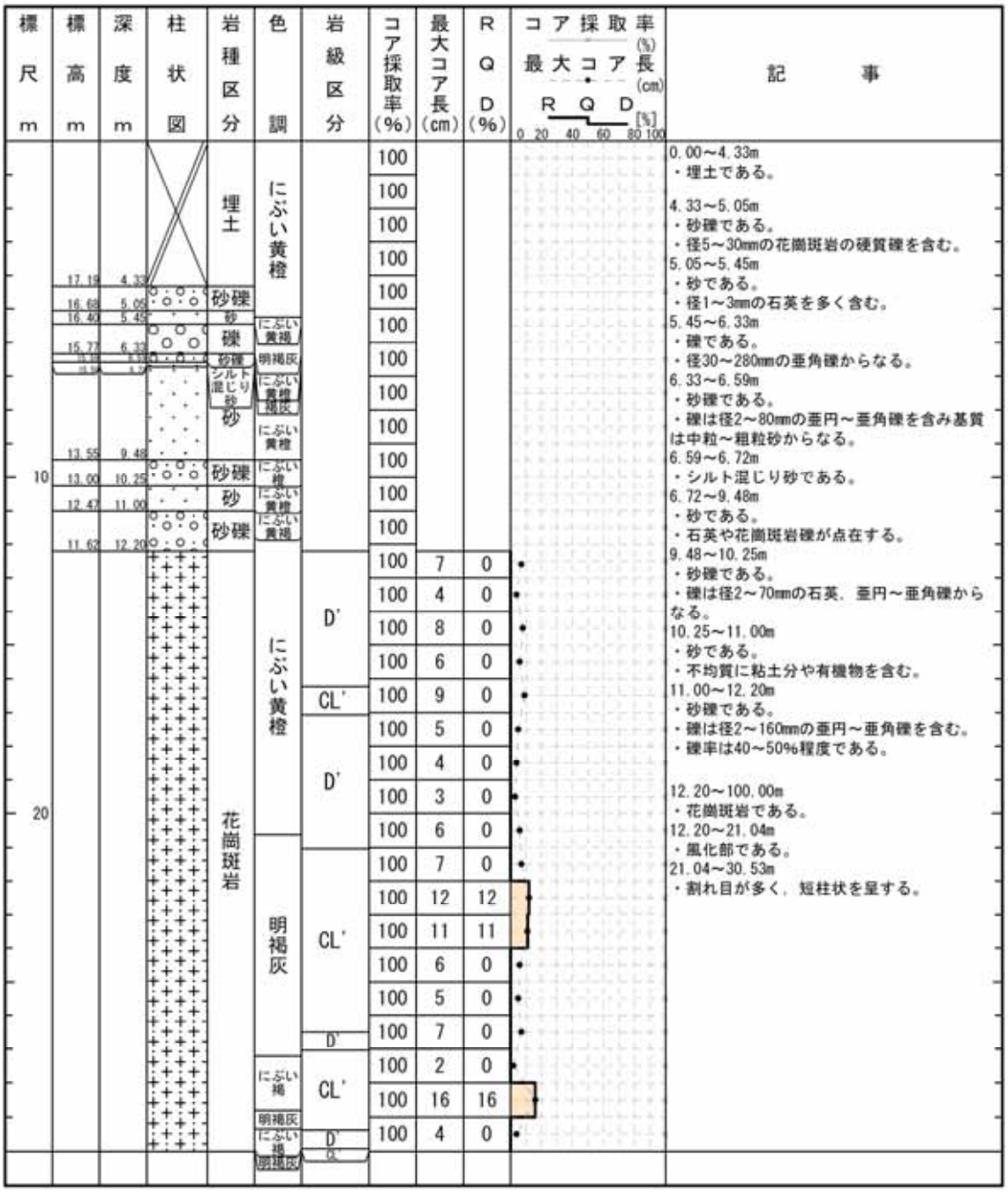
H24－D1－1

余白

H24－D1－1

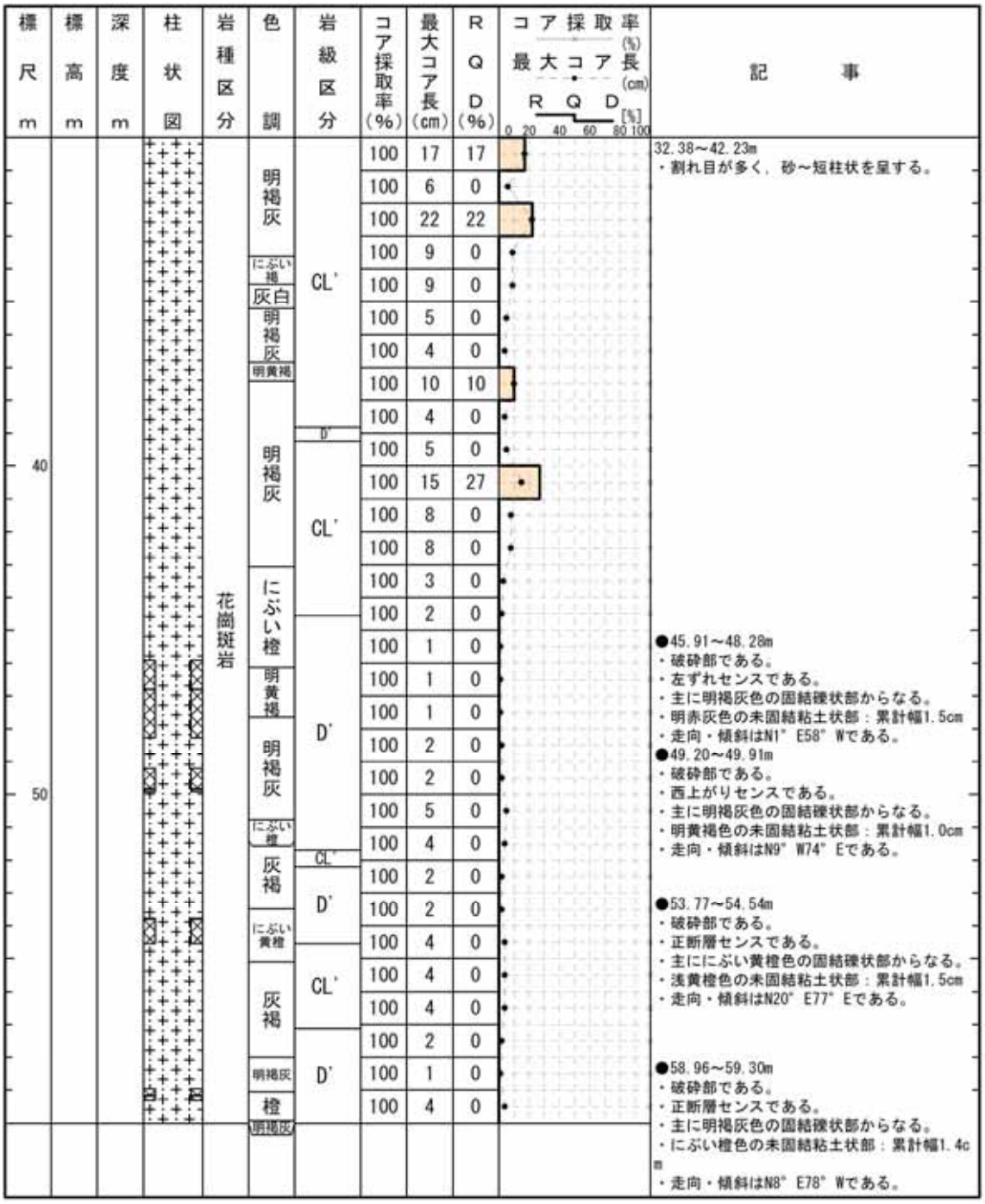
柱状図(0.00m～30.00m)

H24-D1-1	孔口標高	T.P. 20.25m	掘削長	100.00m



H24－D1－1

柱状図(30.00m～60.00m)



第536回審査会合
机上配付資料3 修正

柱状図(60.00m～90.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD[%] 0 20 40 60 80 100	記事
				花崗斑岩	明褐灰	D'	100	1	0		●60.12～60.15m(D-1破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主ににぶい黄色の固結礫状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・走向・傾斜はN9° E88° Wである。
						CL'	100	2	0		
							100	5	0		
					灰褐		100	6	0		
							100	10	10		
							100	10	10		
							100	11	21		
					にぶい黄橙		100	6	0		●68.84～69.00m ・破砕部である。 ・西上がり及び西下がりセンスである。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN31° W72° NEである。
					灰褐		100	4	0		
						D'	100	3	0		
70						CL'	100	3	0		
							100	3	0		
							100	2	0		
							100	3	0		
					にぶい黄橙	D'	100	4	0		
							100	2	0		
					灰褐	CL'	100	4	0		
							100	4	0		
						D'	100	1	0		●78.77～79.19m ・破砕部である。 ・右ずれ逆断層センスである。 ・明オリーブ灰～褐灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN4° E78° Eである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 80.08～81.00m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 ●81.20～81.42m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 ・主ににぶい黄橙色の固結礫状部からなる。 ・灰赤色の未固結粘土状部：累計幅0.4cm ・走向・傾斜はN29° W79° Wである。
						CL'	100	3	0		
80							100	3	0		
					にぶい黄橙		100	5	0		
					灰褐		100	5	0		
							100	6	0		
							100	6	0		
							100	8	0		
							100	9	0		
					にぶい黄橙	D'	100	11	11		87.14～88.35m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
					灰褐	CL'	100	6	0		
							100	4	0		●89.91～89.95m(D-33破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・明赤灰色の未固結礫状部及び明赤灰色の未固結粘土状部からなる。 ・明赤灰色の未固結礫状部：累計幅0.2cm ・明赤灰色の未固結粘土状部：累計幅1.8cm ・走向・傾斜はN22° W80° Eである。

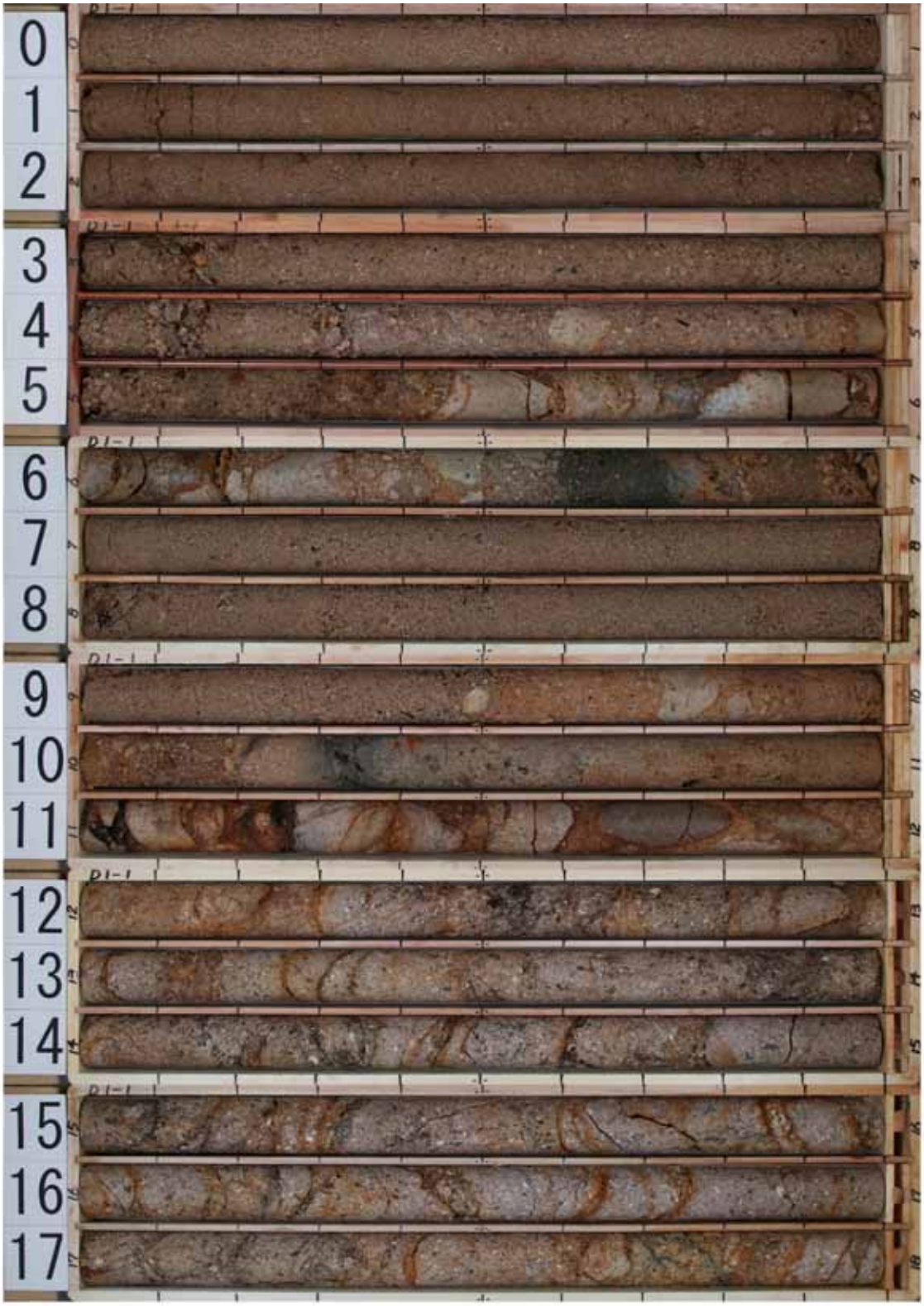
H24－D1－1

柱状図(90.00m～100.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD [%] 0 20 40 60 80 100	記事
				花崗斑岩	灰褐	CL	100	4	0		●90.26～90.84m(f-d1-1-10破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主ににぶい黄橙色の固結礫状部からなる。 ・赤灰色の未固結粘土状部：累計幅0.5cm ・走向・傾斜はN53° W80° NEである。
					灰	D'	100	3	0		
					灰褐	CL	100	1	0		
					褐灰	D'	100	4	0		●91.26～91.52m(f-d1-1-11破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主ににぶい黄橙色の固結礫状部からなる。 ・赤灰色の未固結粘土状部：累計幅1.2cm ・走向・傾斜はN31° E83° SEである。
					灰褐	CL'	100	3	0		
						D'	100	5	0		●93.12～93.24m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主ににぶい黄橙色の固結礫状部からなる。 ・灰赤色の未固結粘土状部：累計幅0.2cm ・走向・傾斜はN11° E83° Eである。
						CL'	100	5	0		
							100	3	0		
					灰黄褐		100	4	0		
	-50.46	100.00			灰褐		100	5	0		
											95.23～99.46m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。 ●99.68～99.71m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主ににぶい黄橙色の固結礫状部からなる。 ・灰赤色の未固結粘土状部：累計幅0.8cm ・上端境界の傾斜は65° である。

H24－D1－1

コア写真(0.00m～18.00m)



H24－D1－1

コア写真(18.00m～36.00m)

H24－D1－1

コア写真(36.00m～54.00m)

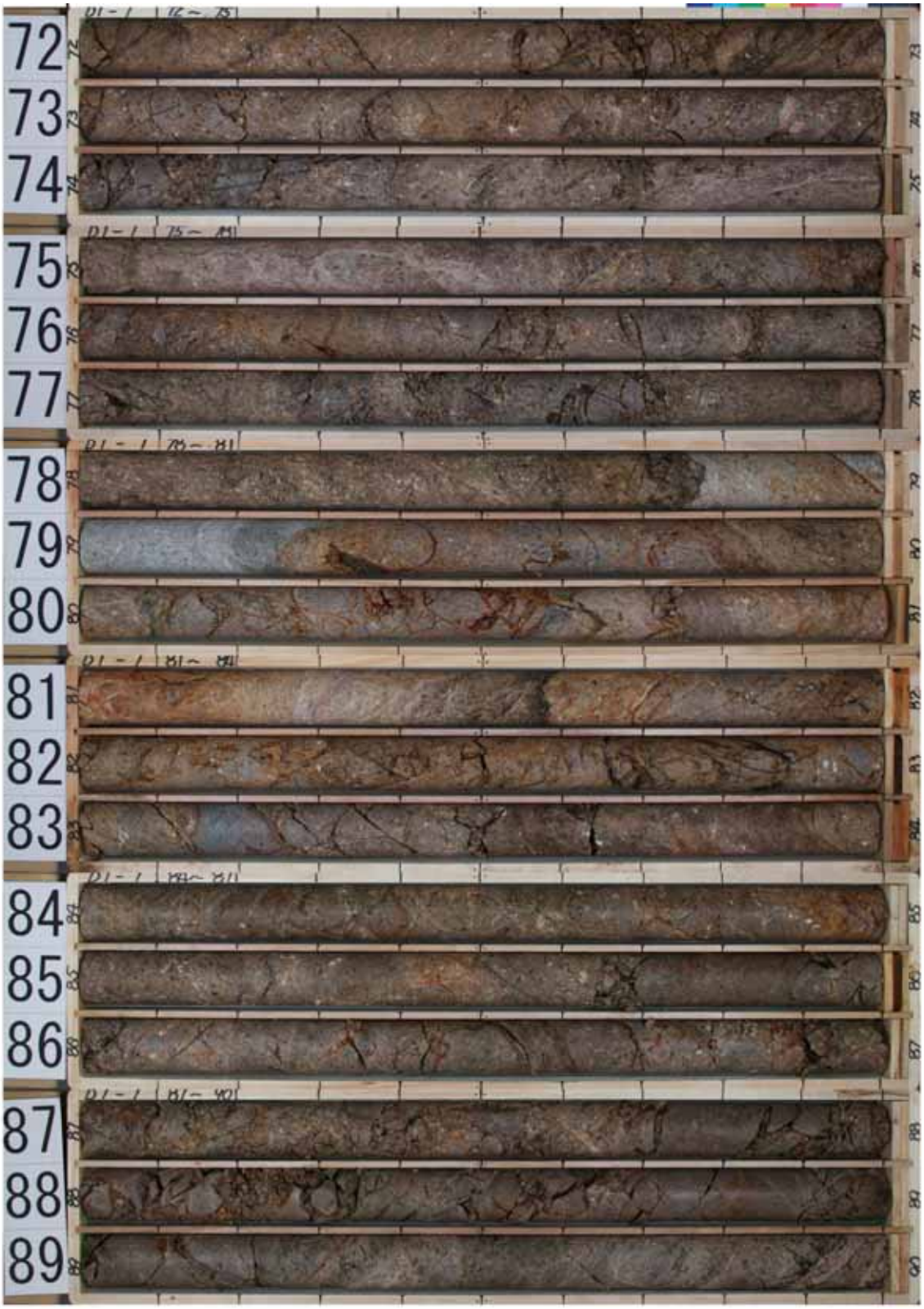
H24－D1－1

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真(54.00m～72.00m)

H24－D1－1

コア写真(72.00m～90.00m)



H24－D1－1

コア写真(90.00m～100.00m)

H27－B－1

余白

H27－B－1

柱状図(0.00m～30.00m)

H27-B-1	孔口標高	T.P.　20.22m	掘削長	140.00m

H27－B－1

柱状図(30.00m～60.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%)・最大コア長(cm)・RQD(%)	記事
				花崗斑岩	明褐灰	D'	100	4	0		
					黄褐	CL'	100	3	0		31.05～31.23m ・変質している。 ・白色粘土状を呈する。
					にぶい黄橙		100	6	0		31.70～32.20m ・割れ目沿いに砂状を呈し，砂混じり岩片状を呈する。
					明褐灰	CL'	100	14	14		33.40m ・割れ目沿いに幅20mm砂状を呈する。
					にぶい黄橙	CL'	100	4	0		●34.54～34.59m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 ・主ににぶい黄橙色の固結礫状部からなる。 ・灰黄褐色の未固結粘土状部：累計幅0.4cm ・走向・傾斜はN25°E46°Wである。 ・上端境界の傾斜は10°～40°，下端境界の傾斜は11°である。
						D'	100	9	0		35.37～37.15m ・著しく軟質化している。
					明褐灰	CL'	100	7	0		37.80m ・割れ目沿いに，砂状を呈する。
							100	5	0		40.32～40.77m ・砂礫状を呈する。
							100	4	0		42.24～42.28m ・変質している。 ・淡黄色粘土状を呈する。
							100	8	0		●42.41～42.49m ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主ににぶい黄橙色の固結礫状部からなる。 ・にぶい黄褐色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm ・走向・傾斜はN65°W36°NEである。 ・上端境界の傾斜は63°，下端境界の傾斜は18°である。
					にぶい橙		100	4	0		
					にぶい黄橙	D'	100	2	0		
					にぶい橙		100	2	0		
					灰褐		100	1	0		
					灰白		100	1	0		
					灰褐		100	1	0		
					にぶい橙		100	2	0		
					淡黄		100	1	0		
					にぶい褐	CL'	100	4	0		●44.24～44.53m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 ・主に灰褐色の固結礫状部からなる。 ・灰黄褐色の未固結粘土状部：累計幅0.2cm ・走向・傾斜はN1°E89°Wである。 ・上端境界の傾斜は5°～13°，下端境界の傾斜は70°である。
					黄褐	D'	100	1	0		
					にぶい黄橙	CL'	100	6	0		●44.53～44.83m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 ・主ににぶい橙色の固結礫状部からなる。 ・灰白色の未固結礫状部：累計幅1.2cm ・灰黄褐色の未固結粘土状部：累計幅0.5cm ・走向・傾斜はNS66°Eである。 ・上端境界の傾斜は70°，下端境界の傾斜は75°～85°である。
					にぶい橙		100	5	0		
					灰褐	D'	100	2	0		
						CL'	100	4	0		
					にぶい橙	CL'	100	3	0		●45.36～45.39m ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主ににぶい橙色の固結礫状部からなる。 ・灰褐色の未固結粘土状部：累計幅0.2cm ・走向・傾斜はN43°E70°SEである。 ・上端境界の傾斜は62°，下端境界の傾斜は65°である。
							100	7	0		●46.12～46.17m ・破砕部である。 ・主に淡黄色の固結礫状部からなる。 ・黒褐色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm ・走向・傾斜はN14°E79°Wである。 ・上端境界の傾斜は31°，下端境界の傾斜は35°～70°である。
							100	5	0		
						CL'	100	6	0		
							100	5	0		
					にぶい褐	D'	100	2	0		
					にぶい橙	CL'					

H27－B－1

第536回審査会合
机上配付資料3 修正

柱状図(30.00m～60.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	コア採取率(%)・最大コア長(cm)・RQD(%) 0 20 40 60 80 100	記事
				花崗斑岩	明褐灰	D'	100	4	0		
					黄褐	CL'	100	3	0		
					にぶい黄橙		100	6	0		
					明褐灰	CL'	100	14	14		
							100	4	0		
					にぶい黄橙	CL'	100	4	0		●47.40～47.51m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に黄褐色の固結砂状部からなる。 ・灰褐色の未固結粘土状部：累計幅0.2cm ・走向・傾斜はN21°E84°Eである。 ・上端境界の傾斜は58°，下端境界の傾斜は55°である。
						D'	100	9	0		
					明褐灰	CL'	100	7	0		
							100	5	0		
							100	4	0		
40							100	8	0		●49.17～49.22m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・主に明黄褐色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。 ・明黄褐色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm ・走向・傾斜はN47°E45°Wである。 ・上端境界の傾斜は25°，下端境界の傾斜は23°である。
					にぶい橙		100	4	0		
					にぶい黄橙	D'	100	2	0		
					にぶい橙		100	2	0		
					灰褐		100	1	0		
					灰白						
					灰褐		100	1	0		
					にぶい橙		100	1	0		
					淡黄						
					にぶい褐		100	2	0		●52.72～52.81m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・主に明褐灰色の固結礫状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅1.0cm ・走向・傾斜はN15°E82°Eである。 ・上端境界の傾斜は56°，下端境界の傾斜は14°である。
					黄褐	CL'	100	1	0		
						D'					
					にぶい黄橙		100	4	0		
50						CL'	100	6	0		●53.17～53.22m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に明褐灰色の固結礫状部からなる。 ・灰褐色の未固結粘土状部：累計幅0.2cm ・走向・傾斜はN27°E64°Wである。 ・上端境界の傾斜は29°，下端境界の傾斜は27°である。
					にぶい橙		100	5	0		
						D'	100	2	0		
					灰褐	CL'	100	4	0		
							100	3	0		●59.82～59.85m(D-1破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主ににぶい褐色の固結礫状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.7cm ・走向・傾斜はN26°E80°Wである。 ・上端境界の傾斜は22°，下端境界の傾斜は28°である。
					にぶい橙	CL'	100	7	0		
							100	5	0		
						CL'	100	6	0		
							100	5	0		
					にぶい褐	D'	100	2	0		
					にぶい橙	CL'					
											60.99～63.61m ・硬質であるが，割れ目が多い。 63.61～64.00m ・砂礫状を呈する。 64.33～66.07m ・硬質であるが，割れ目が多い。 67.80～67.93m ・砂礫状を呈する。 ●69.70～69.73m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・主に灰黄色の固結礫状部からなる。 ・にぶい黄橙色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・走向・傾斜はN25°E82°Eである。 ・上端境界の傾斜は55°，下端境界の傾斜は57°である。

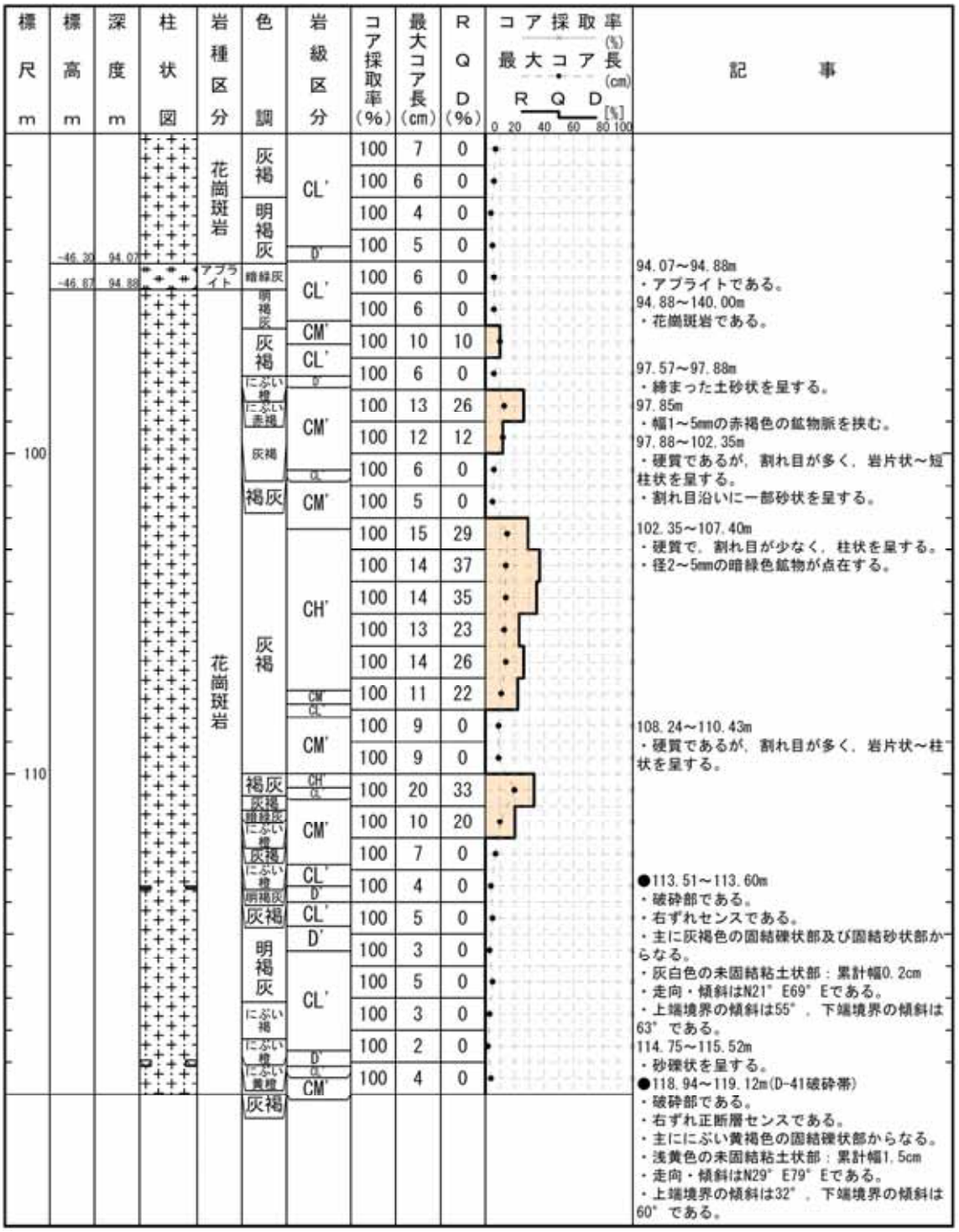
H27－B－1

柱状図(60.00m～90.00m)

73.35～73.38m
・幅25～40mmで締まった砂状を呈する。
●74.36～74.50m
・破砕部である。
・正断層センスである。
・主ににぶい黄橙色の固結砂状部からなる。
・灰褐色の未固結粘土状部：累計幅0.7cm
・走向・傾斜はN15°E85°Wである。
・上端境界の傾斜は27°，下端境界の傾斜は30°である。
●75.57～76.00m
・破砕部である。
・主に灰褐色の固結礫状部からなる。
・灰褐色の未固結粘土状部：累計幅1.2cm
・走向・傾斜はN34°E87°NWである。
・上端境界の傾斜は25°，下端境界の傾斜は68°である。
●78.72～78.87m
・破砕部である。
・右ずれセンスである。
・主ににぶい黄橙色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。
・灰褐色の未固結粘土状部：累計幅0.2cm
・走向・傾斜はN17°E71°Eである。
・上端境界の傾斜は31°，下端境界の傾斜は60°である。
81.17m
・割れ目に砂及び褐色粘土を挟む。
82.51～82.62m
・礫混じり砂状を呈する。
82.94～84.92m
・硬質で，コアは短柱状～柱状を呈する。
●85.38～85.41m(f-b-1-16破砕帯)
・破砕部である。
・にぶい黄橙色の固結礫状部及び灰黄褐色の固結粘土状部からなる。
・走向・傾斜はN28°E86°Eである。
・フィルム状の粘土を挟在する。
・上端境界の傾斜は45°～50°，下端境界の傾斜は47°である。
87.20～87.51m
・締まった硬質砂状を呈する。
・橙色の粘土脈を挟む。

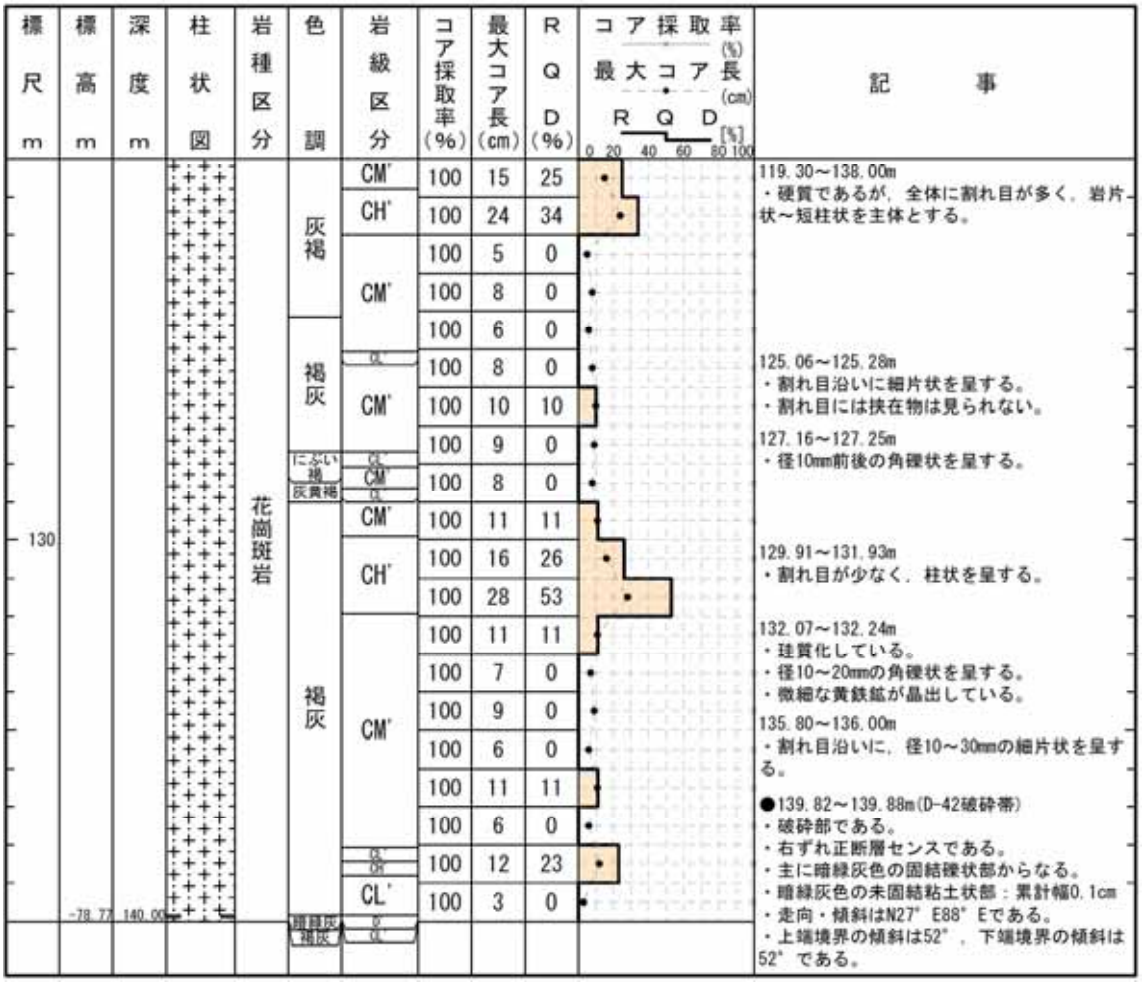
H27－B－1

柱状図(90.00m～120.00m)



H27－B－1

柱状図(120.00m～140.00m)

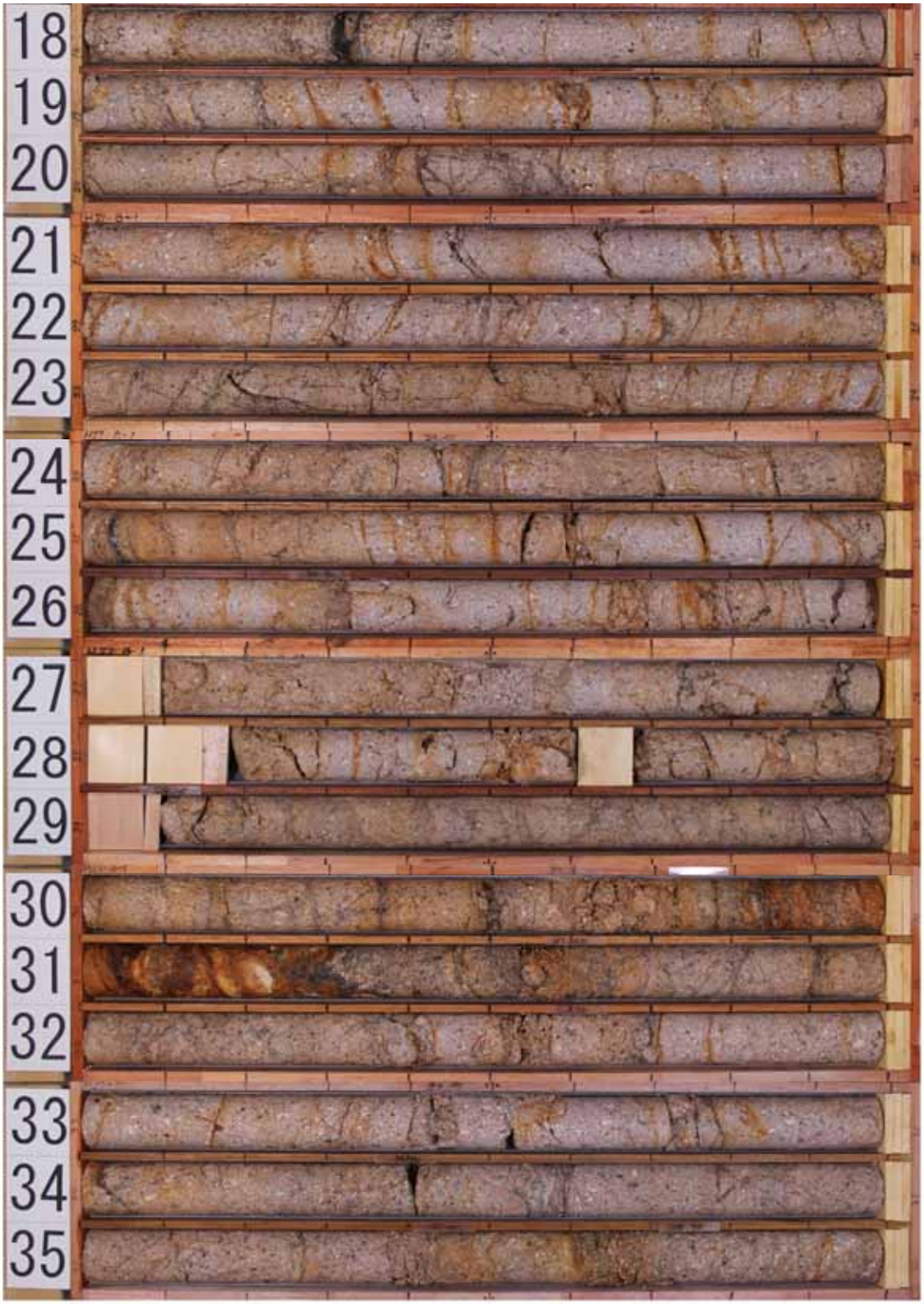


H27－B－1

コア写真(0.00m～18.00m)

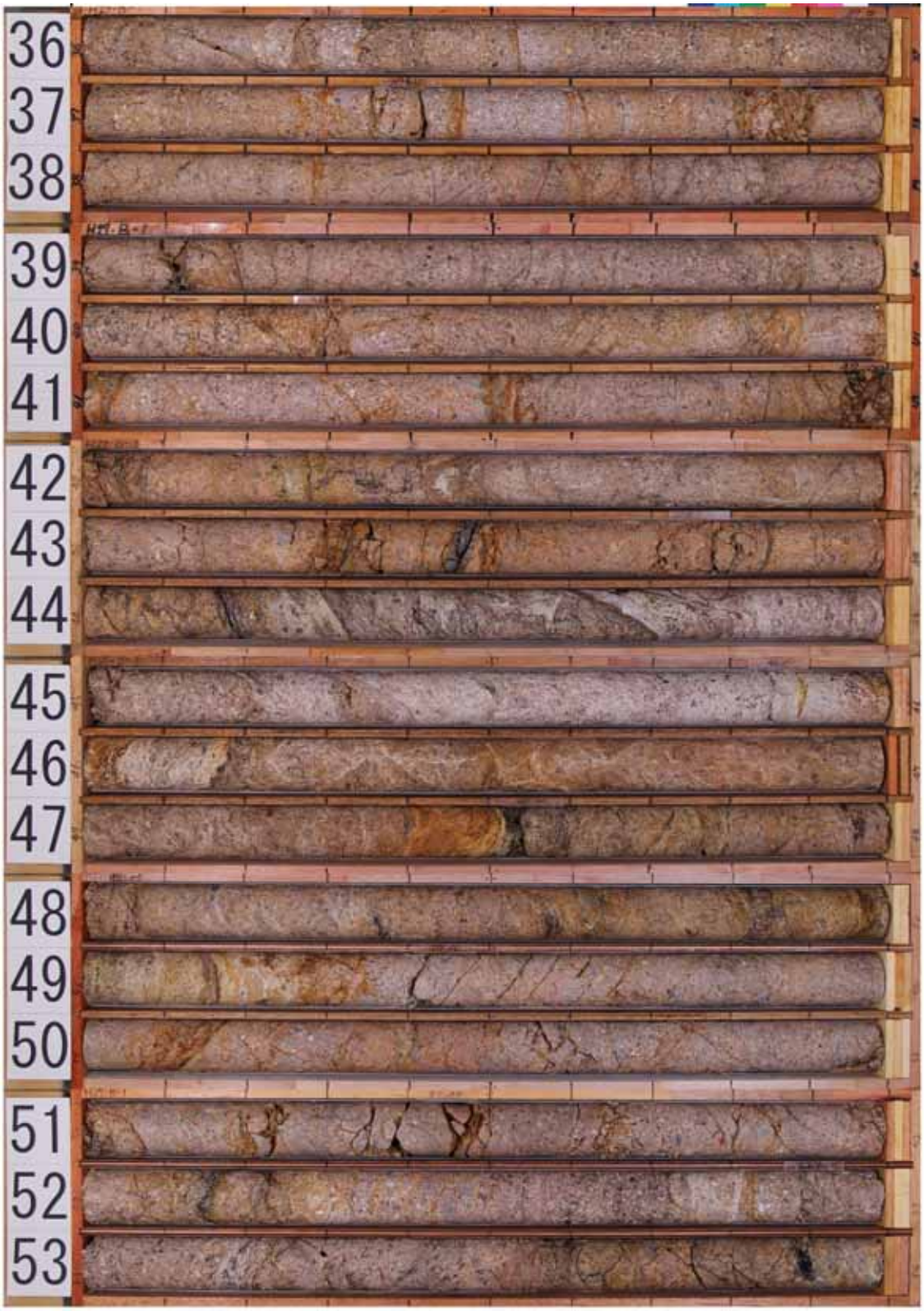
H27－B－1

コア写真(18.00m～36.00m)



H27－B－1

コア写真(36.00m～54.00m)

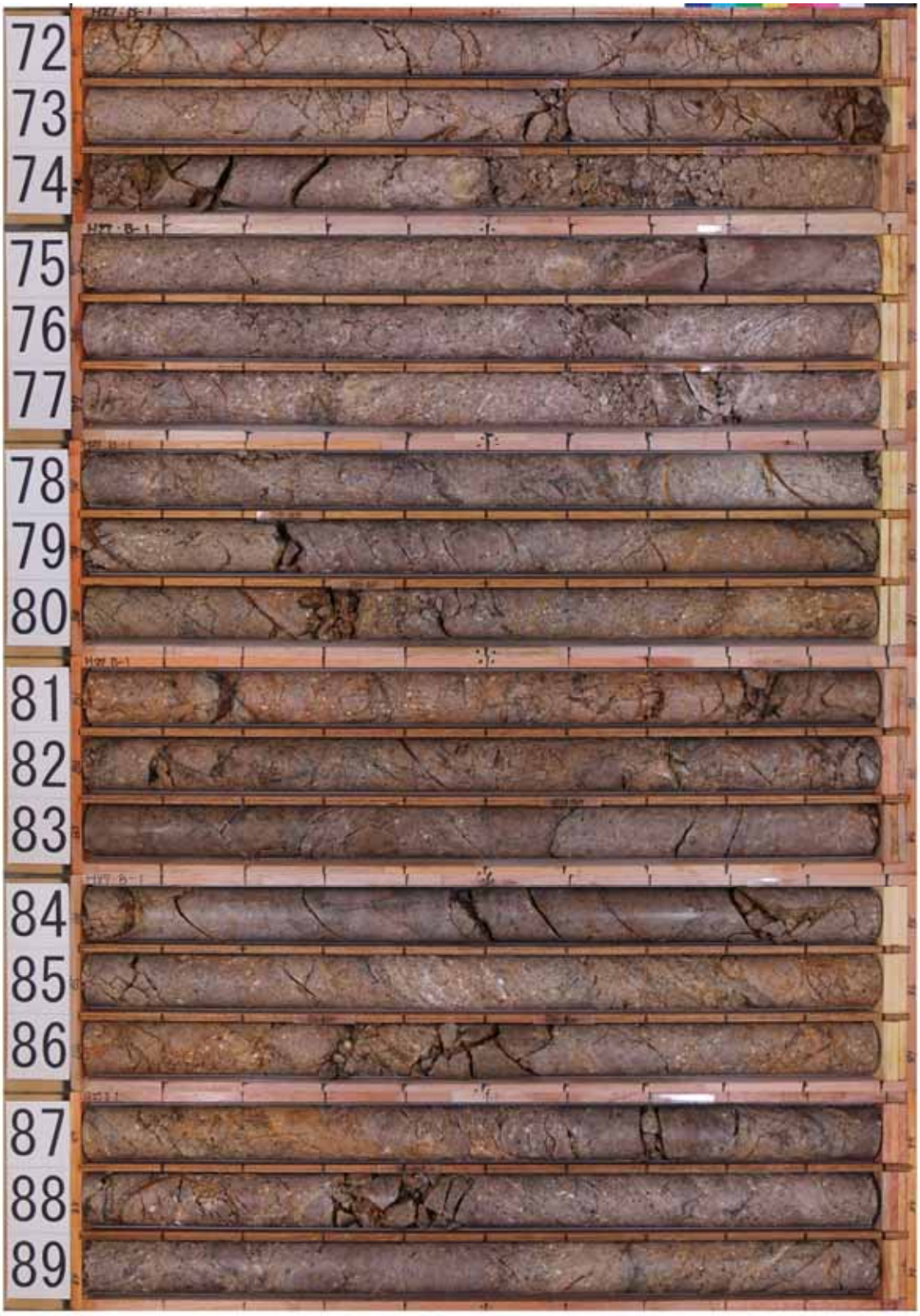


H27－B－1

コア写真(54.00m～72.00m)

H27－B－1

コア写真(72.00m～90.00m)

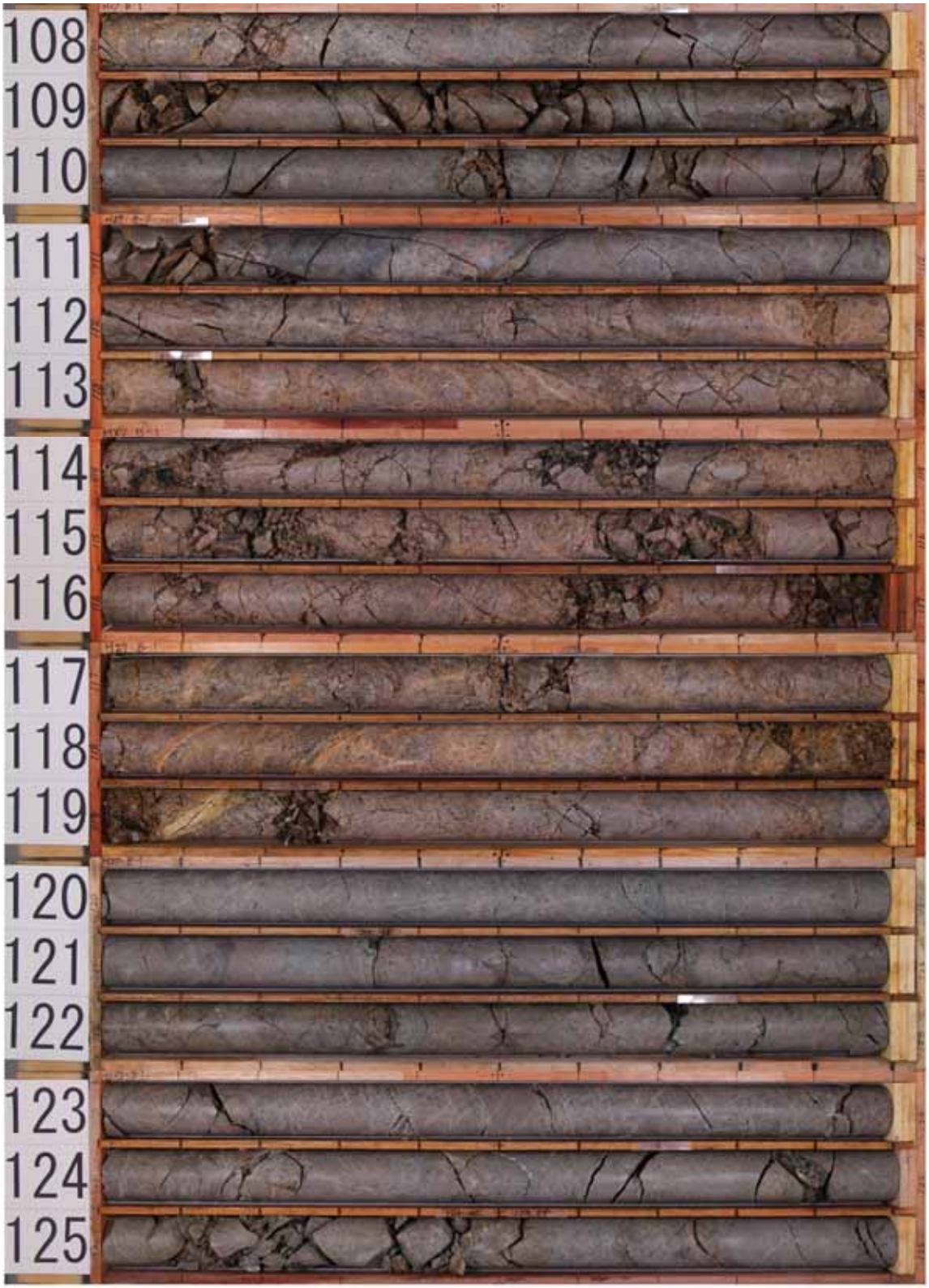


H27－B－1

コア写真(90.00m～108.00m)

H27－B－1

コア写真(108.00m～126.00m)



H27－B－1

コア写真(126.00m～140.00m)

H27－B－2

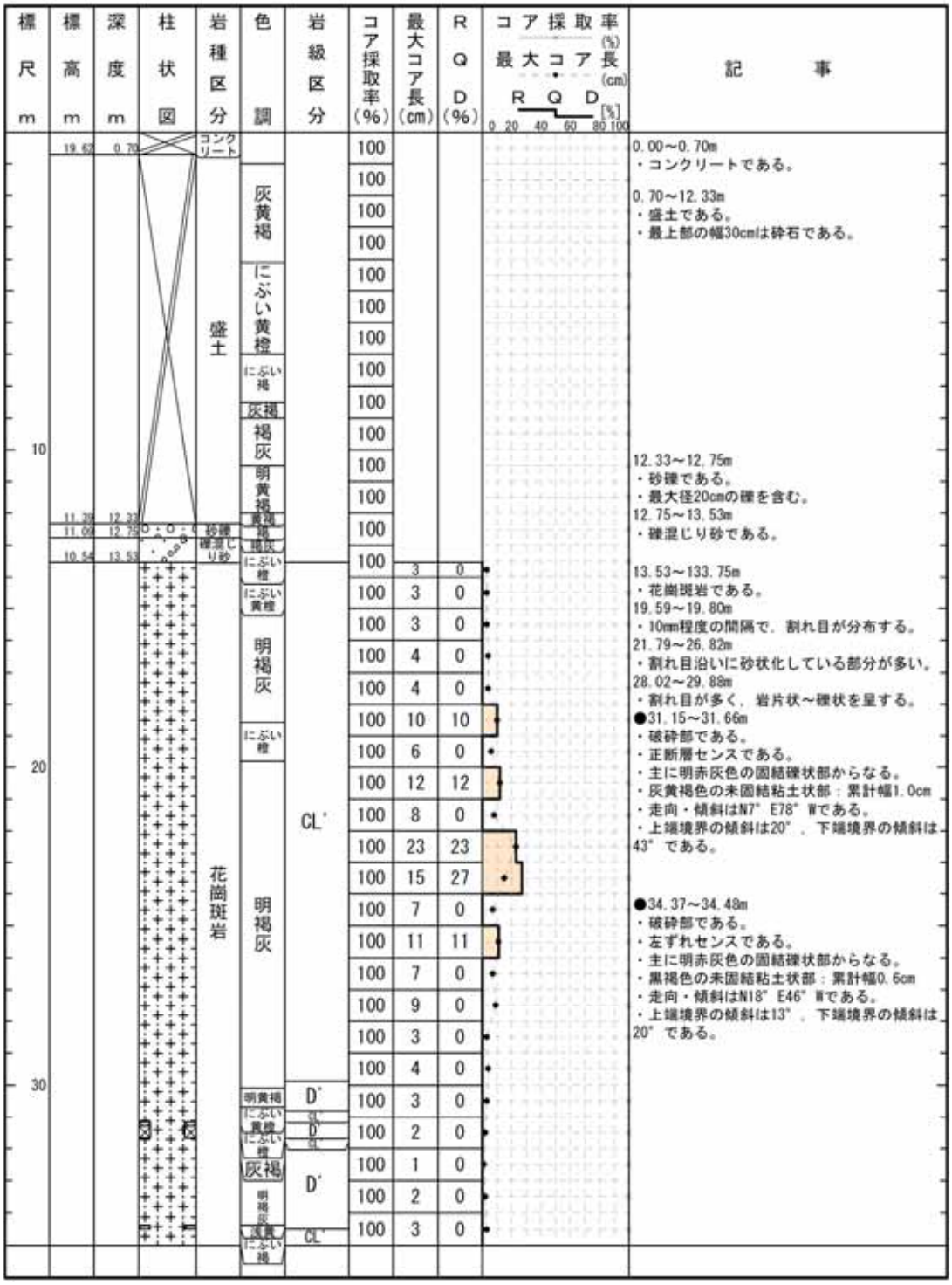
余白

H27－B－2

柱状図(0.00m～35.00m)

H27-B-2

孔口標高	T.P. 20.11m	掘削長	160.00m

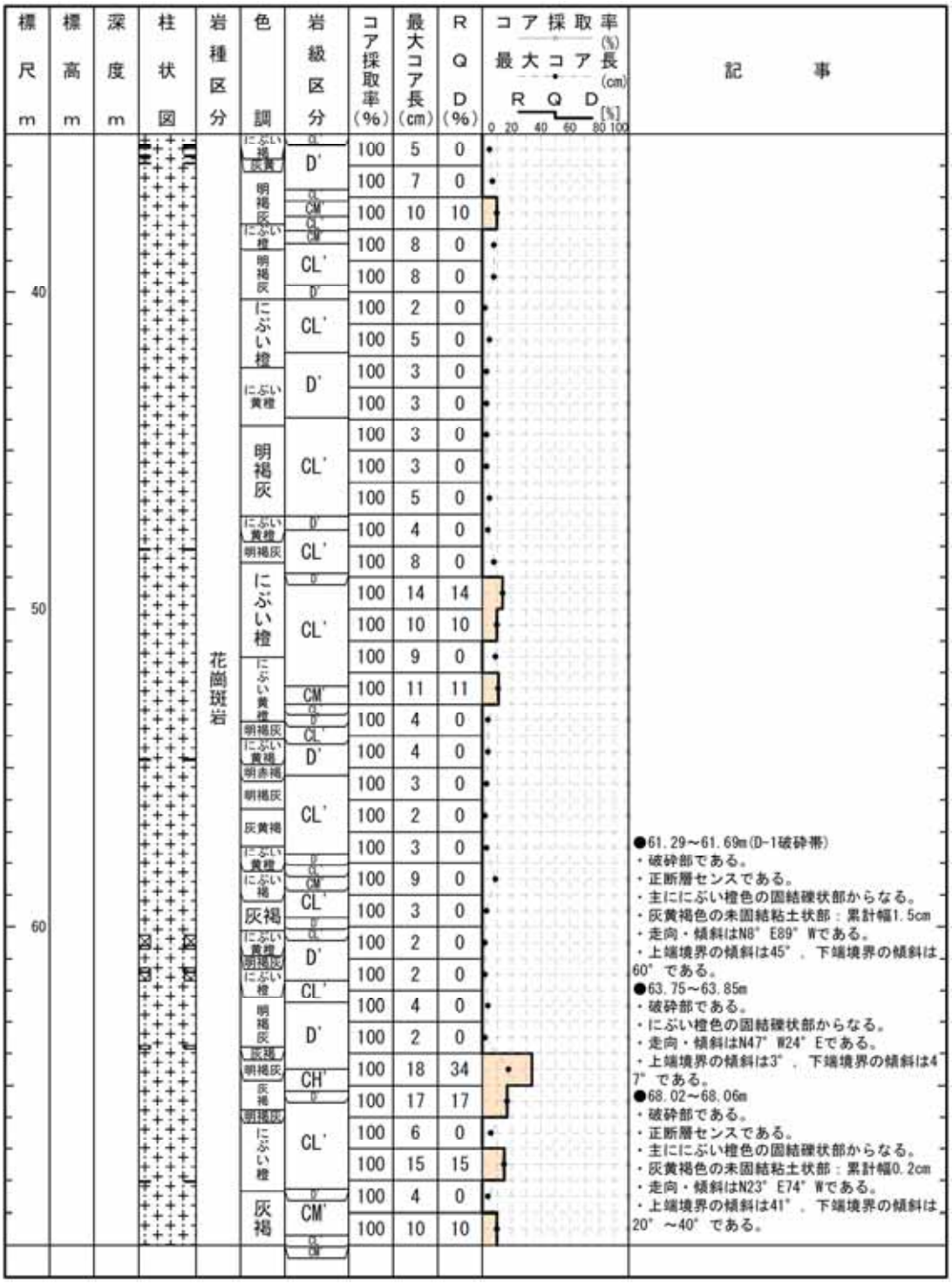


H27－B－2

柱状図(35.00m～70.00m)

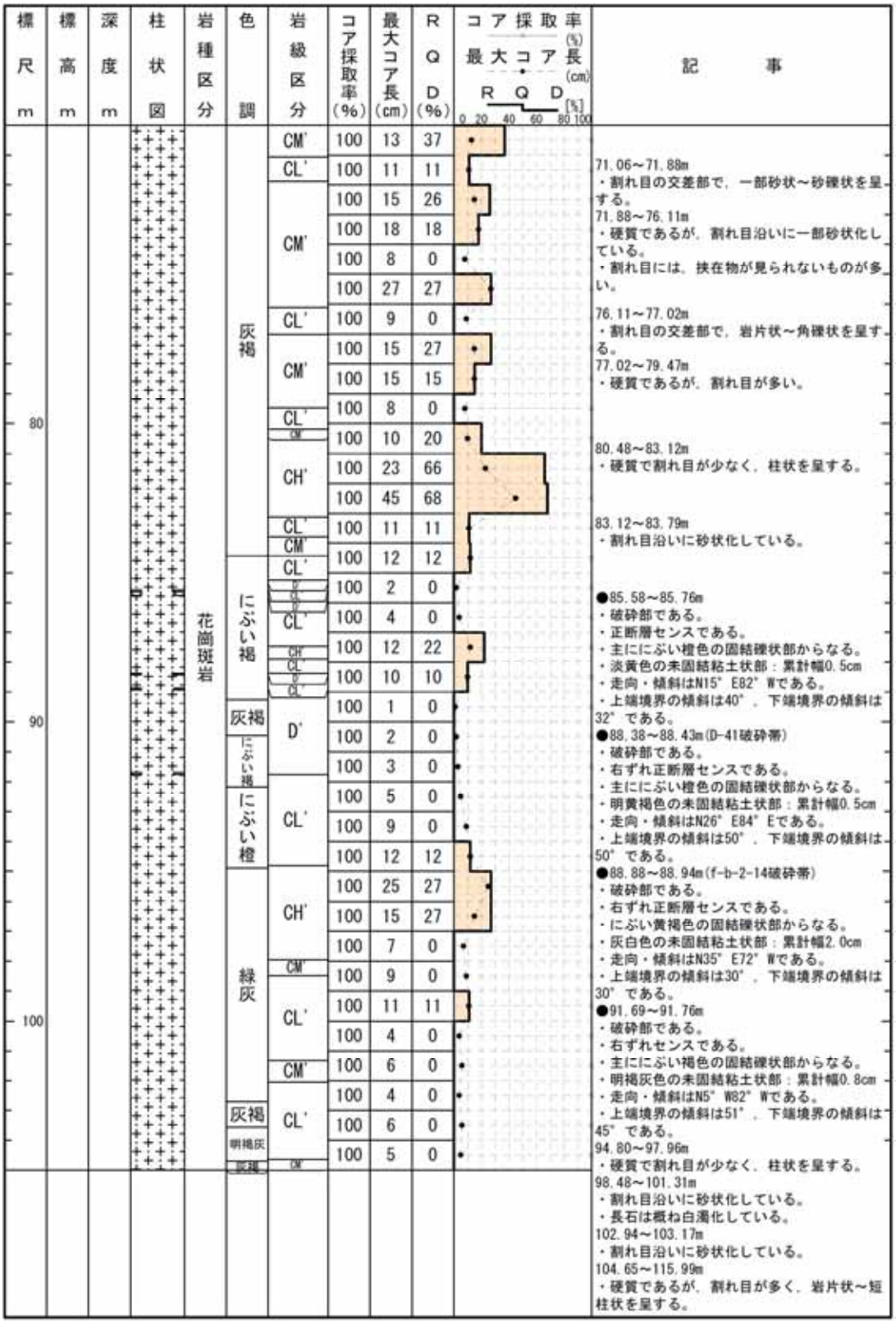
H27－B－2

柱状図(35.00m～70.00m)



H27－B－2

柱状図(70.00m～105.00m)



H27－B－2

柱状図(105.00m～140.00m)

H27－B－2

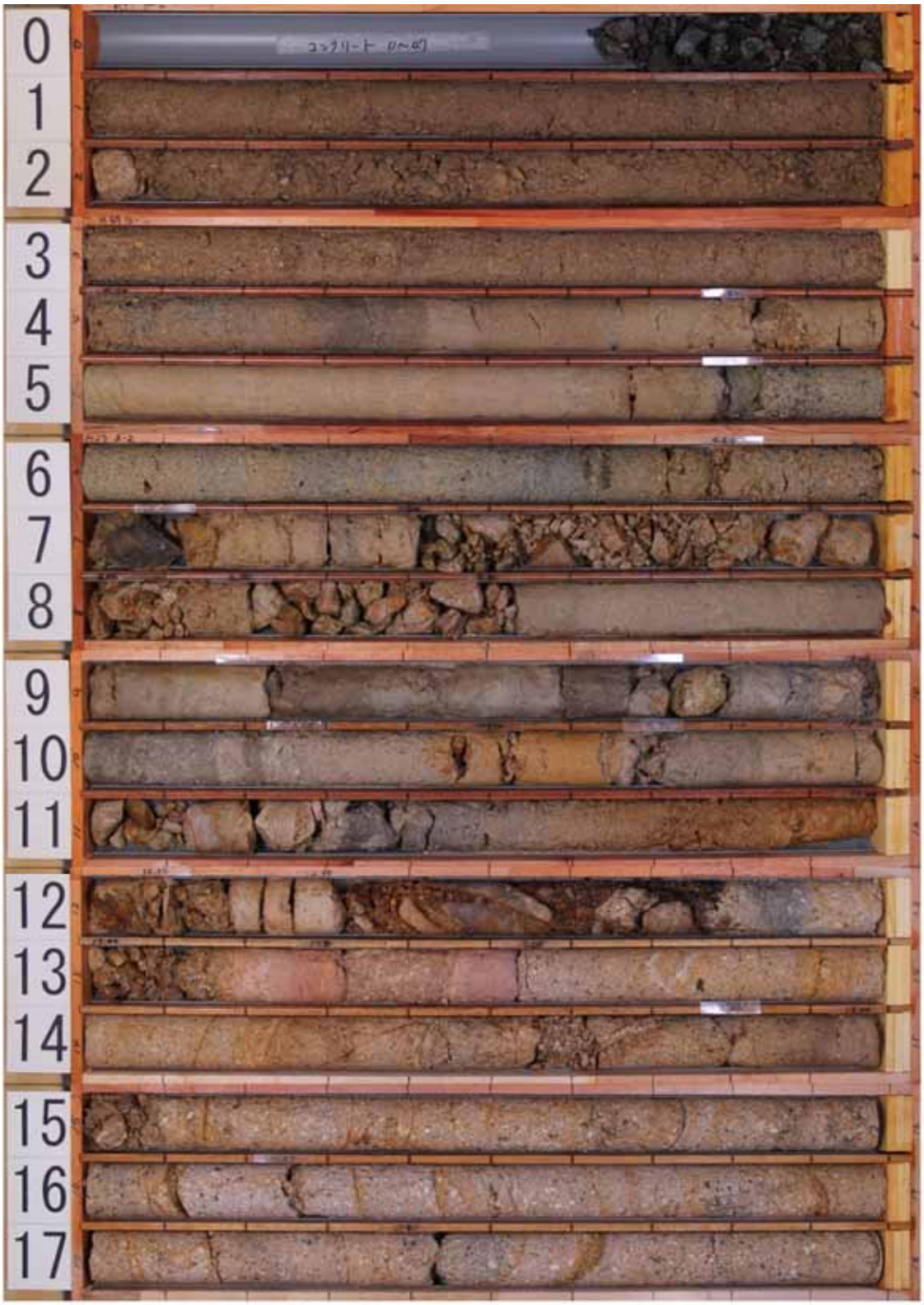
柱状図(140.00m～160.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD [%] 0 20 40 60 80 100	記事
				花崗斑岩	褐灰	CL'	100	5	0		
							100	5	0		
							100	4	0		141.96～142.23m ・割れ目が細かく交差し，細片化している。
							100	7	0		
							100	6	0		
							100	3	0		
					明褐灰	D'	100	2	0		145.65～148.26m ・砂礫状～礫質砂状を呈する。 ・一部灰白～暗緑灰色の粘土脈を挟む。
							100	4	0		
						CL'	100	6	0		
						0'	100	5	0		149.19～149.67m ・砂礫状を呈する。 ・灰白色粘土が点在する。
150					褐灰	CL'	100	4	0		
					明褐灰		100	5	0		
					褐灰		100	7	0		●152.10～152.15m(f-b-2-21破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に明褐灰色の固結礫状部からなる。 ・暗緑灰色の未固結粘土状部：累計幅0.1cm ・走向・傾斜はN28° E84° Eである。 ・上端境界の傾斜は45°，下端境界の傾斜は55° である。
						0'					
					明褐灰	CL'	100	4	0		
					暗緑灰	D'	100	5	0		
					明褐灰	CL'	100	5	0		
							100	2	0		●154.53～154.71m(f-b-2-22破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・主に灰褐色の固結礫状部からなる。 ・灰赤色の未固結粘土状部：累計幅0.5cm ・走向・傾斜はN42° E75° Eである。 ・上端境界の傾斜は63°，下端境界の傾斜は65° ～80° である。
					灰褐		100	4	0		
					緑灰		100	3	0		
							100	5	0		157.89～160.00m ・割れ目沿いの緑泥石化が著しい。

H27－B－2

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真(0.00m～18.00m)



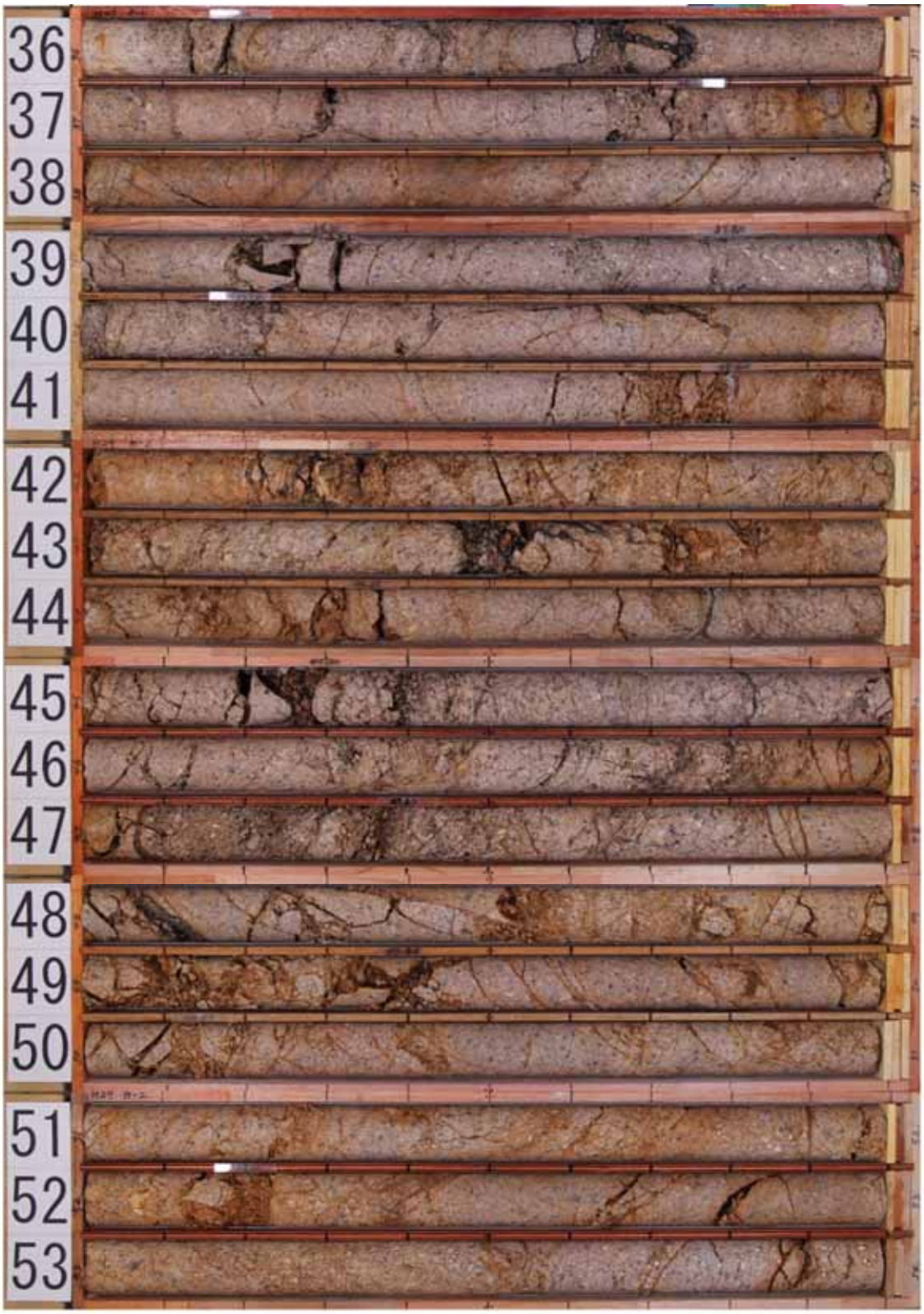
H27－B－2

コア写真(18.00m～36.00m)

H27－B－2

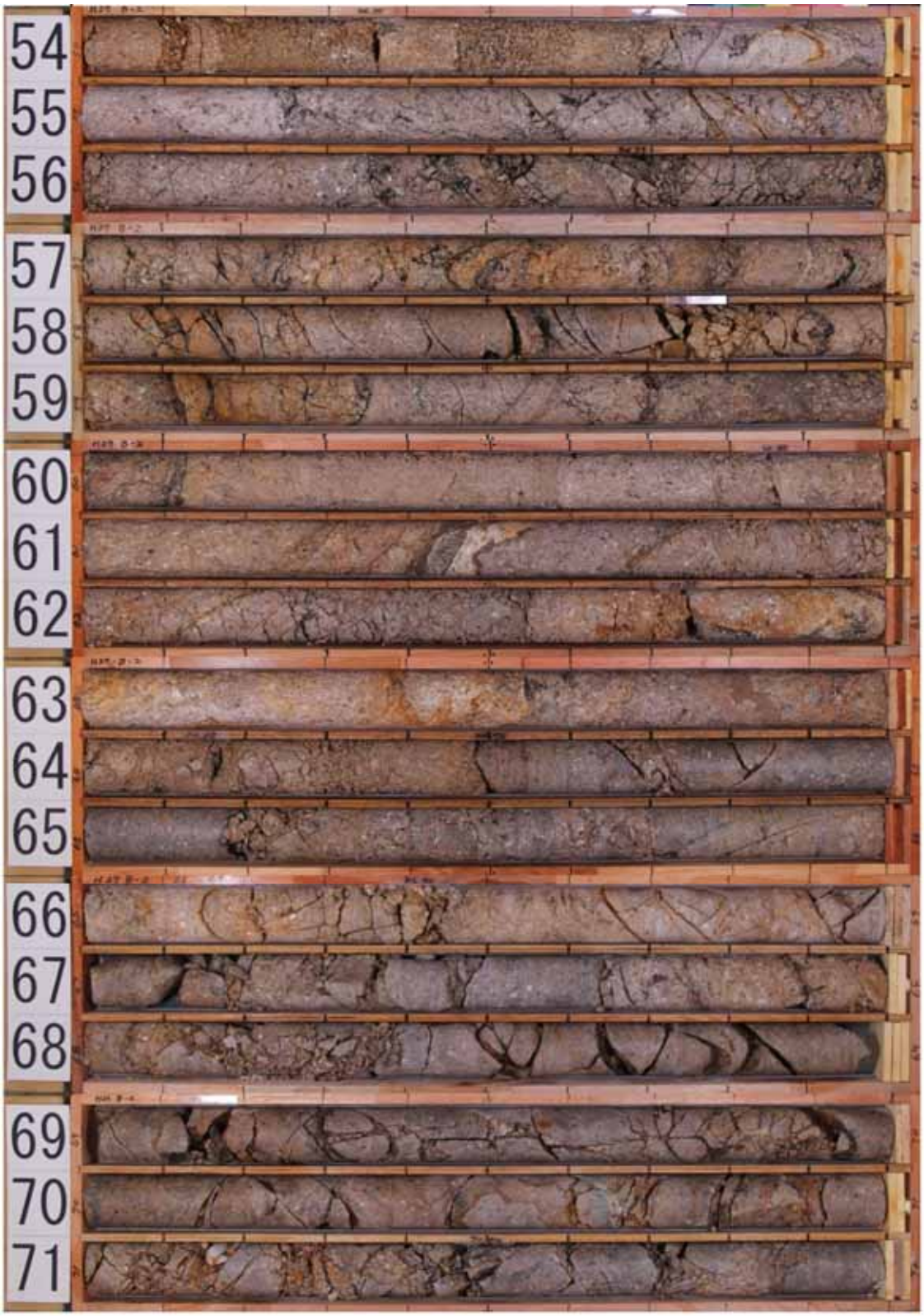
第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真(36.00m～54.00m)



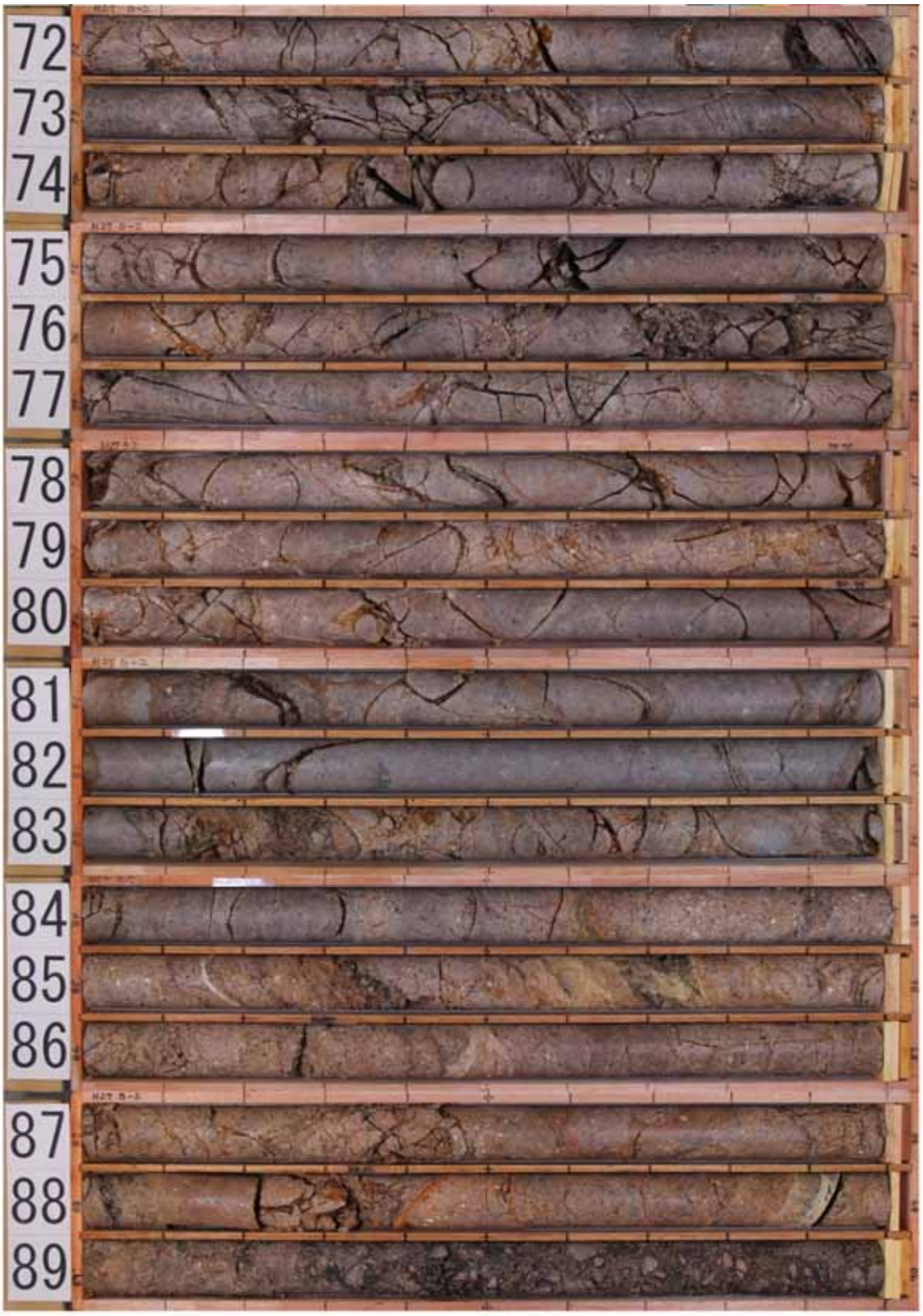
H27－B－2

コア写真(54.00m～72.00m)



H27－B－2

コア写真(72.00m～90.00m)



H27－B－2

コア写真(90.00m～108.00m)

H27－B－2

コア写真(108.00m～126.00m)

H27－B－2

コア写真(126.00m～144.00m)

H27－B－2

コア写真(144.00m～160.00m)

余白

H19－No.4

余白

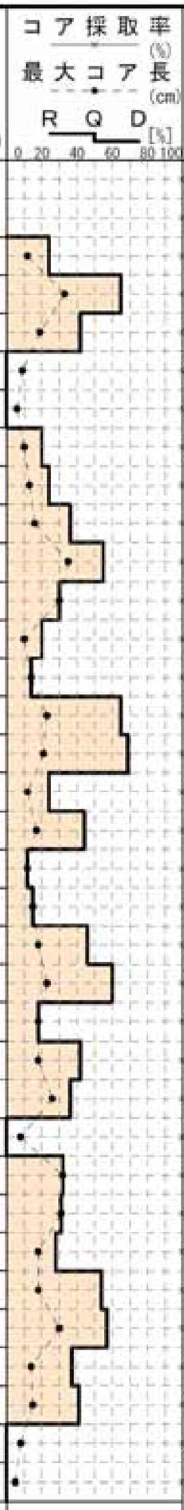
H19－No.4

柱状図(0.00m～35.00m)

H19-No. 4

孔口標高	T.P. 36.89m	掘削長	250.00m

コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)
100		
100		
100	12	24
100	33	65
100	19	42
100	9	0
100	6	0
100	10	20
100	13	24
100	16	36
100	35	55
100	30	30
100	10	20
100	14	14
100	23	65
100	21	69
100	12	24
100	17	44
100	12	12
100	15	15
100	18	46
100	23	60
100	18	18
100	18	42
100	26	36
100	8	0
100	32	32
100	31	31
100	18	28
100	18	54
100	30	57
100	14	37
100	15	41
100	8	0
100	5	0



記事

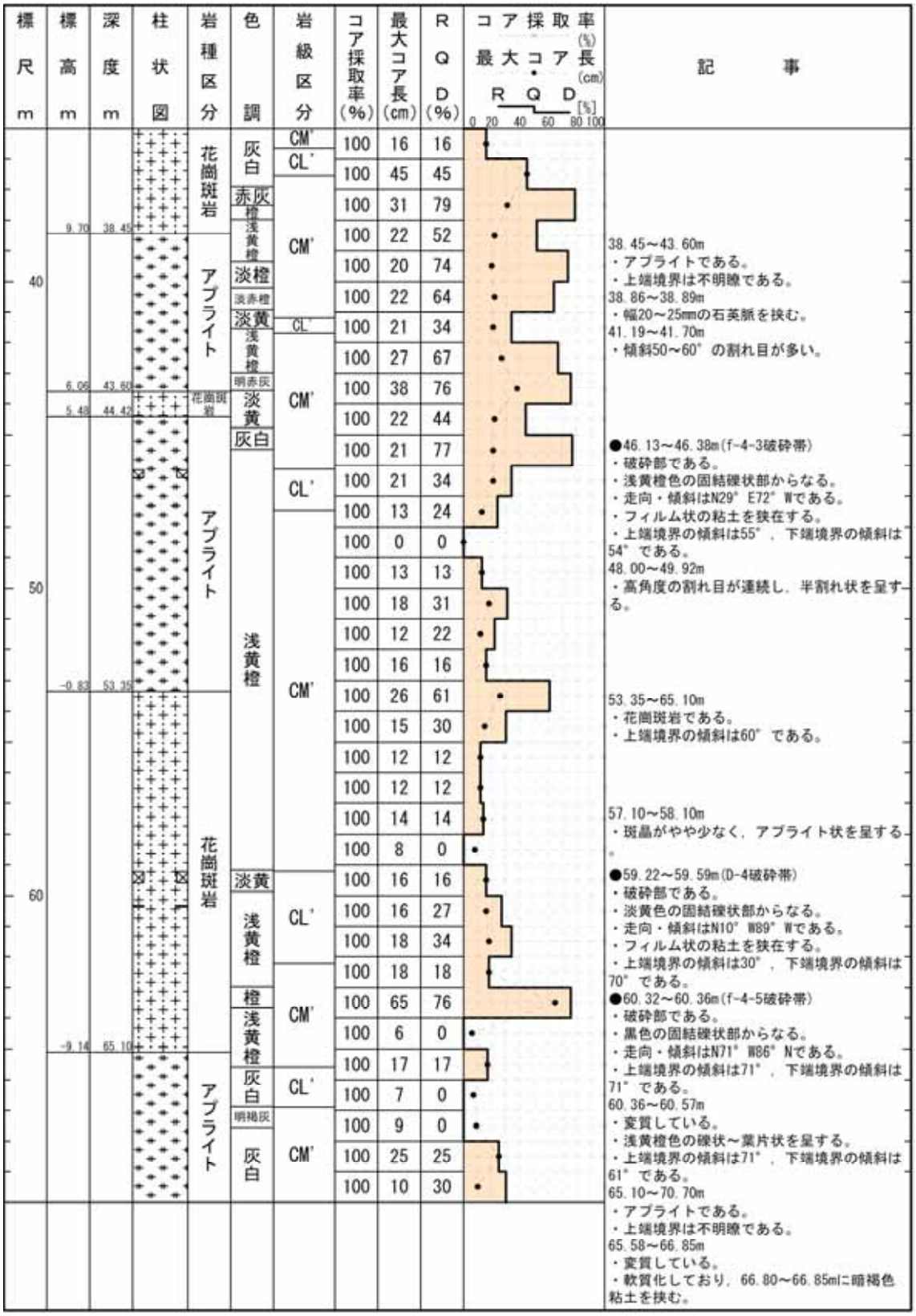
0.00～0.90m
・表土である。
0.90～1.49m
・礫混じり砂質シルトである。
・礫径は10～30mm程度である。
1.49～23.83m
・アプライトである。
・斑晶を比較的多く含み(0.5～1%程度)，やや花崗斑岩に近い。
2.86～3.40m
・高角度の割れ目沿いに粘土を挟む。
4.90～4.92m
・幅15mmの明褐色砂質シルト(流入粘土)を挟む。

●10.48～11.53m(D-3破砕帯)
・破砕部である。
・主に淡黄色の固結礫状部及び暗褐灰色の固結粘土状部からなる。
・暗橙灰色の未固結粘土状部：累計幅7.7cm
・走向・傾斜はN4° W70° Wである。
・上端境界の傾斜は40°，下端境界は不明瞭である。

●16.13～16.31m(f-2-10破砕帯)
・破砕部である。
・浅黄色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN35° E62° Wである。
・幅20mmの粘土を挟在する。
・下端境界の傾斜は72° である。
16.32～22.08m
・割れ目に沿って褐色化している。
20.00～20.20m
・ペグマタイトを挟む。
●22.20～22.26m(f-2-11破砕帯)
・破砕部である。
・淡橙色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN3° E79° Wである。
・フィルム状の粘土を挟在する。
23.83～30.00m
・花崗斑岩である。
・上端境界は不明瞭である。
●24.12～24.41m(f-12-4破砕帯)
・破砕部である。
・淡橙色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN7° W73° Wである。
25.00～26.42m
・密着した割れ目が多い。
・軟質化している。
28.25～28.80m
・割れ目が多く，岩片状を呈する。
28.80～34.24m
・割れ目に沿って褐色化し，一部に砂を挟む。
30.00～34.25m
・アプライトである。
・上端境界は不明瞭である。
●34.24～34.38m(f-2-12破砕帯)
・破砕部である。
・灰白色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN12° E73° Wである。
・下端境界の傾斜は56° である。
34.25～38.45m
・花崗斑岩である。
・上端境界の傾斜は68° である。

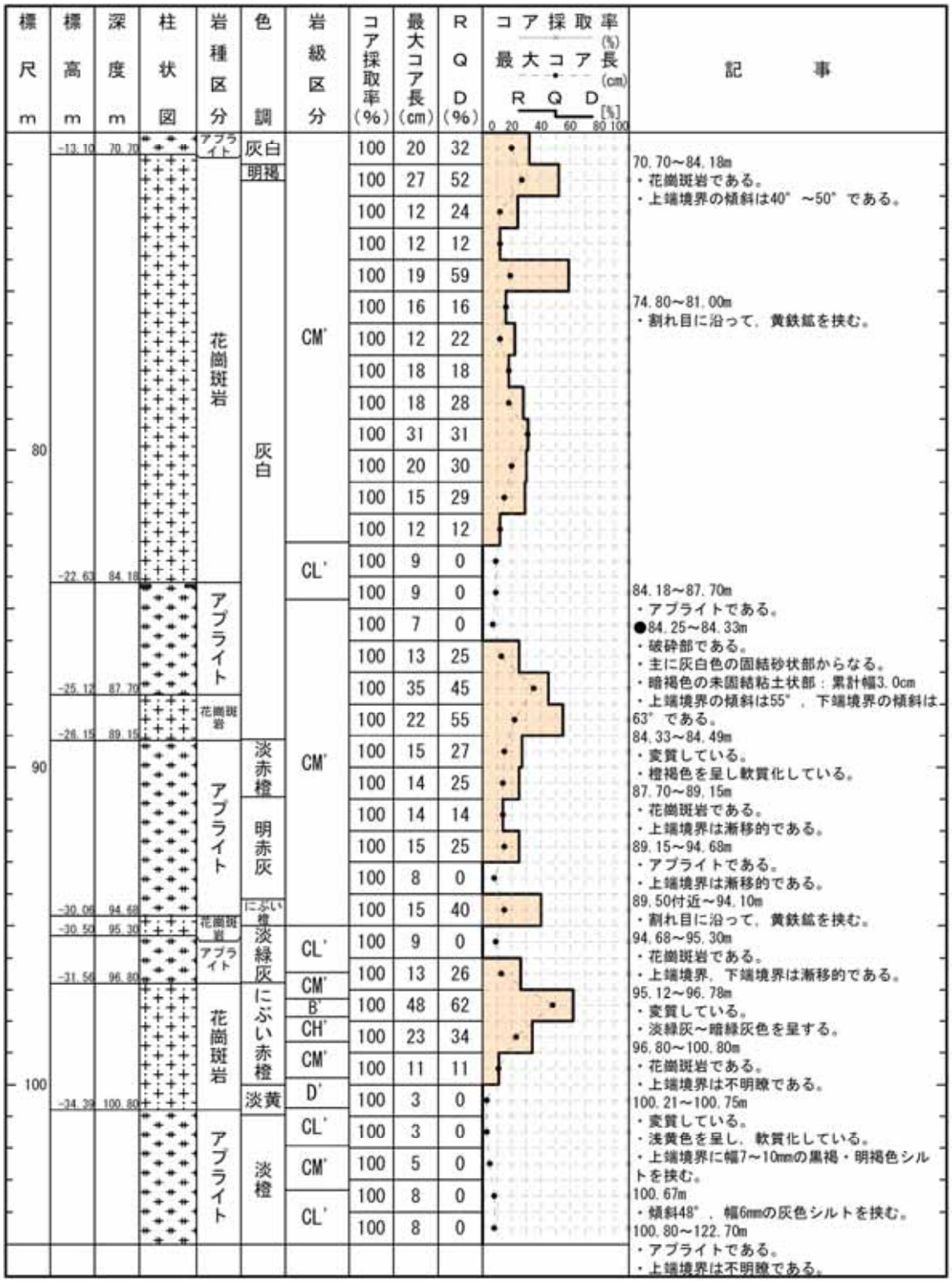
第536回審査会合
机上配付資料3 修正

柱状図(35.00m～70.00m)



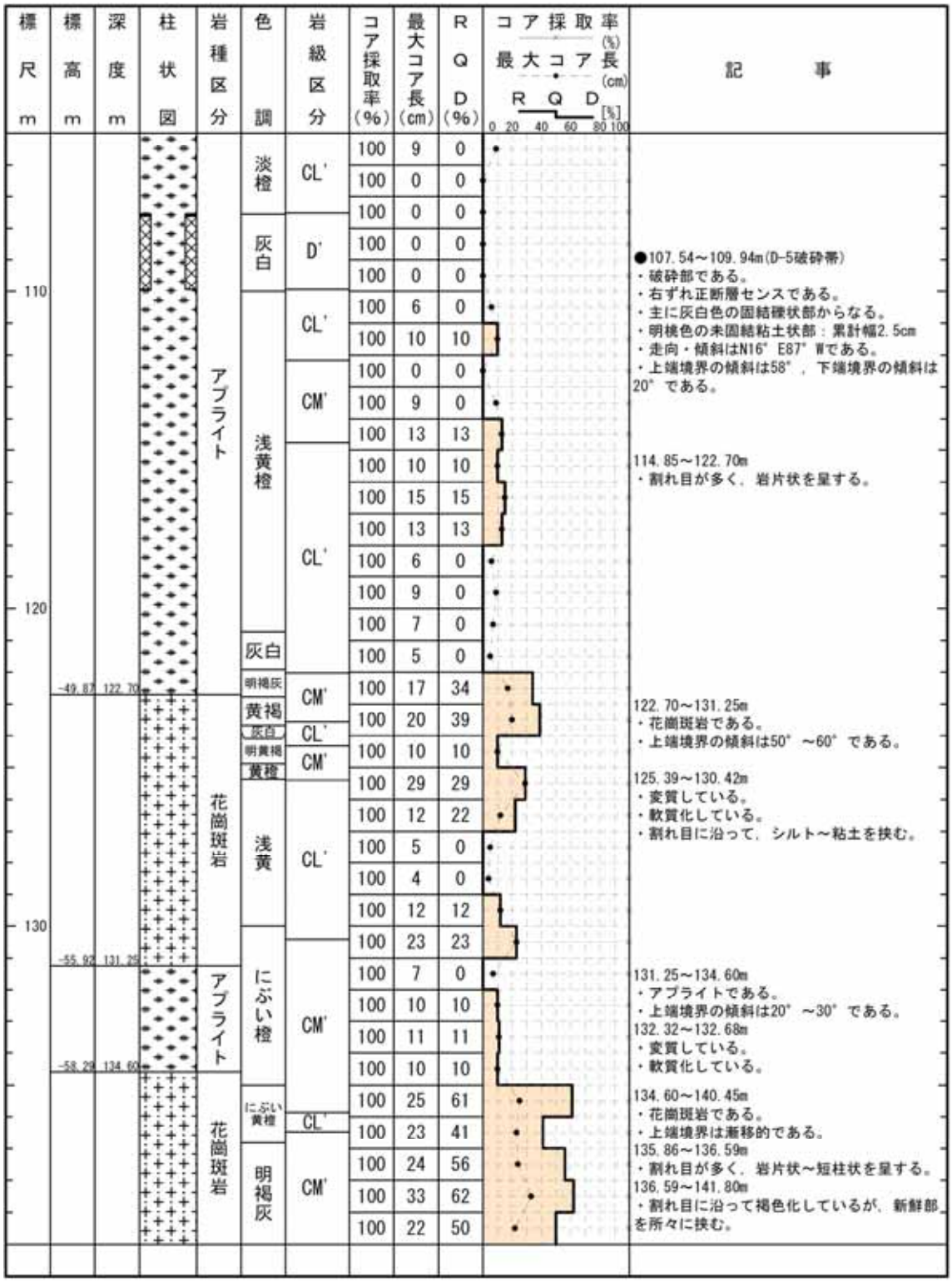
第536回審査会合
机上配付資料3 再掲

柱状図(70.00m～105.00m)



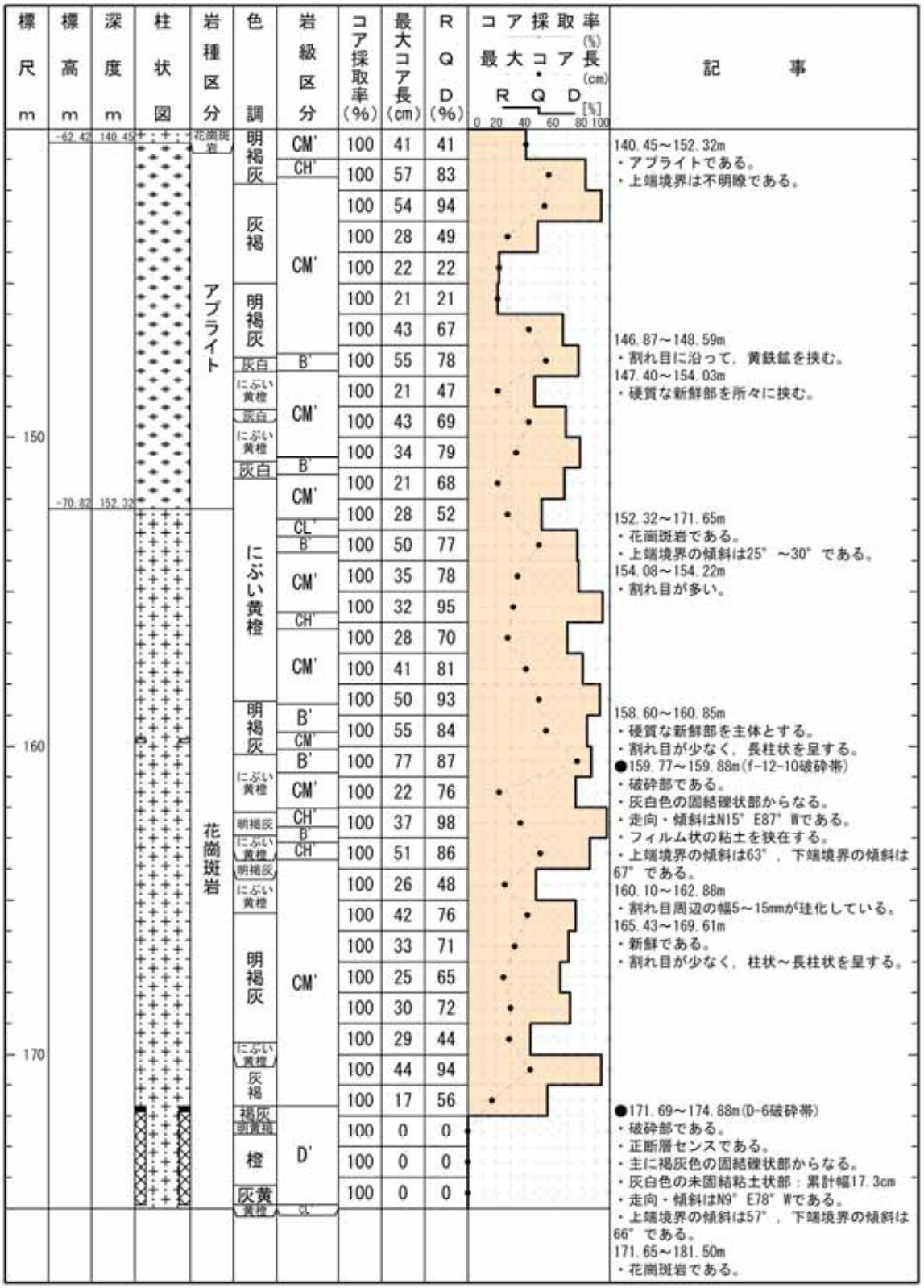
H19－No.4

柱状図(105.00m～140.00m)



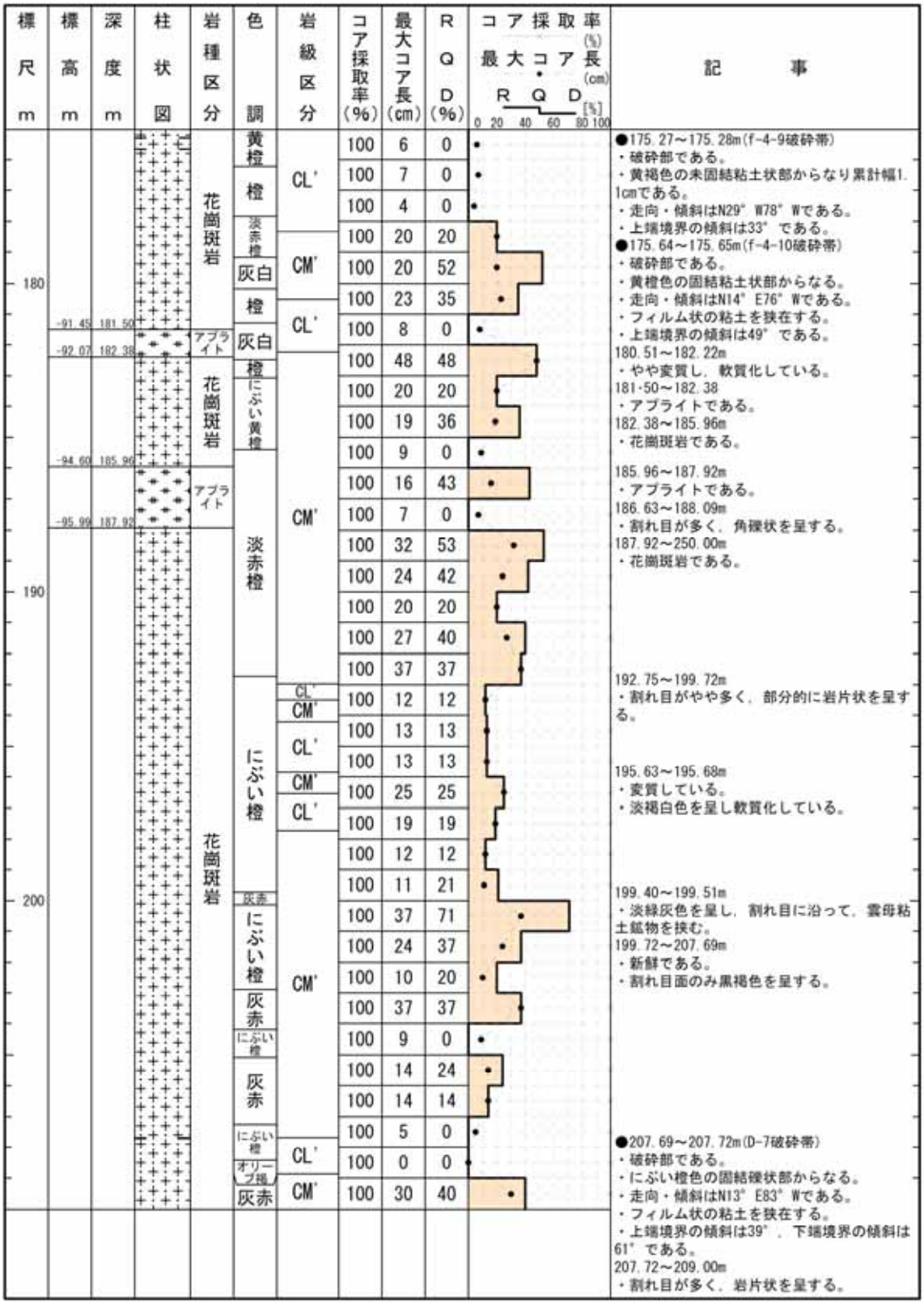
第536回審査会合
机上配付資料3 修正

柱状図(140.00m～175.00m)



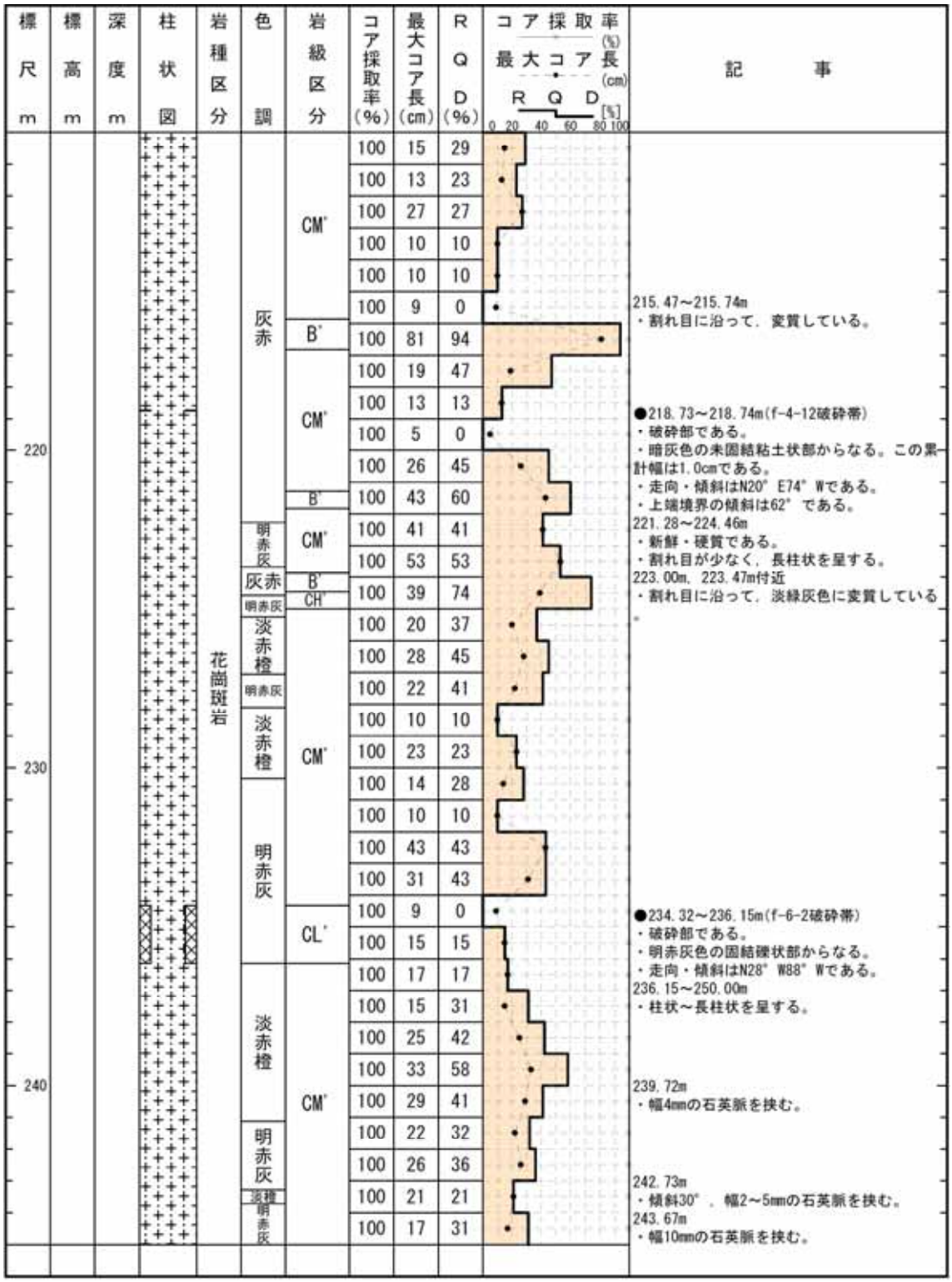
第536回審査会合
机上配付資料3 修正

柱状図(175.00m～210.00m)



H19－No.4

柱状図(210.00m～245.00m)



第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

柱状図(245.00m～250.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	コア採取率 (%) / 最大コア長 (cm) / RQD [%] (0 20 40 60 80 100)	記事
	-129.89	250.00		花崗斑岩	明赤灰	CM'	100	21	49		245.31m, 246.08m ・幅20～30mm程度の淡緑灰色変質脈を挟む。 ・黄鉄鉱を伴う。
					淡赤橙		100	29	29		
					明赤灰		100	13	26		
							100	76	76		
							100	30	44		

H19－No.4

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真 (0.00m～15.00m)

H19－No.4

コア写真（15.00m～30.00m）

H19－No.4

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真 (30.00m～45.00m)

H19－No.4

コア写真 (45.00m～60.00m)

H19－No.4

コア写真 (60.00m～75.00m)

H19－No.4

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真 (75.00m～90.00m)

H19－No.4

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真 (90.00m～105.00m)

H19－No.4

コア写真（105.00m～120.00m）

H19－No.4

コア写真（120.00m～135.00m）

H19－No.4

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真（135.00m～150.00m）

H19－No.4

コア写真（150.00m～165.00m）

H19－No.4

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真（165.00m～180.00m）

H19－No.4

コア写真（180.00m～195.00m）

H19－No.4

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真（195.00m～210.00m）

H19－No.4

コア写真 (210.00m～225.00m)

H19－No.4

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真 (225.00m～240.00m)

H19－No.4

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真 (240.00m～250.00m)

余白

H19－No.12

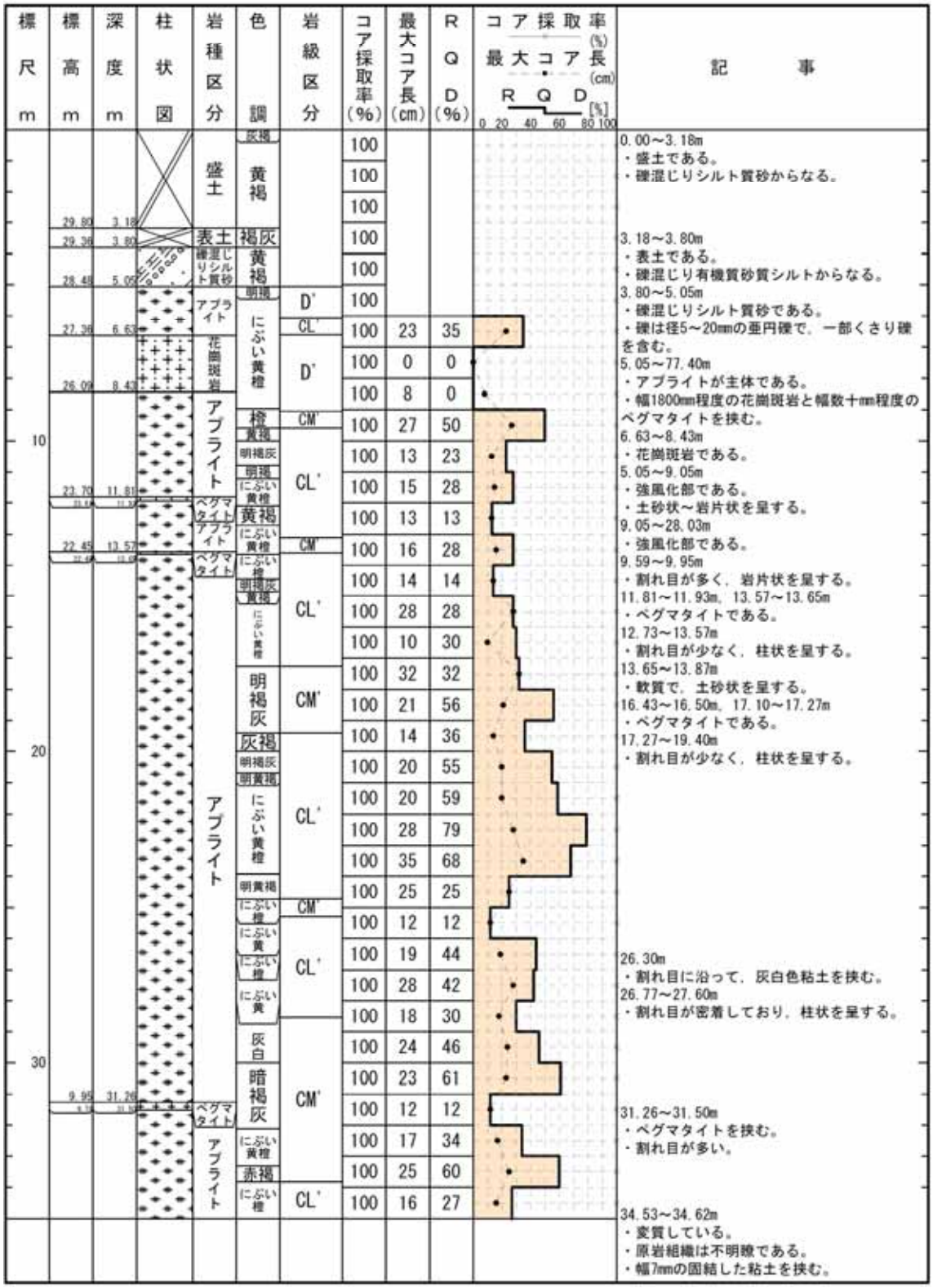
余白

H19－No.12

柱状図(00.00m～35.00m)

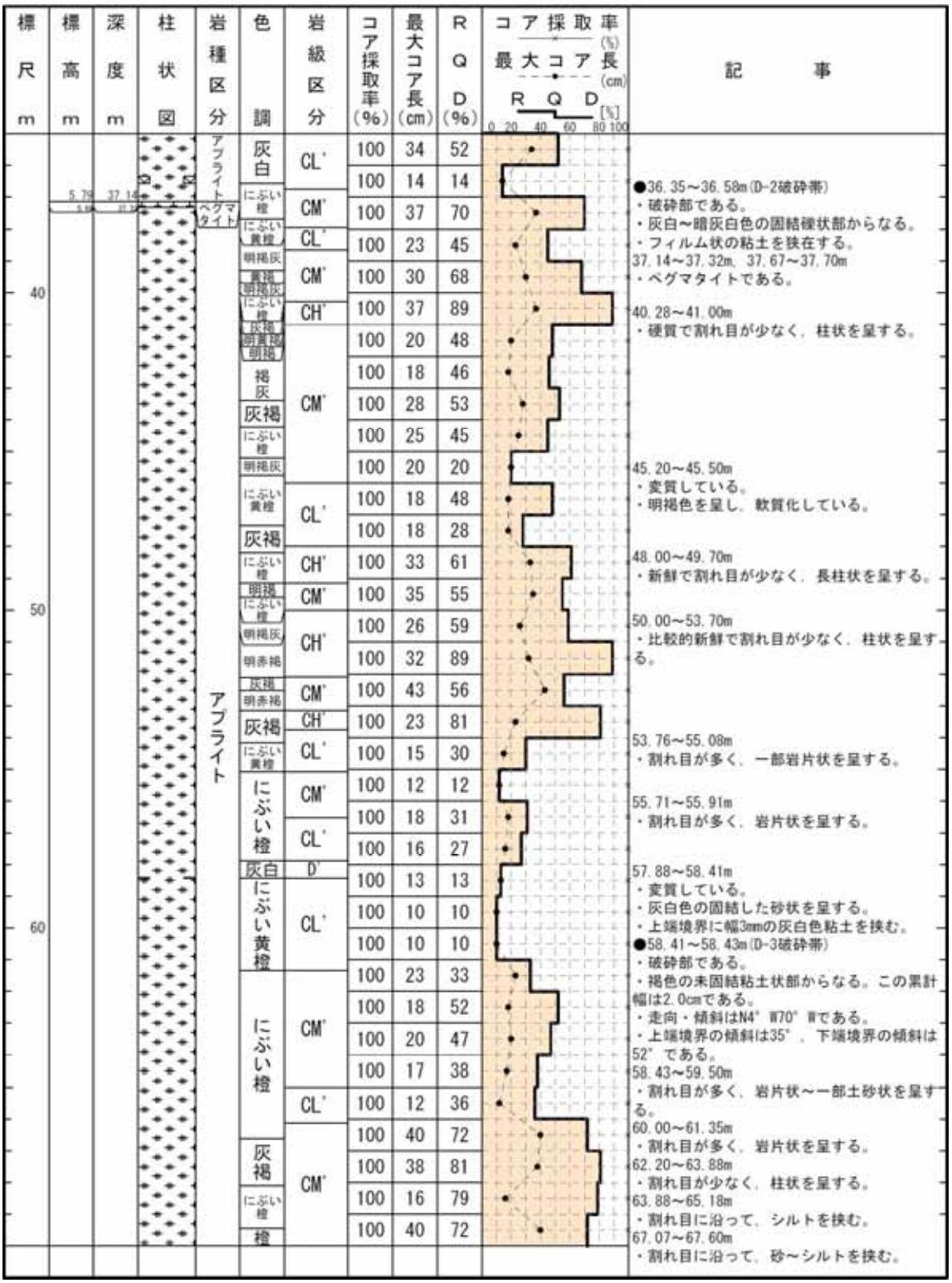
H19-No.12

孔口標高	T.P. 32.05m	掘削長	250.00m



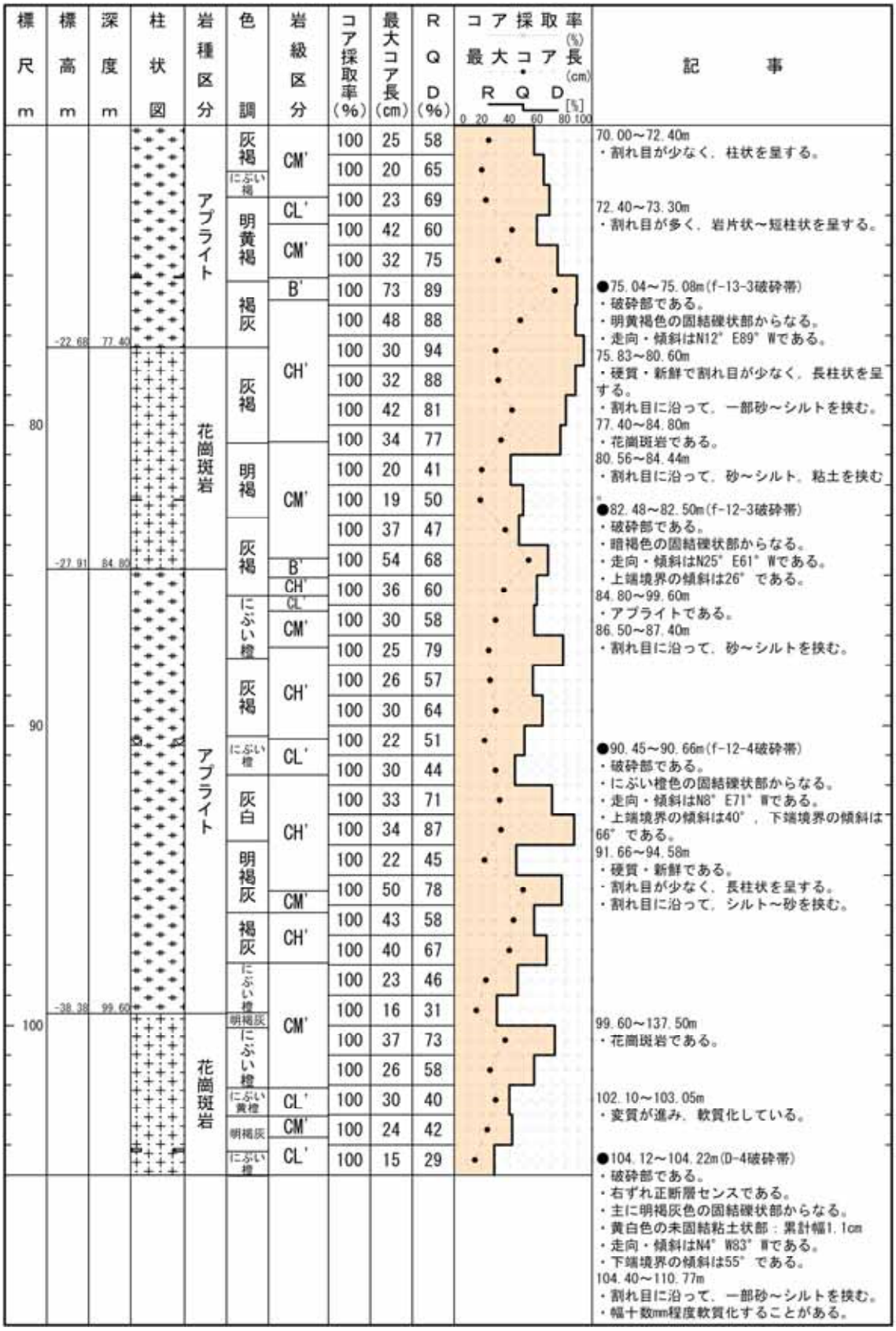
第536回審査会合
机上配付資料3 修正

柱状図(35.00m～70.00m)



第536回審査会合
机上配付資料3 修正

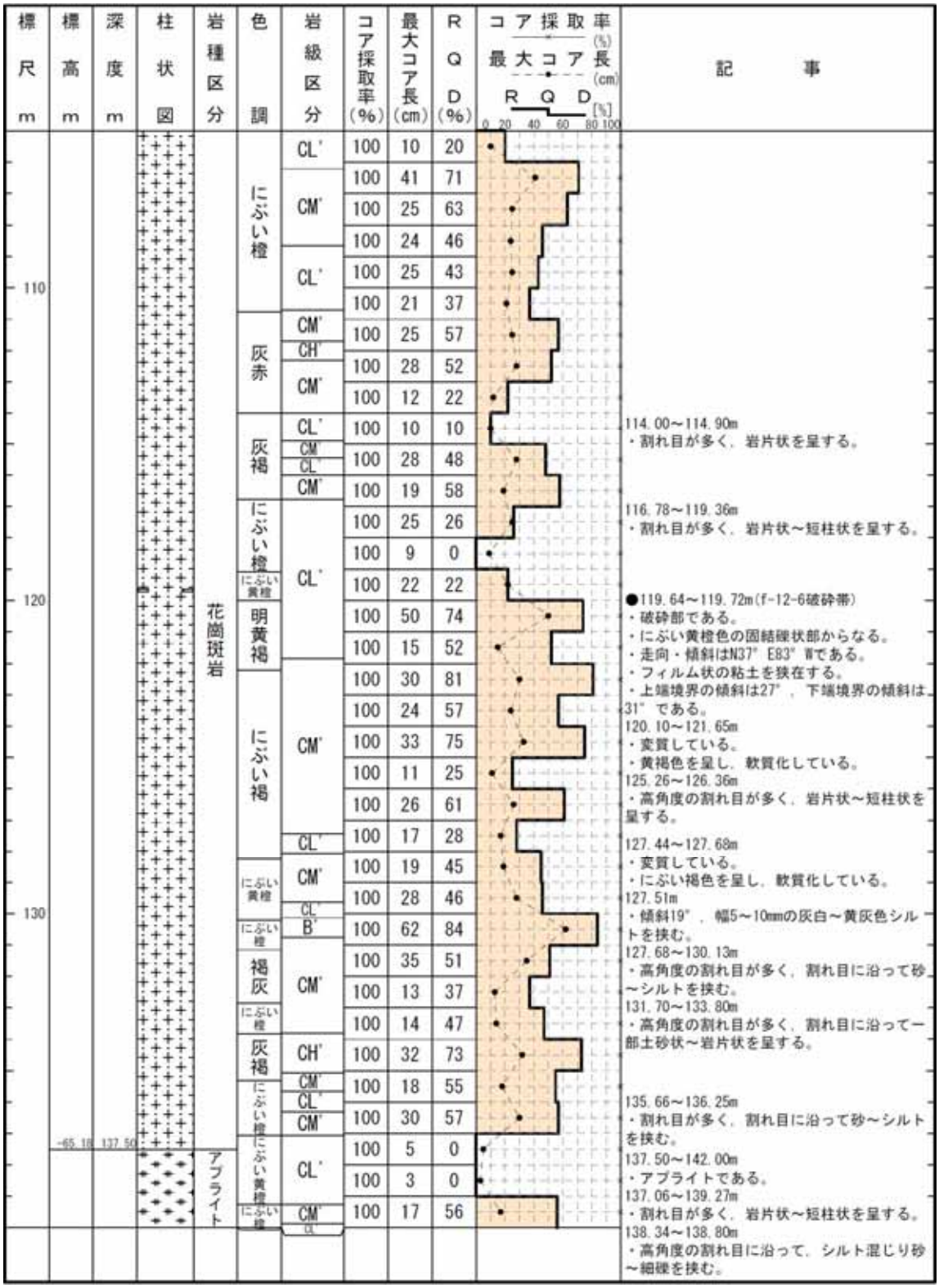
柱状図(70.00m～105.00m)



H19－No.12

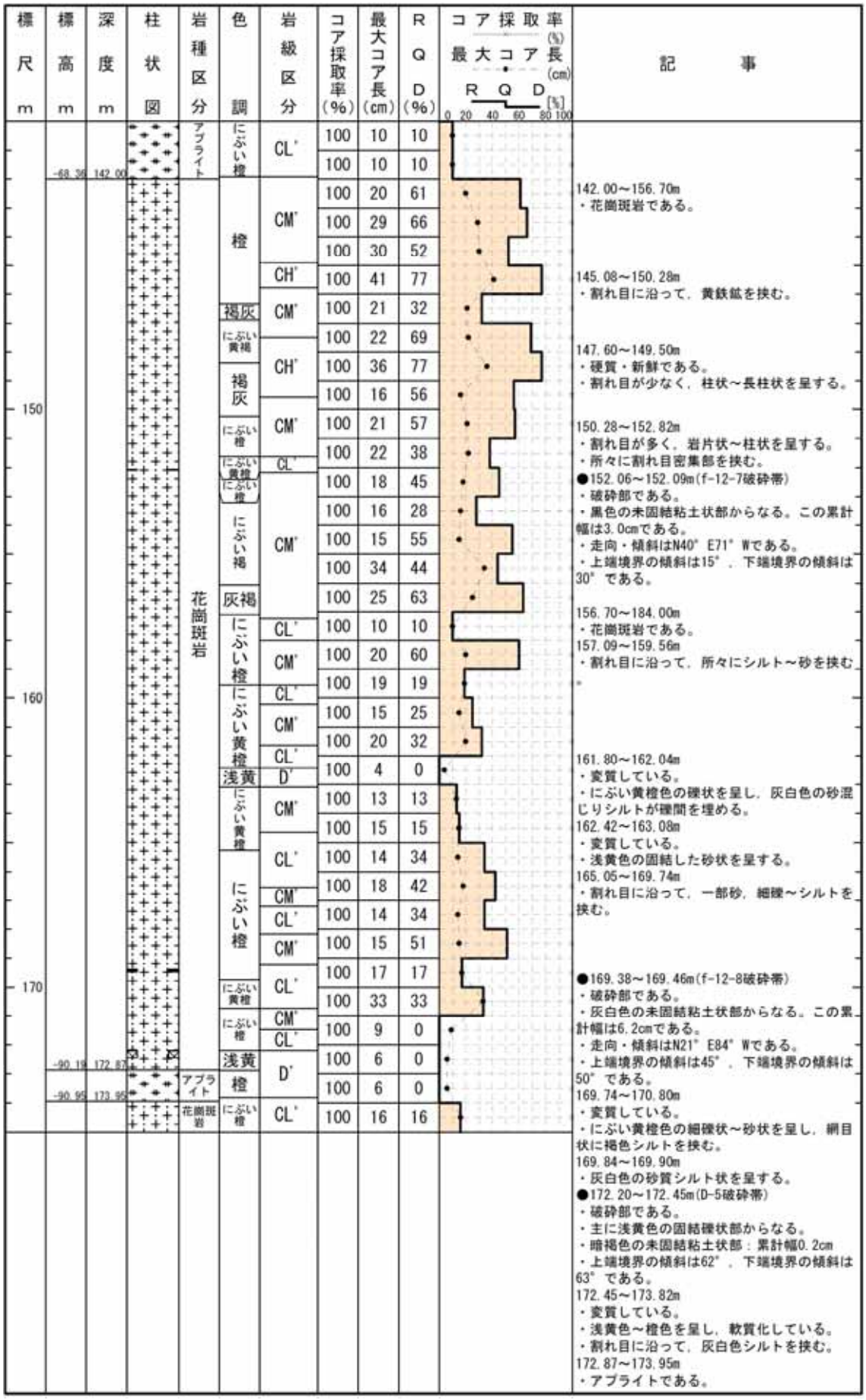
第536回審査会合
机上配付資料3　修正

柱状図(105.00m～140.00m)



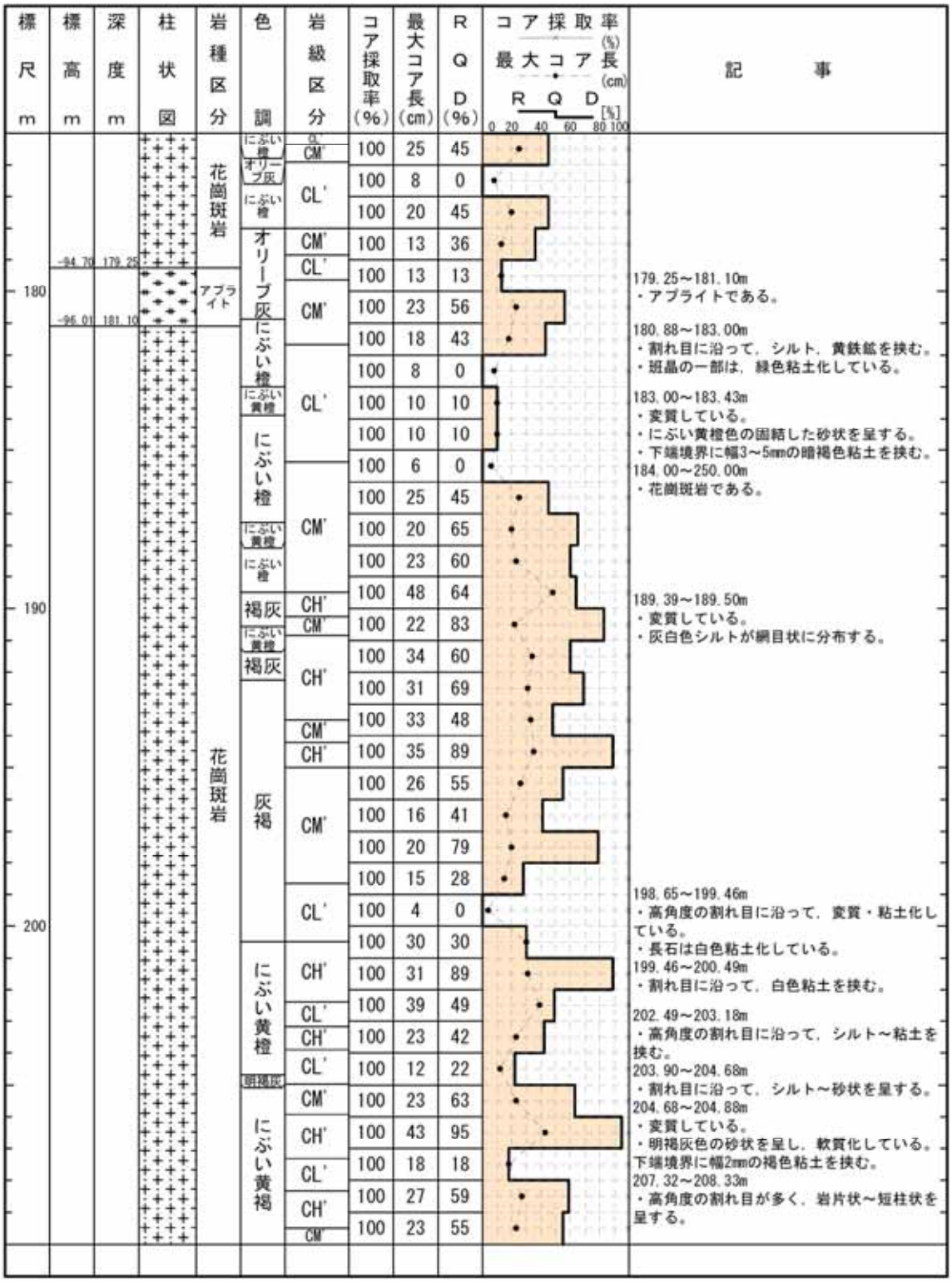
第536回審査会合
机上配付資料3 再掲

柱状図(140.00m～175.00m)



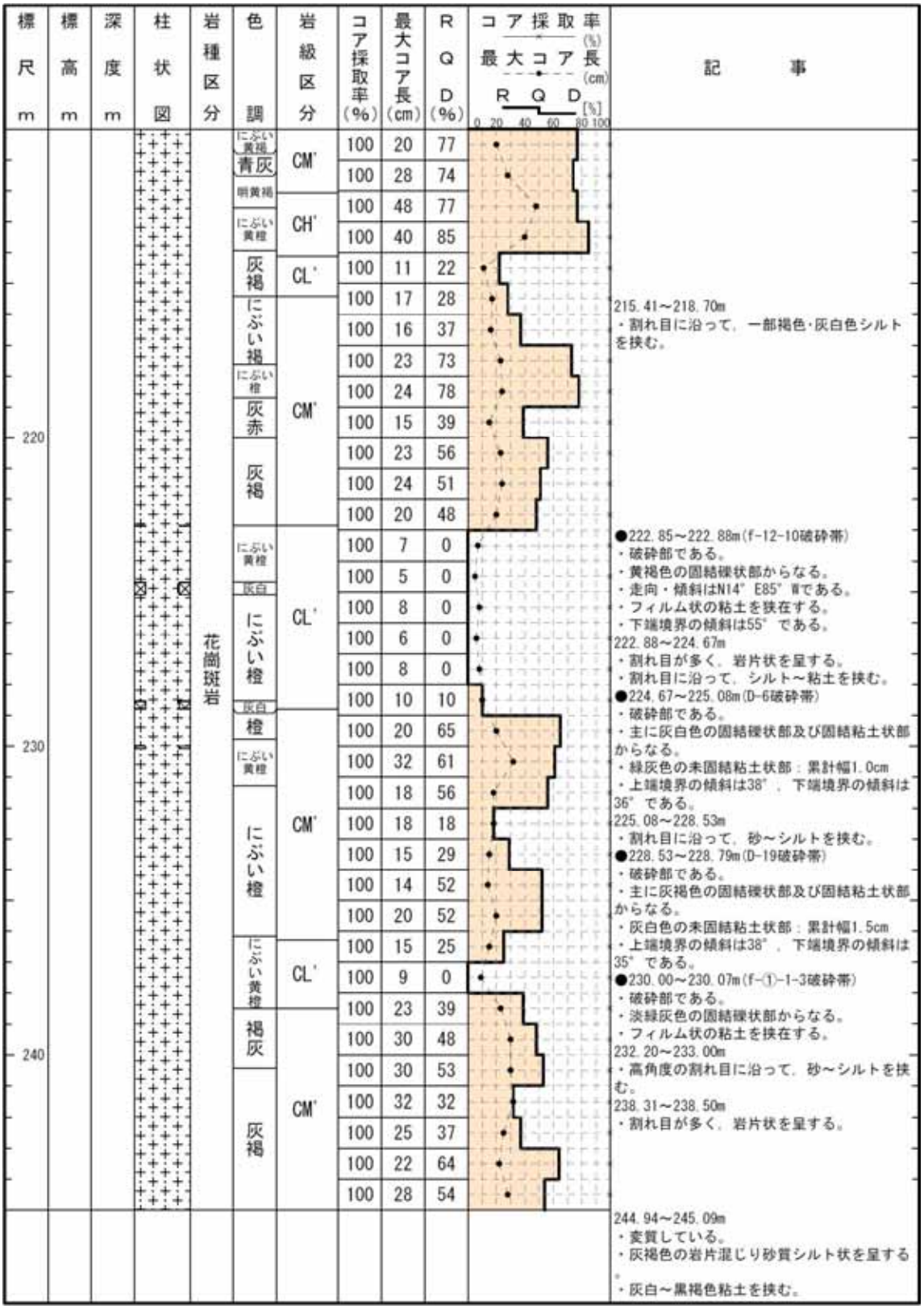
H19－No.12

柱状図(175.00m～210.00m)



第536回審査会合
机上配付資料3 修正

柱状図(210.00m～245.00m)



第536回審査会合
机上配付資料3　修正

柱状図(245.00m～250.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	コア採取率(%) / 最大コア長(cm) / RQD (%)	記事
				花崗斑岩	灰褐	CM'	100	24	45		●247.57～247.64m(D-7破砕帯) ・破砕部である。 ・灰褐色の固結礫状部からなる。 ・フィルム状の粘土を狭在する。 ・上端境界の傾斜は41°，下端境界の傾斜は47°である。
							100	15	68		
						CL'	100	13	35		
					にぶい黄橙		100	17	32		
	-144.73	250.00			灰褐	CM'	100	30	77		

H19－No.12

コア写真(0.00m～15.00m)

H19－No.12

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真(15.00m～30.00m)

H19－No.12

コア写真(30.00m～45.00m)

H19－No.12

コア写真(45.00m～60.00m)

H19－No.12

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真(60.00m～75.00m)

H19－No.12

コア写真(75.00m～90.00m)

H19－No.12

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真(90.00m～105.00m)

H19－No.12

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真(105.00m～120.00m)

H19－No.12

コア写真(120.00m～135.00m)

H19－No.12

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真(135.00m～150.00m)

H19－No.12

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真(150.00m～165.00m)

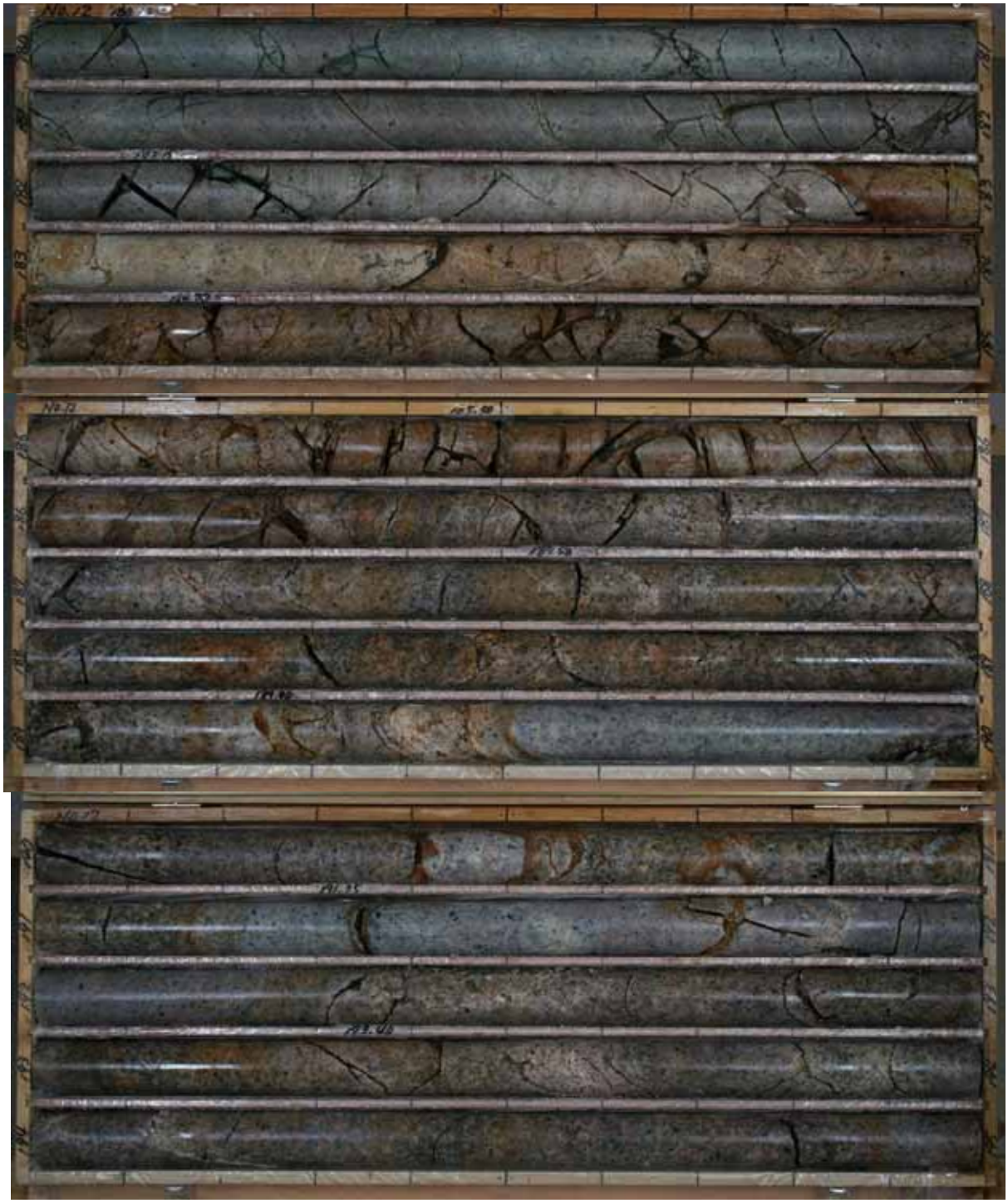
H19－No.12

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真(165.00m～180.00m)

H19－No.12

コア写真(180.00m～195.00m)



H19－No.12

コア写真(195.00m～210.00m)

H19－No.12

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真(210.00m～225.00m)

H19－No.12

コア写真(225.00m～240.00m)

H19－No.12

コア写真(240.00m～250.00m)

余白

H24－B11－2

余白

H24－B11－2

柱状図(0.00m～30.00m)

H24-B11-2	孔口標高	T.P. 3.14m	掘削長	150.00m

H24－B11－2

柱状図(30.00m～60.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	記事
				アブライト	淡褐明褐	CL'	100	15	15	
					明褐灰		100	11	11	
						CM'	100	29	54	
						D'	100	14	24	
					灰白		100	4	0	34.05～34.73m ・風化部である。
					にぶい黄橙	CL'	100	6	0	
					にぶい黄褐	D'	100	1	0	
					明褐灰		100	6	0	
						CM'	100	6	0	
							100	20	47	
40						CL'	100	12	22	39.94～42.09m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
							100	5	0	
						CM'	100	12	24	
							100	13	23	
						CL'	100	10	10	
							100	5	0	
							100	8	0	
							100	6	0	
							100	10	10	
					にぶい橙		100	8	0	
50					明褐灰		100	11	22	
							100	5	0	
							100	12	22	
							100	6	0	
							100	8	0	
							100	8	0	
							100	13	13	
							100	9	0	
							100	13	13	
					灰白		100	10	10	

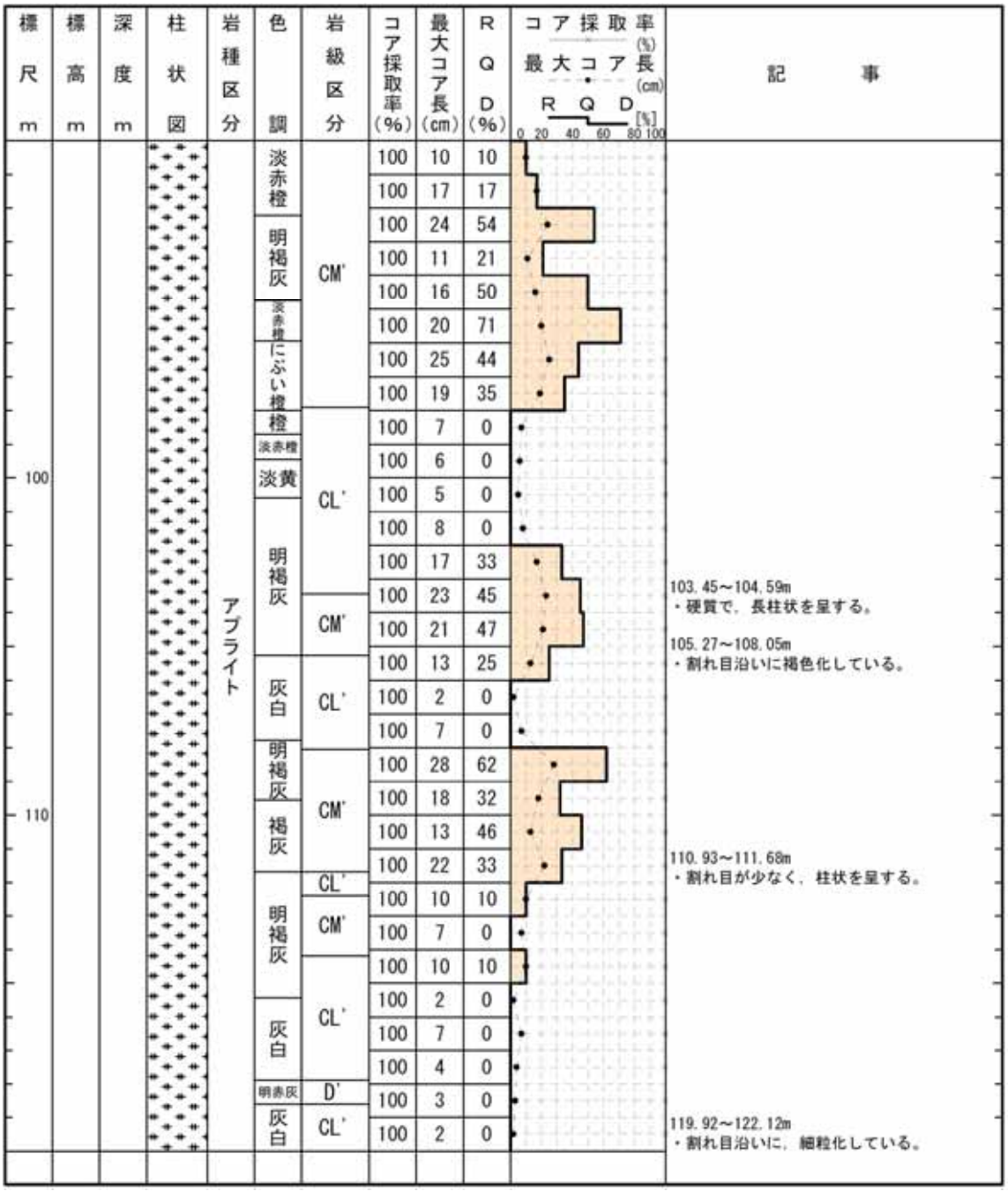
H24－B11－2

柱状図(60.00m～90.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%)・最大コア長(cm)・RQD(%)	記事
				アブライト	灰白	CL'	100	9	0		
							100	12	22		
						CM'	100	24	34		
					明褐灰	CL'	100	9	0		
							100	4	0		
							100	5	0		
							100	9	0		
							100	13	25		66.79～67.09m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
							100	5	0		
					明赤灰	CM'	100	9	0		
70					灰黄		100	11	11		70.94～71.21m ・変質により，浅黄色に変色している。
					にぶい黄橙	CL'	100	3	0		●71.21～71.24m(D-7破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・淡黄色の固結粘土状部からなる。 ・走向・傾斜はN12°E76°Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は65°，下端境界の傾斜は70°である。
					明黄褐		100	4	0		
							100	7	0		
					灰白		100	5	0		
							100	3	0		
							100	2	0		●77.48～78.10m(f-b11-2-2破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・主に明赤灰色の固結礫状部からなる。 ・褐色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm ・走向・傾斜はNS79°Wである。 ・上端境界の傾斜は75°，下端境界の傾斜は70°である。
					明赤灰	D'	100	8	0		
						CL'	100	6	0		
							100	9	0		
80							100	2	0		
					淡黄	D'	100	2	0		●80.50～83.93m(D-6破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に淡黄色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅0.7cm ・走向・傾斜はN9°E80°Wである。 ・下端境界の傾斜は70°である。
					灰白		100	2	0		
							100	2	0		
					にぶい橙	CL'	100	12	12		
					淡赤橙		100	8	0		
							100	4	0		
							100	7	0		
						CM'	100	18	28		
							100	6	0		

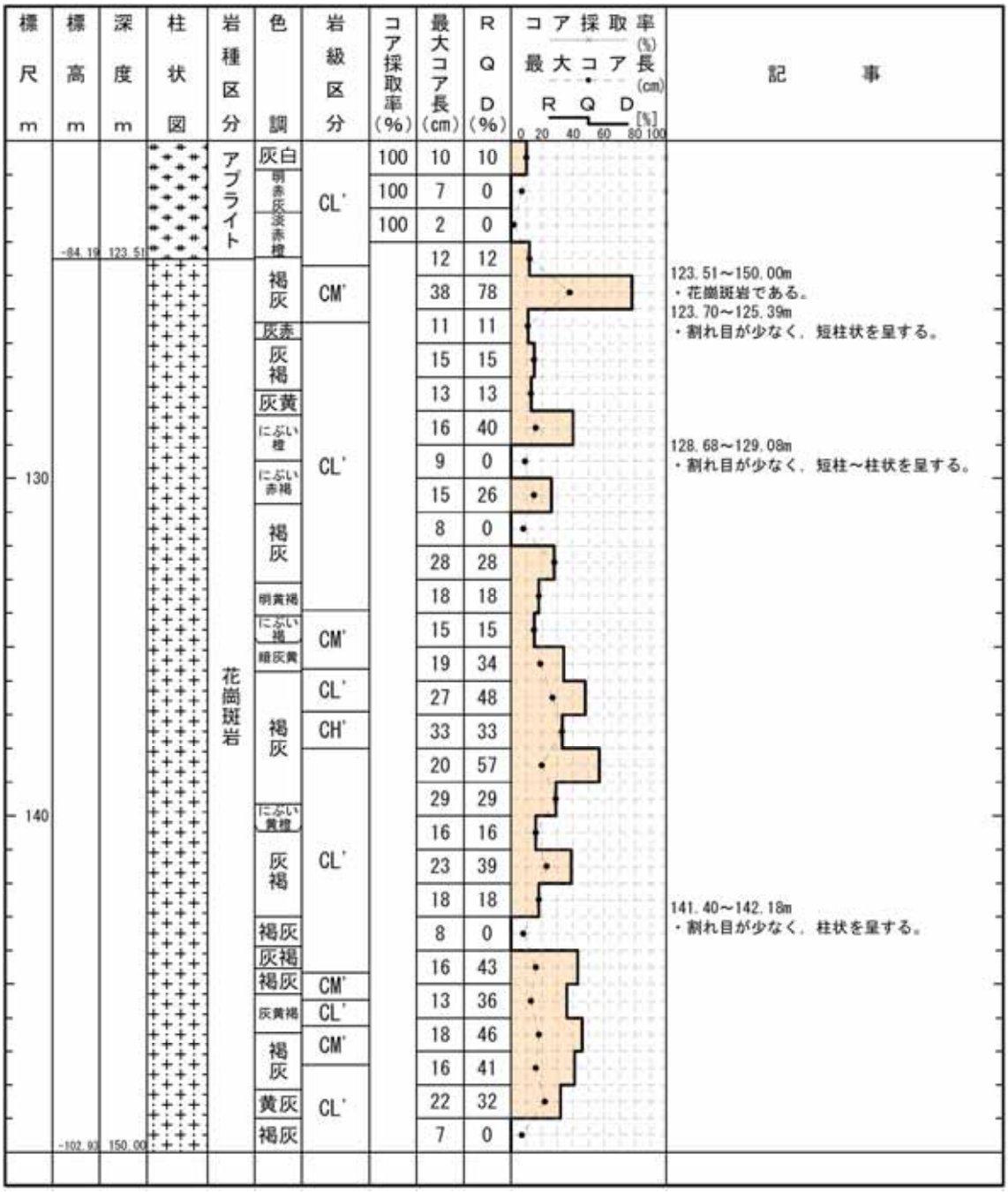
H24－B11－2

柱状図(90.00m～120.00m)



H24－B11－2

柱状図(120.00m～150.00m)



H24－B11－2

コア写真 (0.00m～18.00m)

H24－B11－2

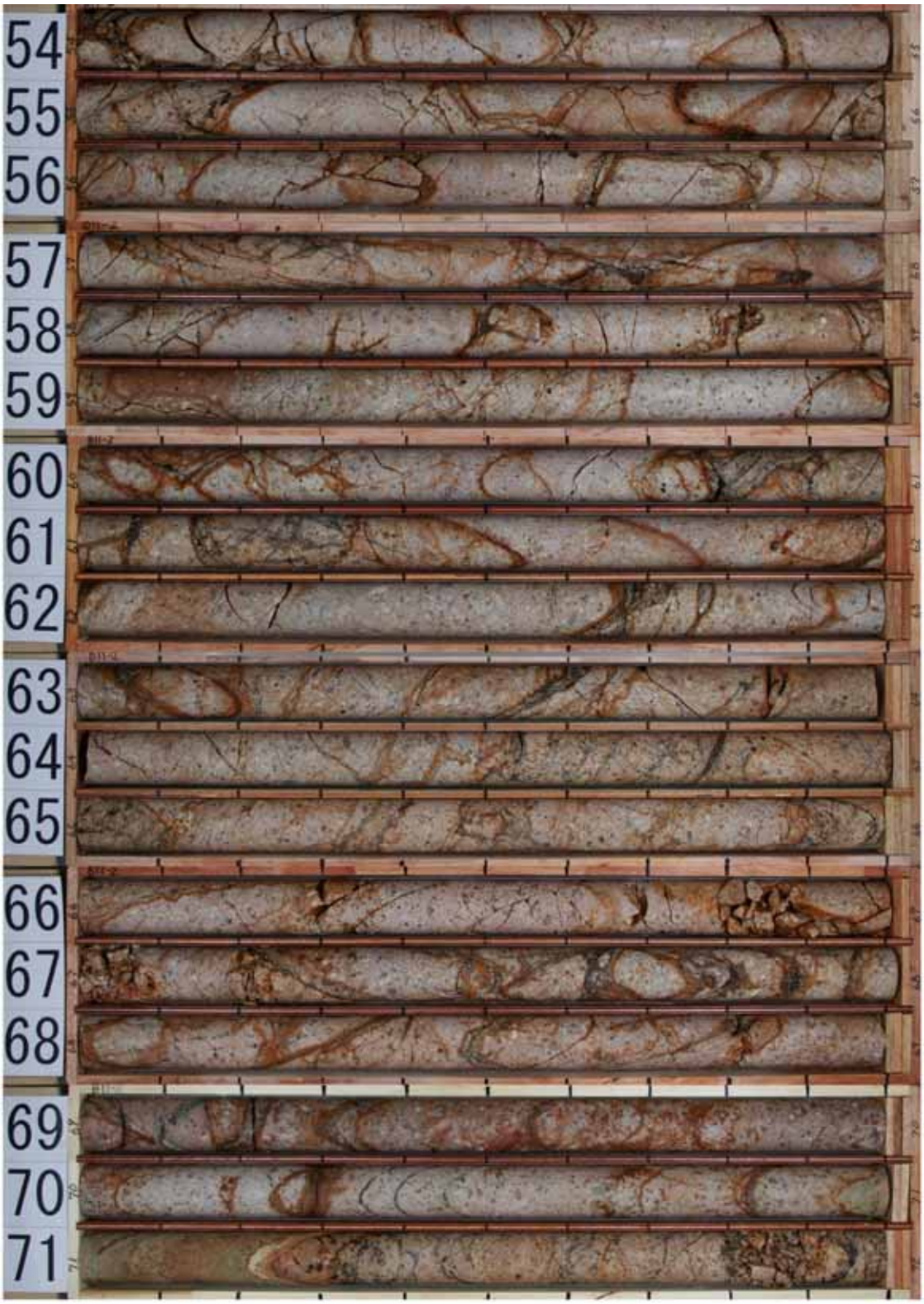
コア写真（18.00m～36.00m）

H24－B11－2

コア写真 (36.00m～54.00m)

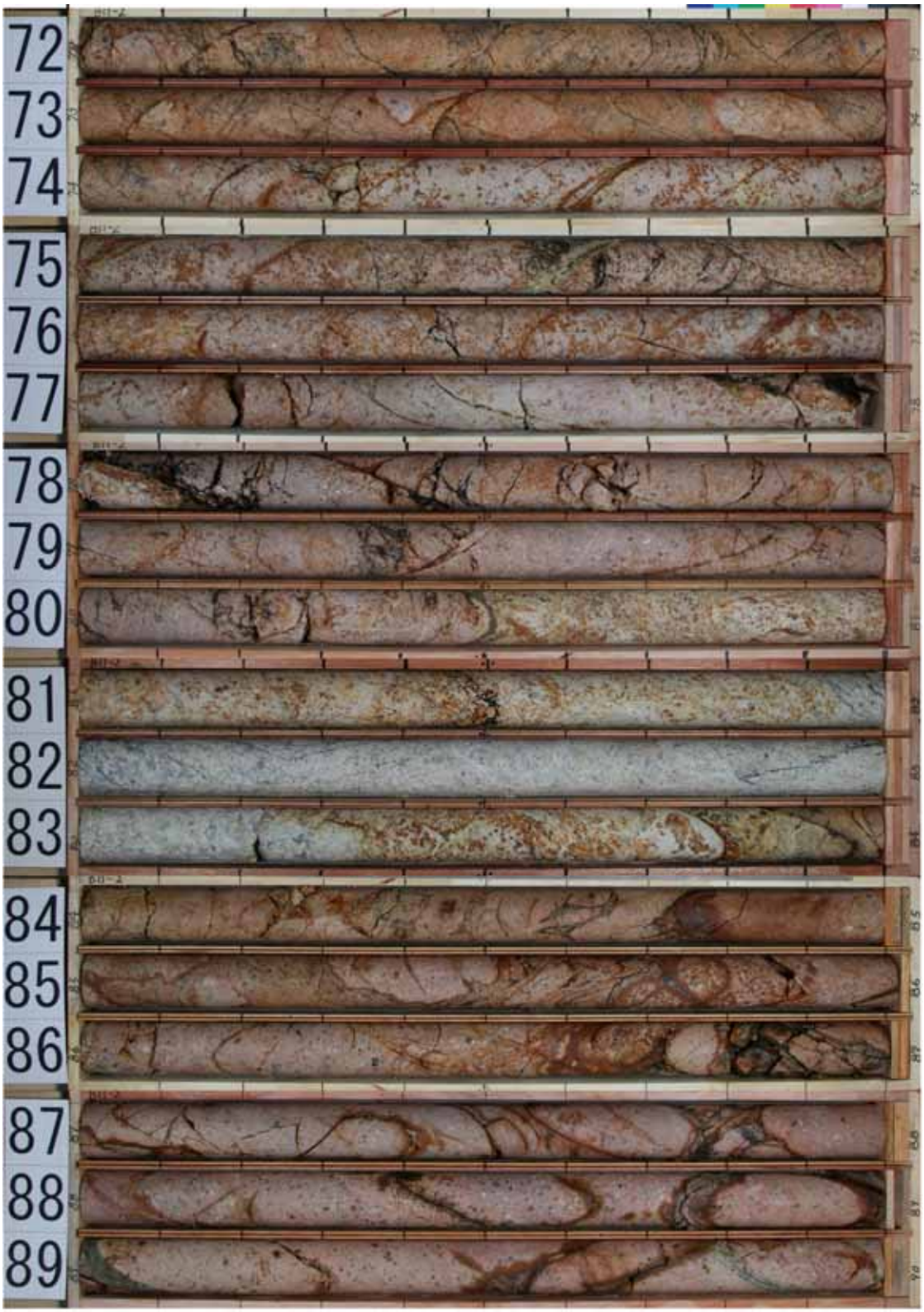
H24－B11－2

コア写真 (54.00m～72.00m)



H24－B11－2

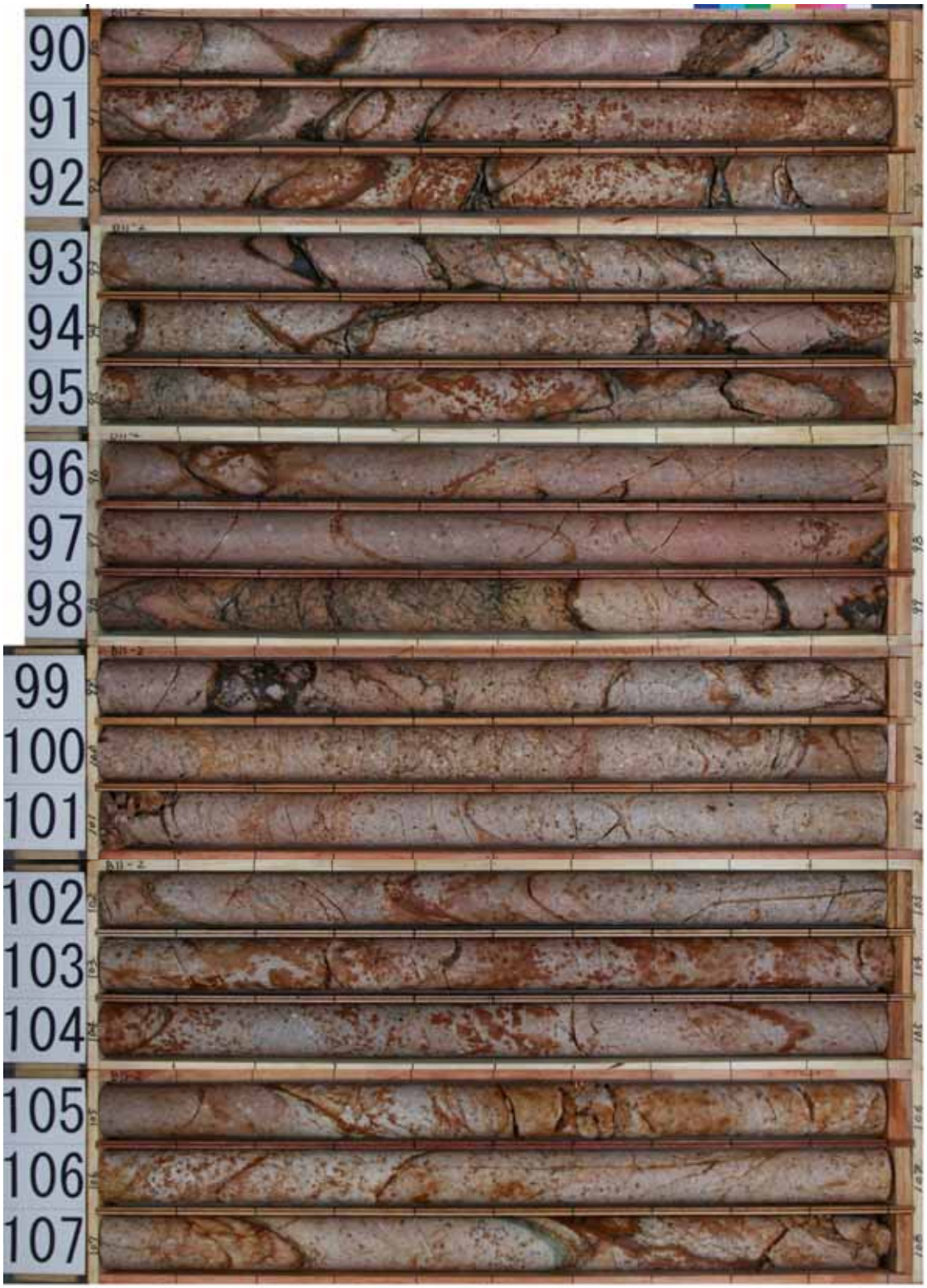
コア写真 (72.00m～90.00m)



H24－B11－2

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真 (90.00m～108.00m)



H24－B11－2

コア写真（108.00m～126.00m）

H24－B11－2

コア写真（126.00m～144.00m）

H24－B11－2

コア写真（144.00m～150.00m）

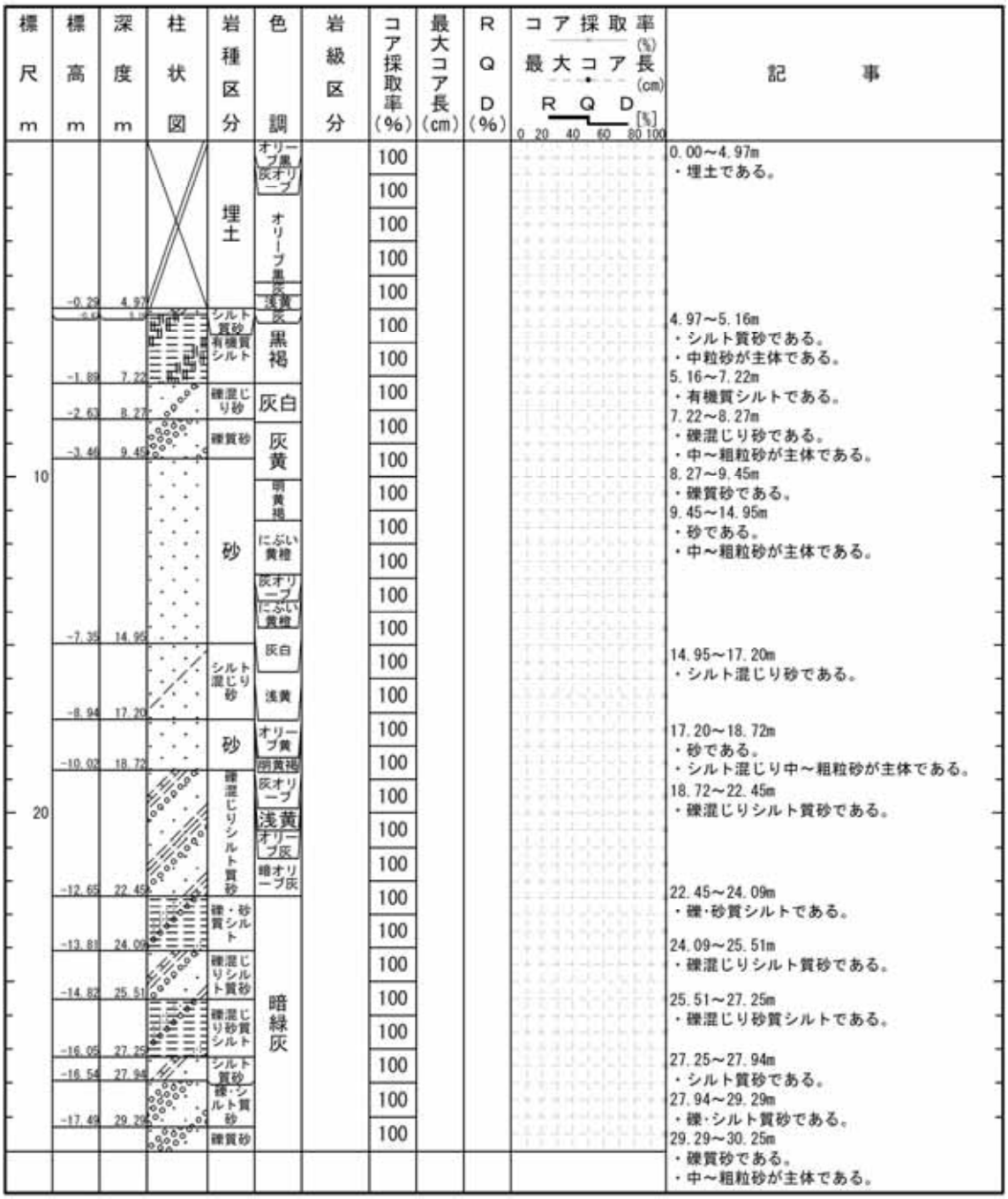
H24－B8－22

余白

H24－B8－22

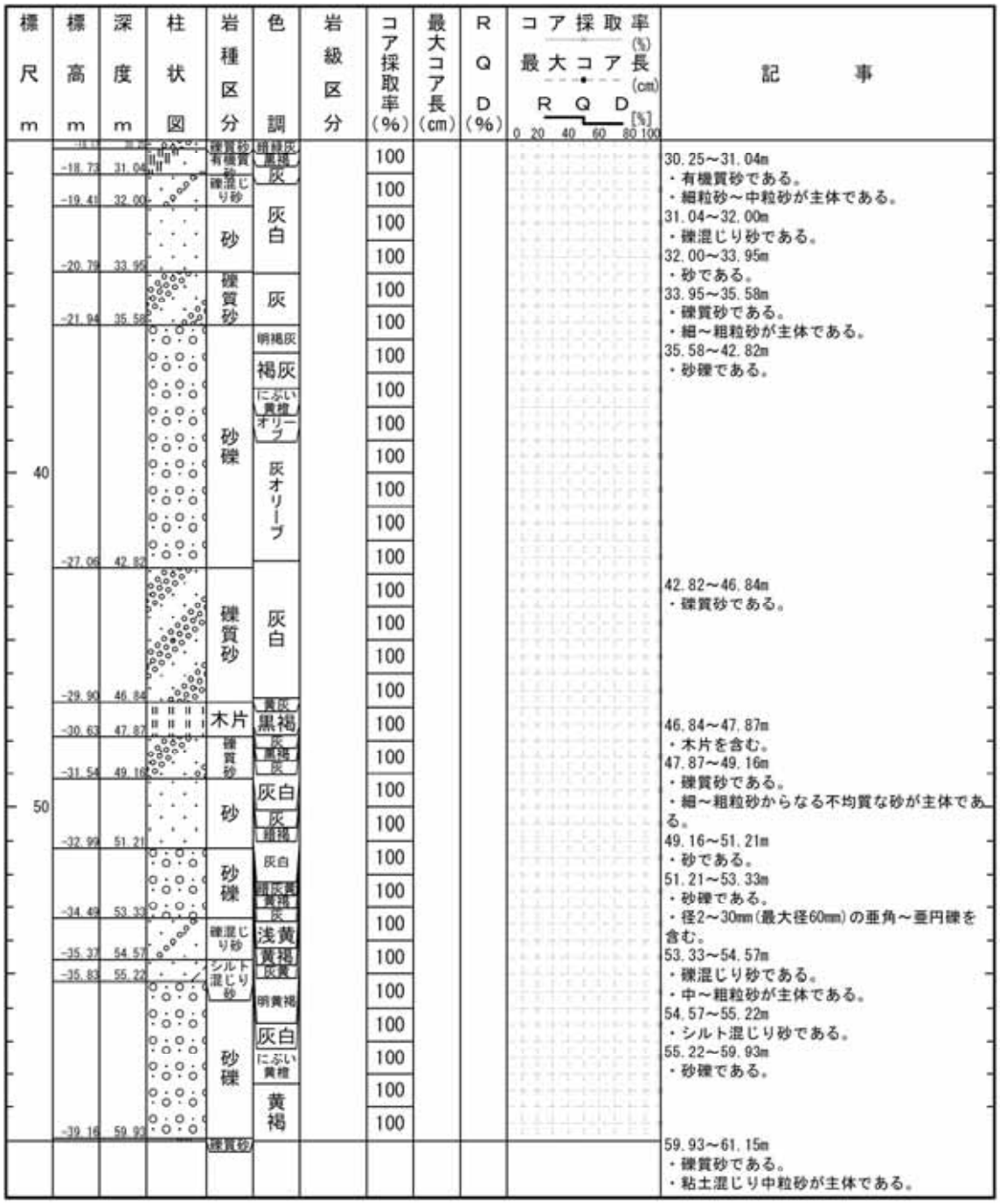
柱状図(0.00m～30.00m)

H24-B8-22	孔口標高	T.P. 3.22m	掘削長	240.00m



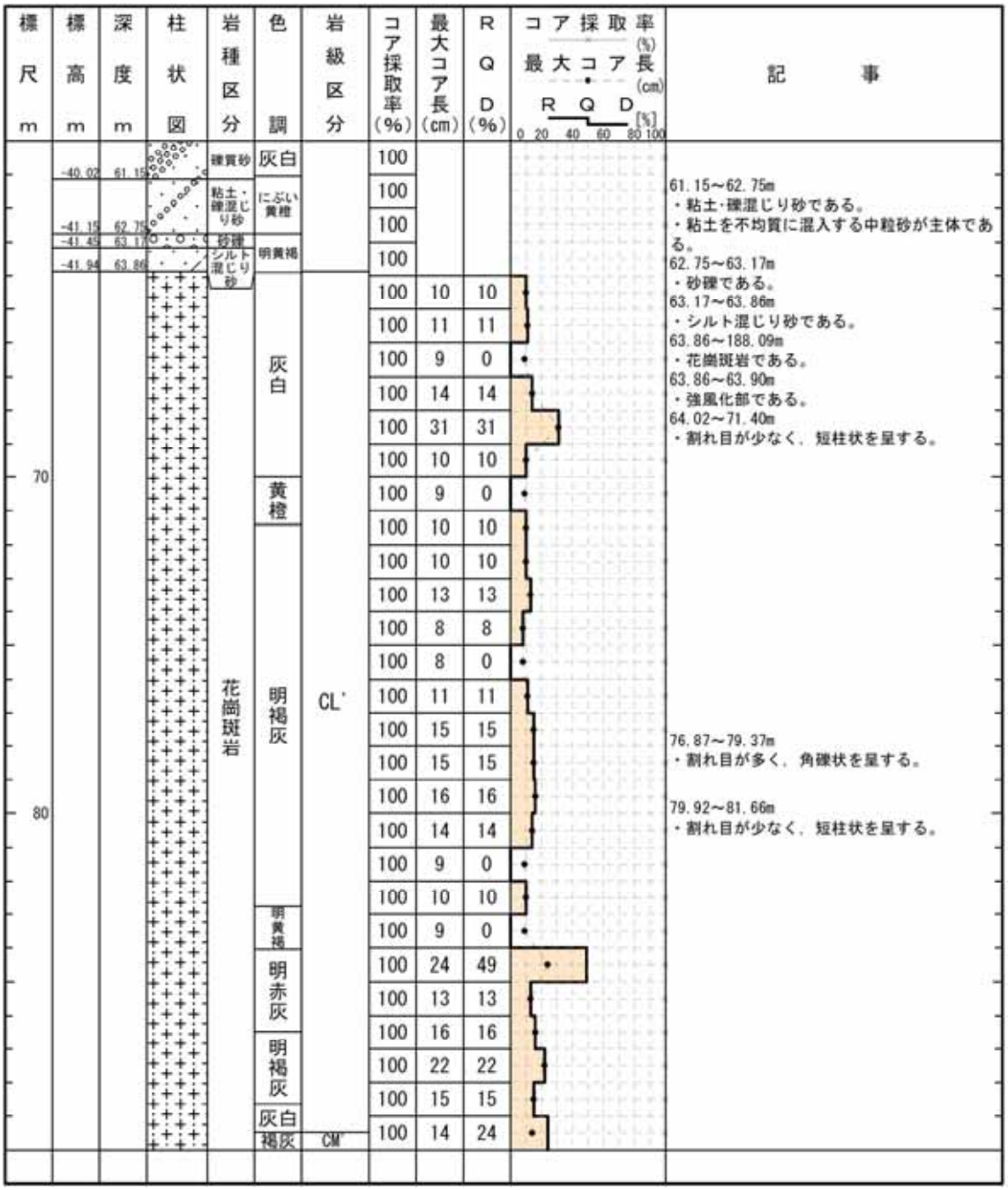
第536回審査会合
机上配付資料3 再掲

柱状図(30.00m～60.00m)



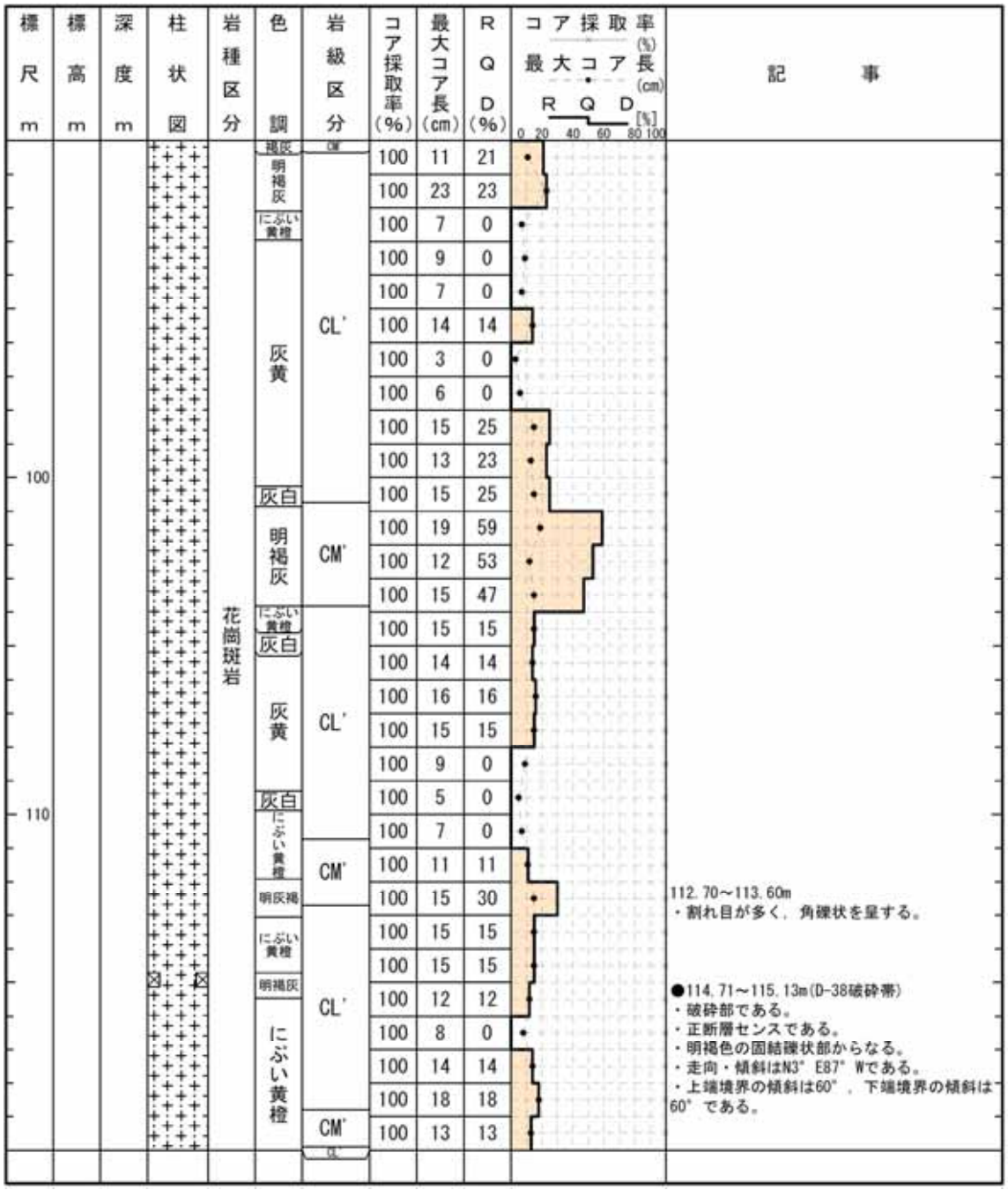
第536回審査会合
机上配付資料3 再掲

柱状図(60.00m～90.00m)



第536回審査会合
机上配付資料3 再掲

柱状図(90.00m～120.00m)



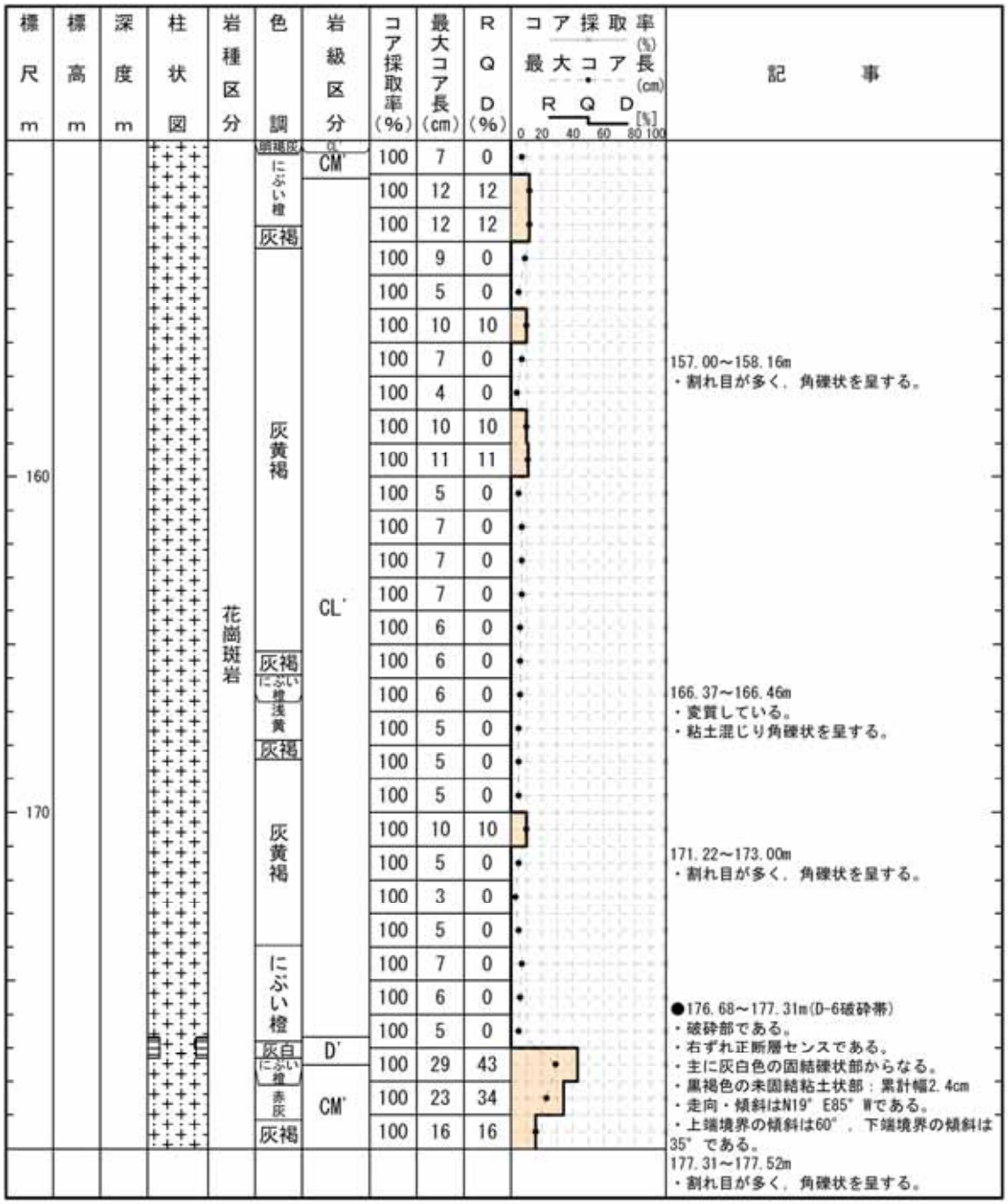
第536回審査会合
机上配付資料3 修正

柱状図(120.00m～150.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) / 最大コア長(cm) / RQD(%) [%] 0 20 40 60 80 100	記事
				花崗斑岩	にぶい黄橙	CL'	100	13	25		
					灰黄	CH'	100	18	49		
						CL'	100	27	27		
					にぶい黄橙		100	22	22		
					灰黄褐		100	13	13		
							100	8	0		125.93～125.96m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
						CM'	100	18	48		
							100	26	68		
					灰白	CL'	100	20	20		
					にぶい橙		100	12	12		
130						CM'	100	11	11		
					灰黄褐	CL'	100	6	0		
							100	8	0		
							100	22	22		
					にぶい橙		100	6	0		
					灰黄褐		100	6	0		
							100	14	14		136.50～136.68m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
					明褐灰	CM'	100	39	56		
					灰黄褐	CL'					
						CM'	100	25	42		
						CL'	100	15	15		
140							100	16	26		
					にぶい赤橙		100	6	0		141.46～143.52m ・割れ目が多く，細礫状を呈する。
					褐灰		100	2	0		
							100	7	0		●143.52～143.76m(D-7破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・褐灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN17°E86°Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・下端境界の傾斜は60°である。
							100	4	0		
					明褐灰		100	8	0		
							100	5	0		
					灰黄褐		100	9	0		143.76～144.32m ・割れ目が多く，角礫状を呈する。
					にぶい橙		100	5	0		
					明褐灰		100	15	15		

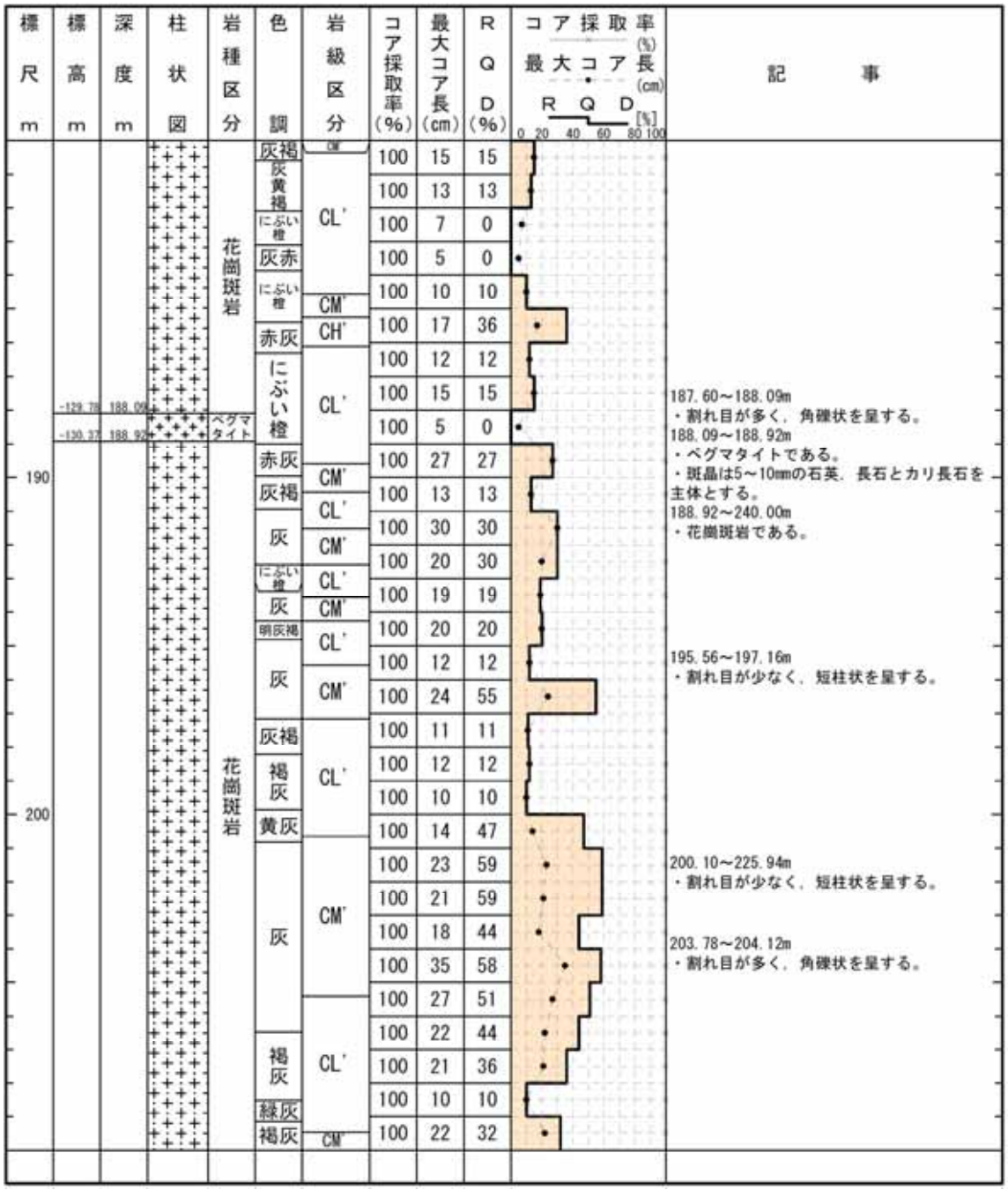
H24－B8－22

柱状図(150.00m～180.00m)



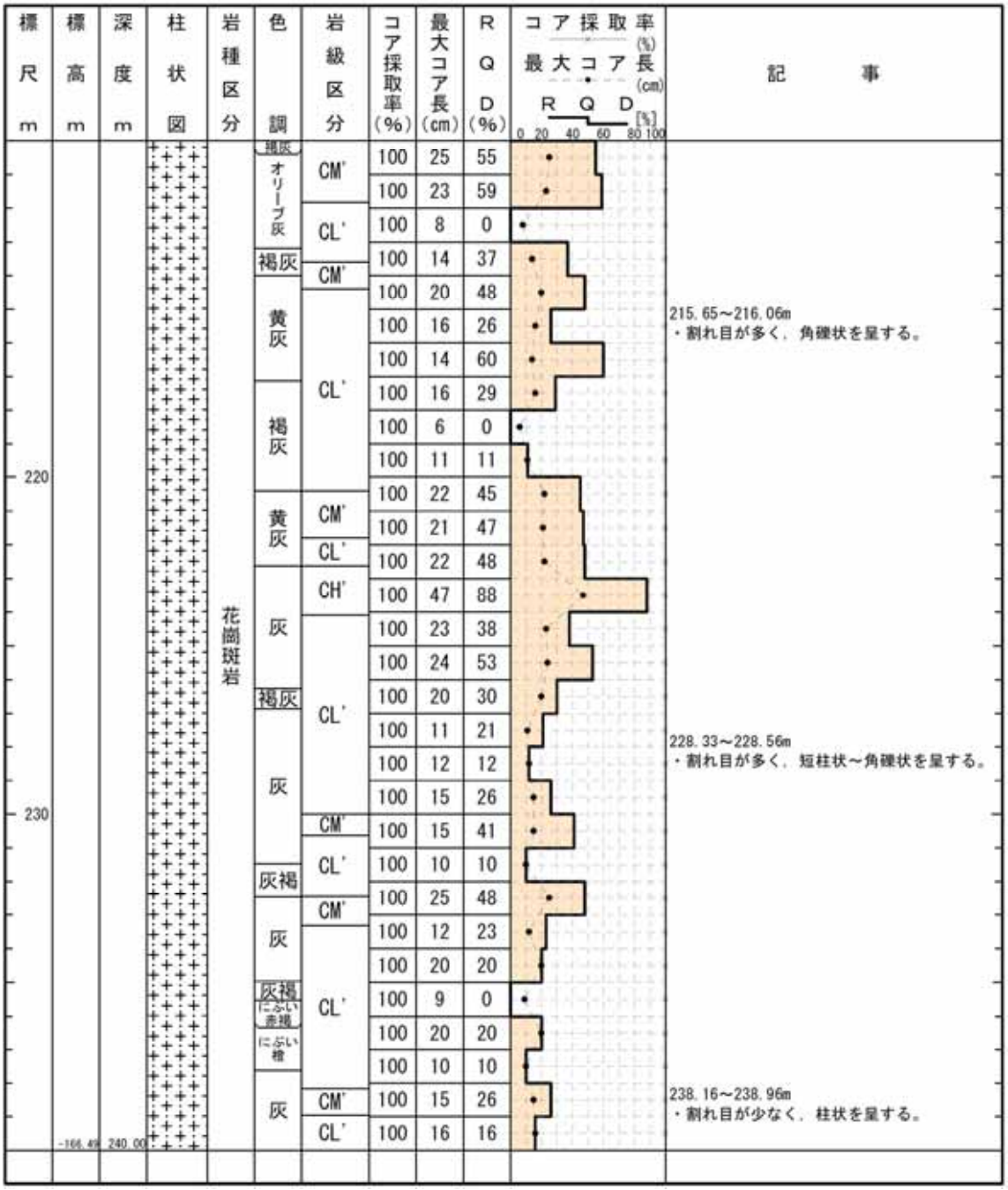
第536回審査会合
机上配付資料3 再掲

柱状図(180.00m～210.00m)



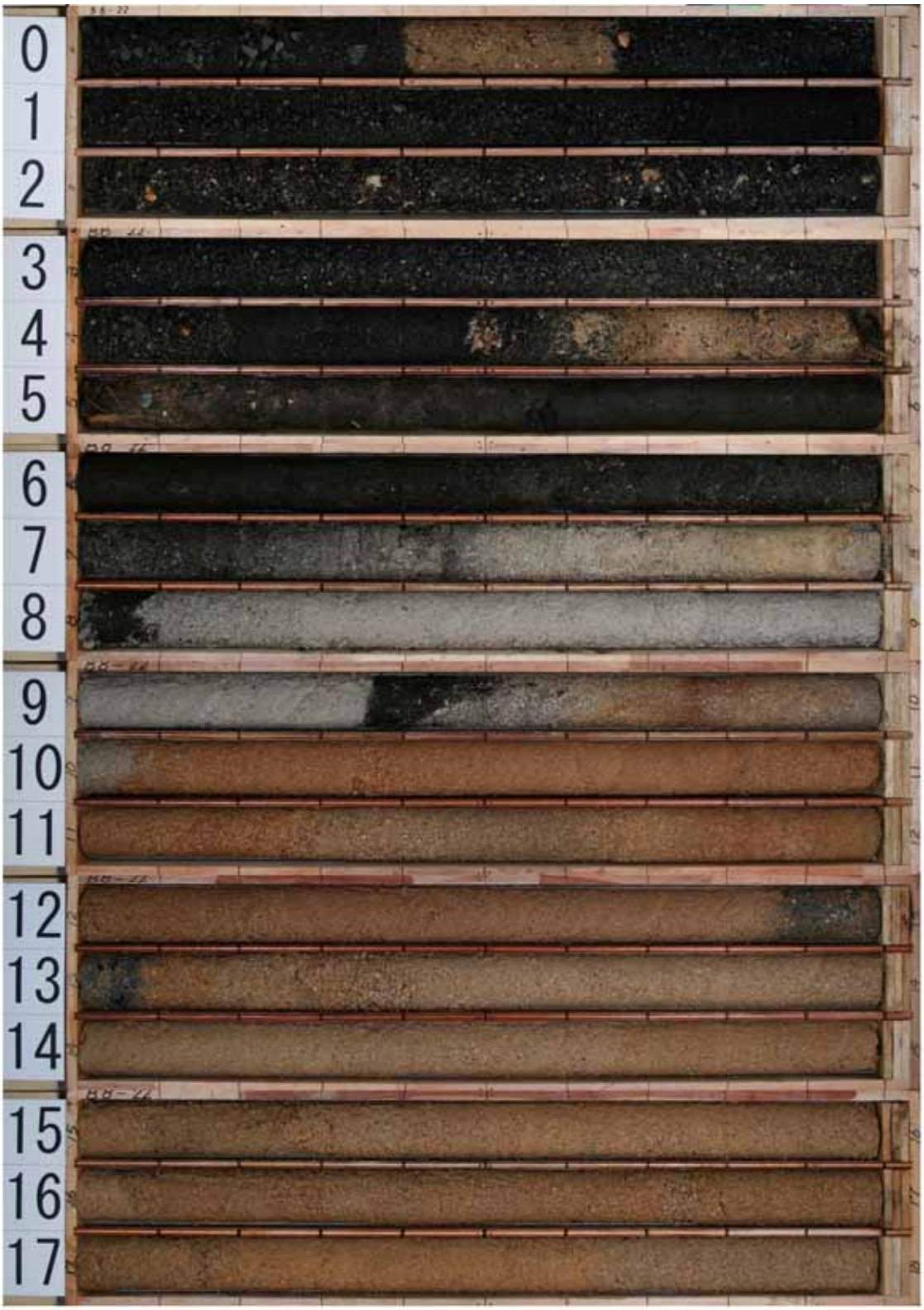
H24－B8－22

柱状図(210.00m～240.00m)



H24－B8－22

コア写真 (0.00m～18.00m)



H24－B8－22

コア写真 (18.00m～36.00m)

H24－B8－22

コア写真 (36.00m～54.00m)

H24－B8－22

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

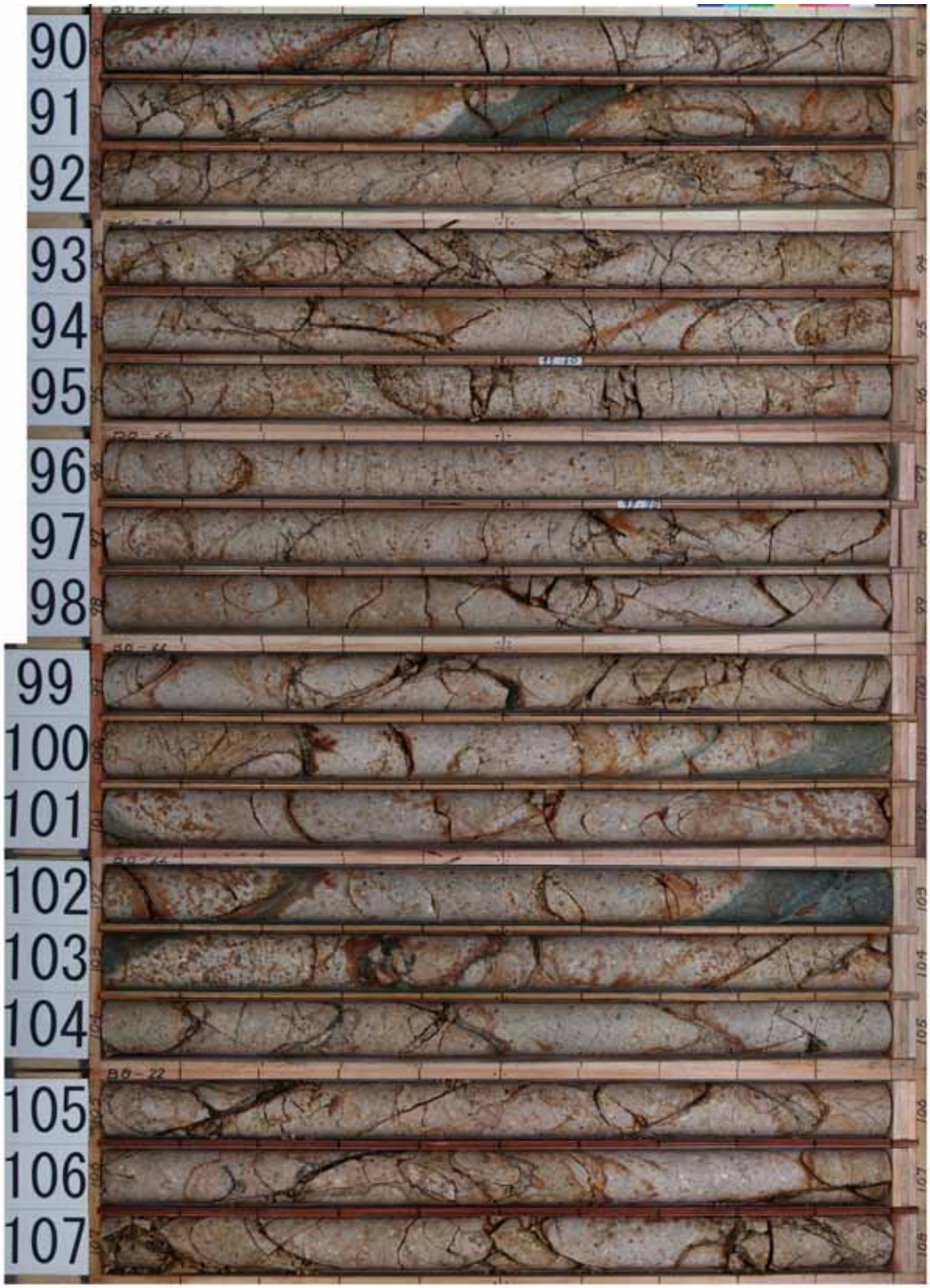
コア写真 (54.00m～72.00m)

H24－B8－22

コア写真 (72.00m～90.00m)

H24－B8－22

コア写真 (90.00m～108.00m)



H24－B8－22

コア写真（108.00m～126.00m）

H24－B8－22

コア写真 (126.00m～144.00m)

H24－B8－22

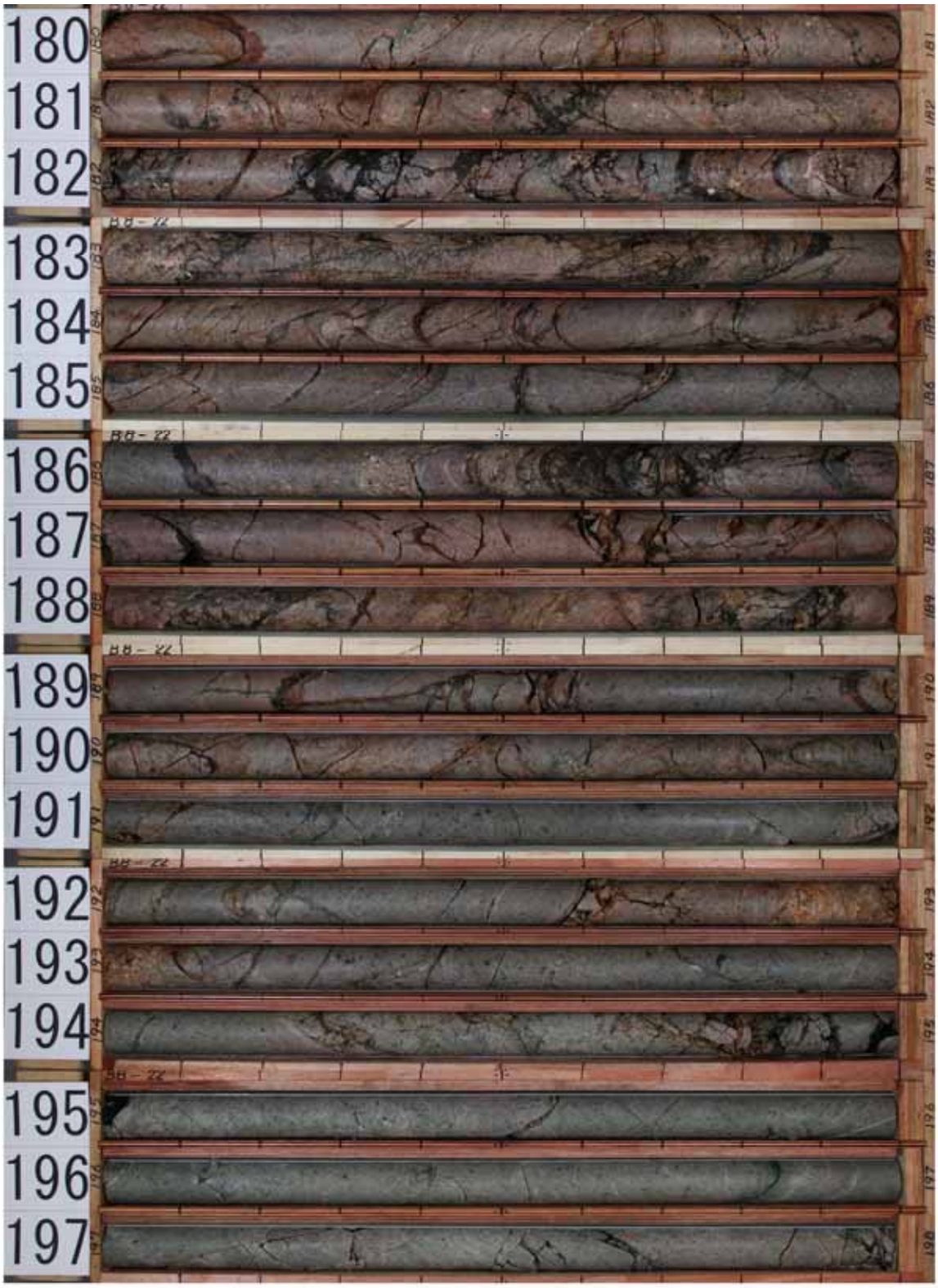
コア写真 (144.00m～162.00m)

H24－B8－22

コア写真 (162.00m～180.00m)

H24－B8－22

コア写真（180.00m～198.00m）



H24－B8－22

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真（198.00m～216.00m）

H24－B8－22

コア写真 (216.00m～234.00m)

H24－B8－22

コア写真 (234.00m～240.00m)

H20－①－9

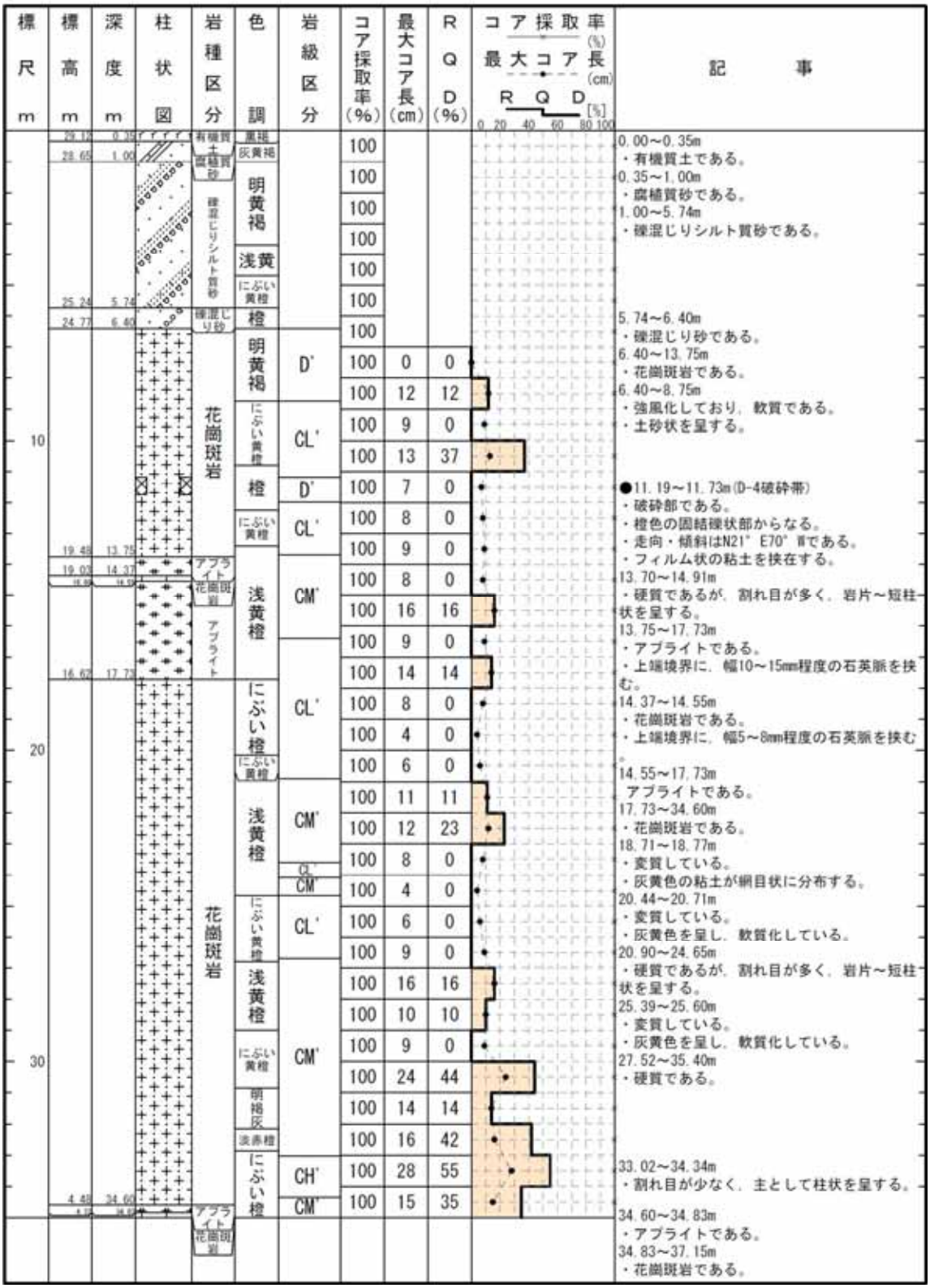
余白

第536回審査会合
机上配付資料3 修正

柱状図(00.00m～35.00m)

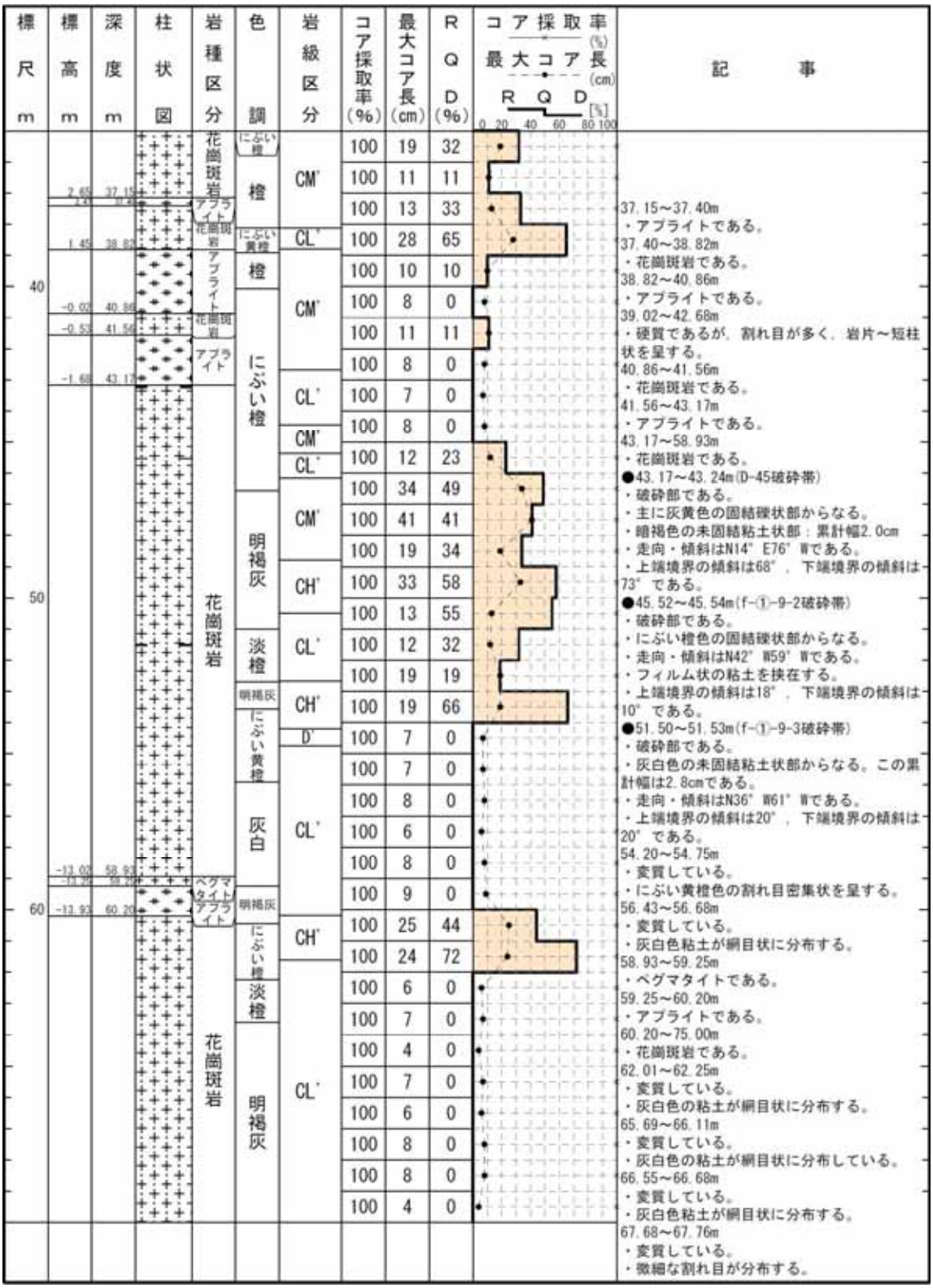
H20-①-9

孔口標高	T.P. 29.37m	掘削長	75.00m



第536回審査会合
机上配付資料3 修正

柱状図(35.00m～70.00m)



第536回審査会合
机上配付資料3 修正

柱状図(70.00m～75.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%) 最大コア長(cm) RQD[%] 0 20 40 60 80 100	記事
	-24.58	75.00		花崗斑岩	明褐灰 明黄褐 黒褐 明褐灰 灰白 明褐灰	CL' D' CM	100 100 100 100 100	6 3 7 7 9	0 0 0 0 0		●71.43～71.48m(f-4-5破砕帯) ・破砕部である。 ・明黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN80°W69°Nである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・下端境界の傾斜は72°である。 72.58～72.80m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 73.39～73.62m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ●73.91～74.75m(D-5破砕帯) ・破砕部である。 ・主に灰白色の固結礫状部からなる。 ・暗褐灰色の未固結粘土状部：累計幅0.5cm ・走向・傾斜はN9°W84°Wである。 ・上端境界の傾斜は3°，下端境界の傾斜は69°である。

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

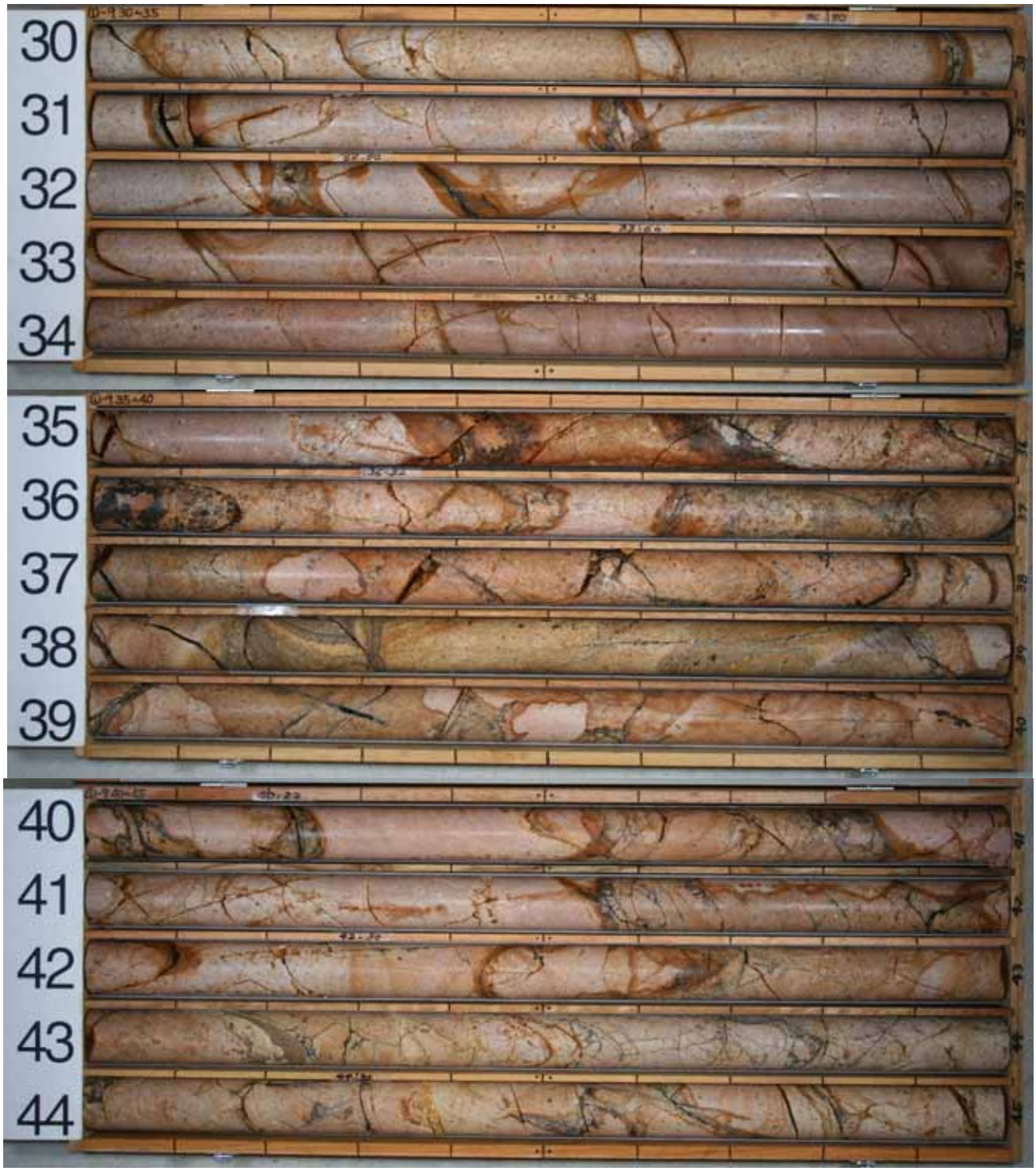
コア写真(0.00m～15.00m)

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真(15.00m～30.00m)

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真(30.00m～45.00m)



第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真(45.00m～60.00m)

第536回審査会合
机上配付資料3　再掲

コア写真(60.00m～75.00m)

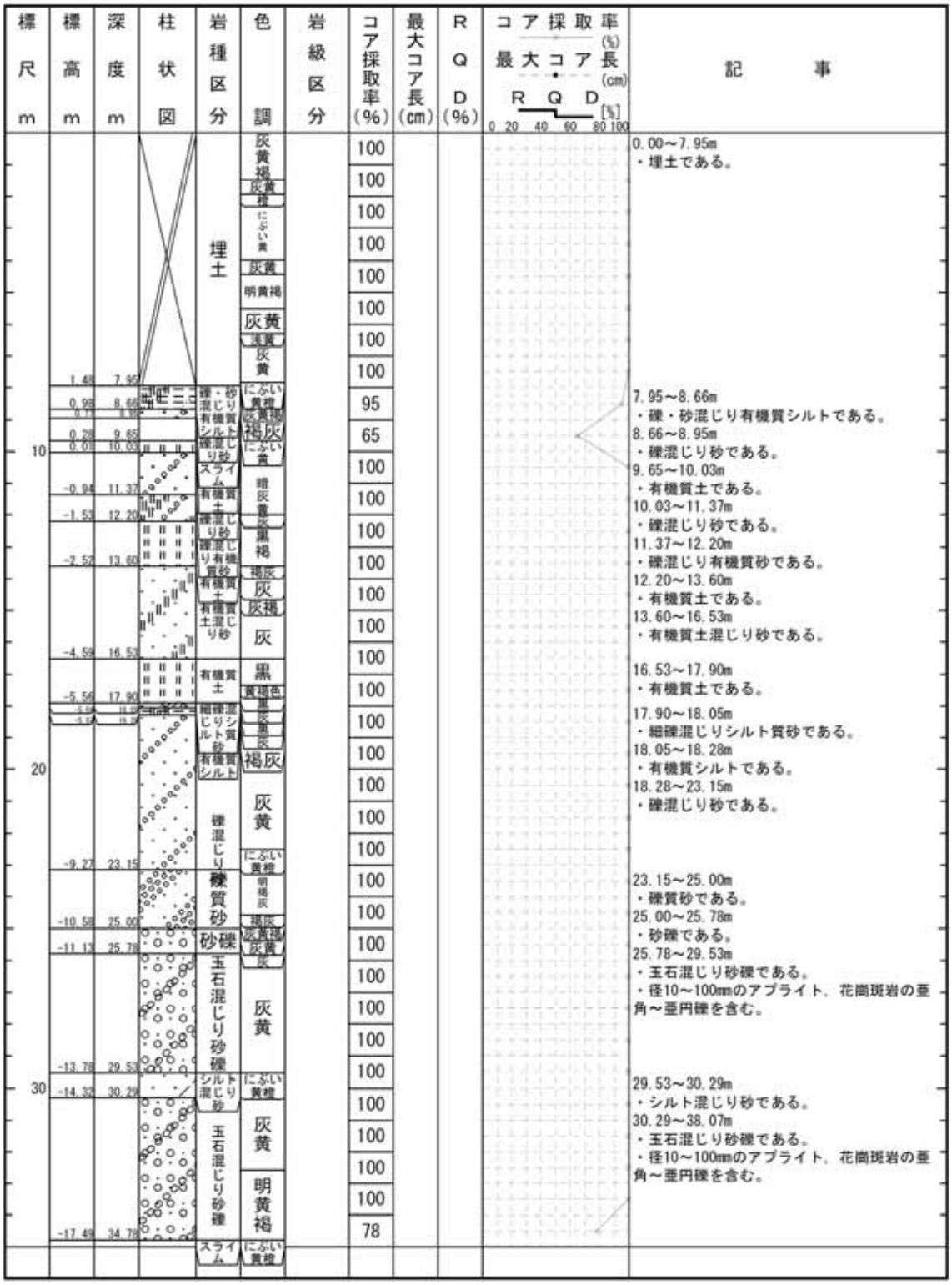
H24－B11－1

余白

H24－B11－1

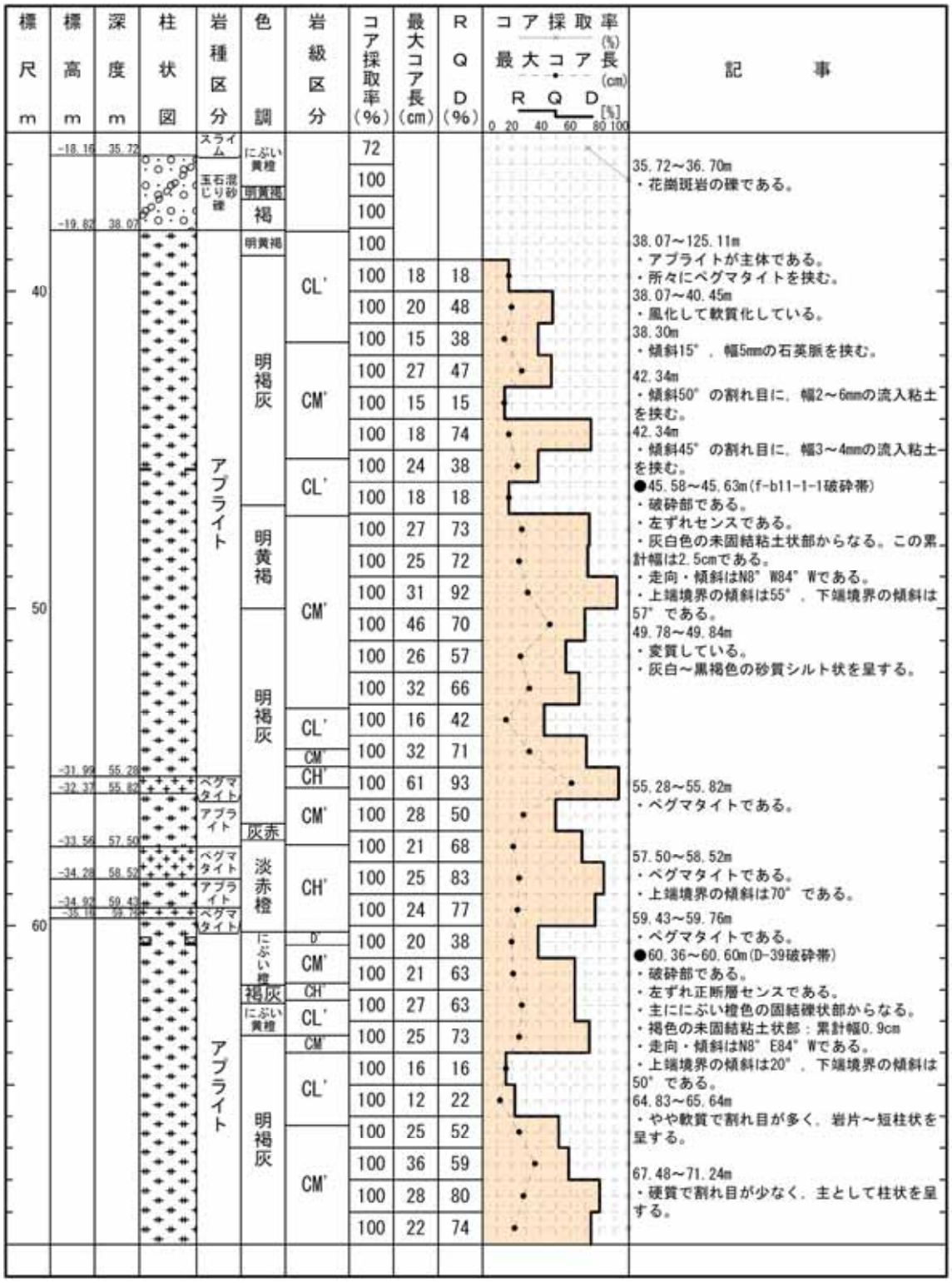
柱状図(00.00m～35.00m)

H24-B11-1	孔口標高	T.P.　7.10m	掘削長	150.00m



H24－B11－1

柱状図(35.00m～70.00m)



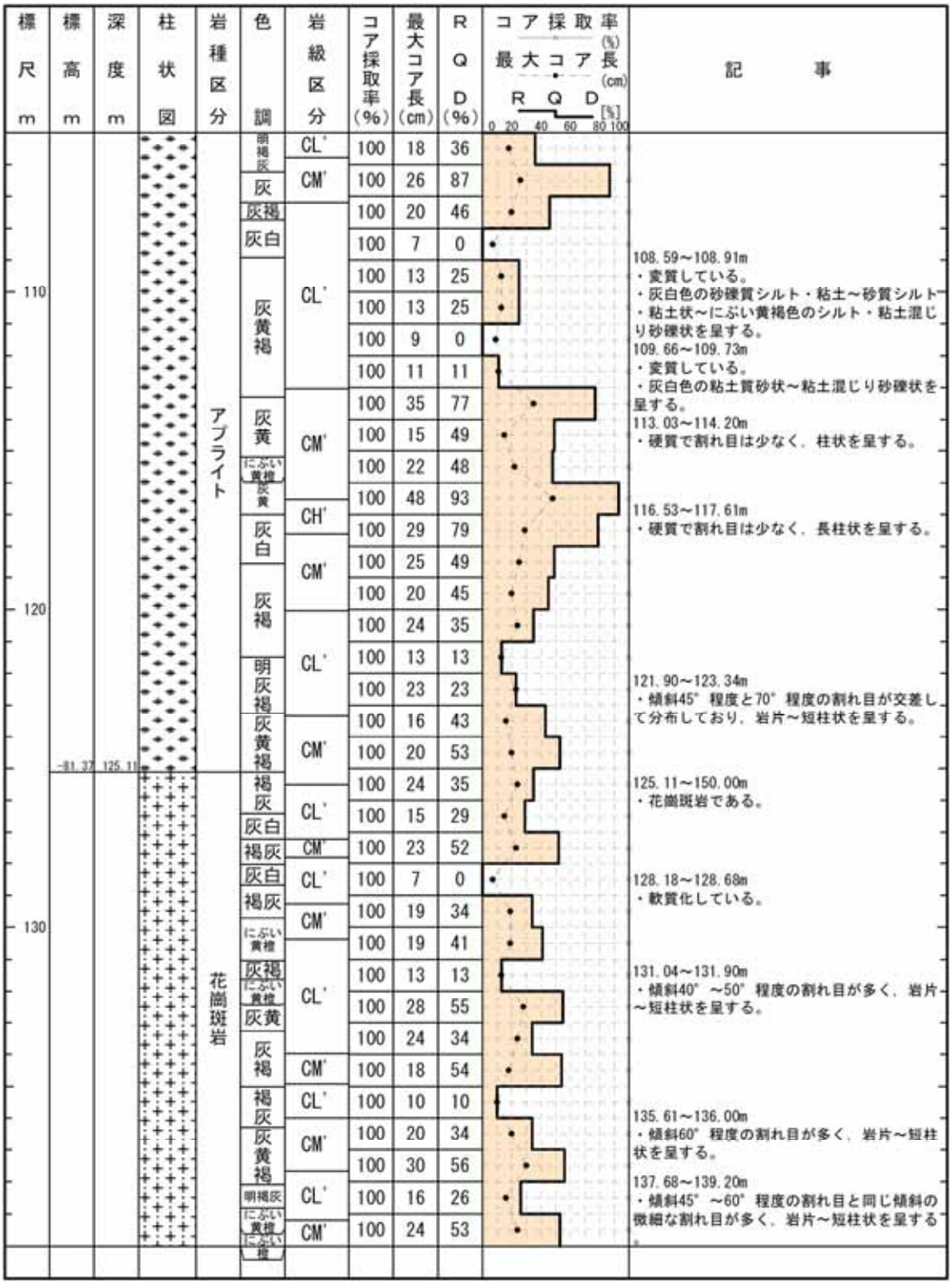
H24－B11－1

柱状図(70.00m～105.00m)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率(%)	最大コア長(cm)	RQD(%)	コア採取率(%)・最大コア長(cm)・RQD(%)	記事
				アプライト	明褐灰	CM'	100	24	63		
							100	21	54		
						CL'	100	28	58		72.39～72.63m ・変質している。 ・浅黄橙色のシルト混じり砂礫状を呈する。
					にぶい黄橙	CM'	100	22	91		
					褐灰	CH'	100	31	89		73.51～74.70m ・硬質で割れ目が少なく、長柱状を呈する。
						CM'	100	30	68		
					明褐灰		100	27	86		
						CL'	100	14	54		76.68～77.80m ・割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。
						CM'	100	8	0		
							100	24	24		
80					褐灰		100	19	92		
							100	27	81		80.74～83.23m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。
					明褐灰		100	42	89		
						CL'	100	24	49		
							100	7	0		83.85m ・傾斜45°、幅5mmの石英脈を挟む。
							100	9	0		
							100	14	14		
					浅黄橙		100	8	0		87.52～88.93m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。
							100	42	0		
					明褐灰	CM'	100	20	31		●88.93～88.97m(D-5破砕帯) ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・主に淡黄色の固結礫状部からなる。 ・淡黄色の未固結粘土状部：累計幅0.3cm ・走向・傾斜はN4°E81°Wである。 ・上端境界の傾斜は53°、下端境界の傾斜は50°である。
90							100	18	67		
						CL'	100	13	23		
							100	19	19		
							100	15	28		
							100	10	20		
							100	11	11		94.97～95.45m ・割れ目が多く、岩片状を呈する。
							100	10	10		95.87～96.05m ・変質して軟質化している。
							100	25	35		・割れ目が多く、岩片状を呈する。
					浅黄橙	D'	100	0	0		●97.87～99.00m ・破砕部である。 ・左ずれ正断層である。 ・主に浅黄橙色の固結礫状部からなる。 ・黄褐色の未固結粘土状部：累計幅2.5cm ・走向・傾斜はN4°E72°Wである。 ・上端境界の傾斜は50°、下端境界の傾斜は60°である。
					灰白	CL'	100	9	0		
100						CM'	100	17	27		
					にぶい黄橙	CL'	100	13	23		
					明褐灰	CM'	100	40	82		99.64～100.46m ・傾斜45°程度の割れ目が多く、岩片状を呈する。
						CL'	100	19	51		
							100	10	10		103.32～104.86m ・縦方向の連続する割れ目と、これに斜交する割れ目が分布する。

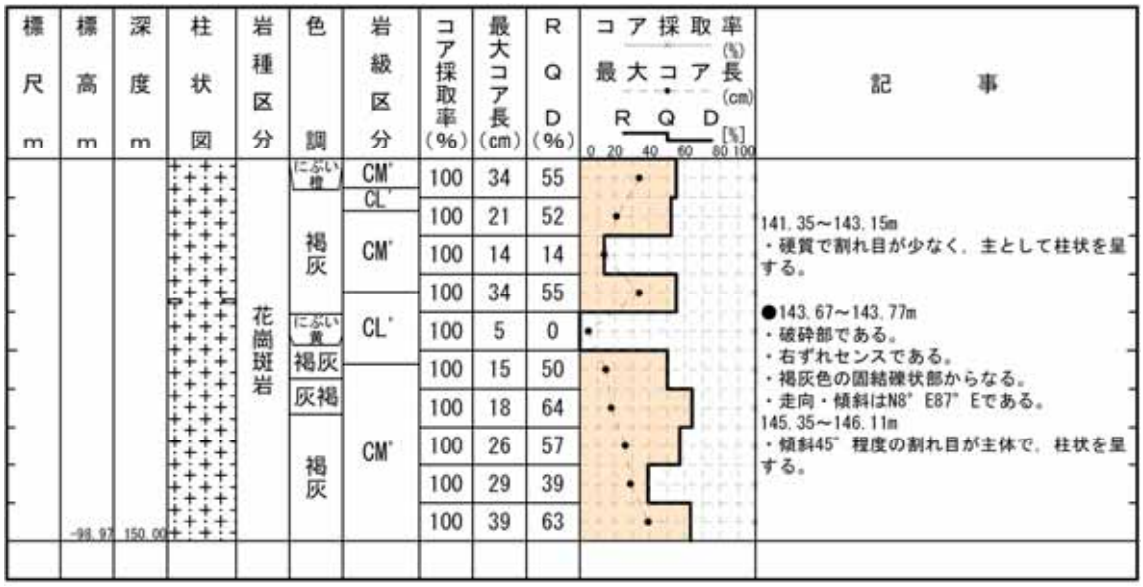
H24－B11－1

柱状図(105.00m～140.00m)



H24－B11－1

柱状図(140.00m～150.00m)



H24－B11－1

コア写真 (00.00m～15.00m)

H24－B11－1

コア写真 (15.00m～30.00m)

H24－B11－1

コア写真 (30.00m～45.00m)